

1350迄 (1585件)

- 1331年-08:00|インドネシア| |||<即位>パナヒ・スルタン「Panji Malamo」(~1332年)
- 1331年-04:00|ロシア| |||<死去>ウラジミール・スズダリ大公「スズダリ公アレクサンドル・ウアシエウイチ」
- 1331年-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「モスクワ公イワン1世ダニロウイチ」(~13400331死去)
- 1331年-04:00|ロシア| |||<即位>ロストフ・ウスレチンスキー公「アントレイ・フォートウイチ」(~1360年)
- 1331年-04:00|ロシア| |||<復位>プスコフ公「アレクサンドル・ミハイロウイチ」(~1337年)
- 1331年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンテリア公「マルコ・グラーテニコ」(~1332年)
- 1331年-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ニザミテ・イン・アト・ハシヤ」(~1348年)
- 1331年-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「ネトラス」ジョチ・ウルの封臣(~1362年)
- 1331年-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク伯「ヨハン4世」(~1356年)
- 1331年-01:00|オランダ| |||ゲルトの半分がスヘルト・ヘンボスに渡される
- 1331年 00:00|イギリス| |||<就任>第2代ケント伯「エドマント」(~13311005死去)
- 1331年 00:00|イギリス| |||<就任>アランデル伯「リチャード・フィッツアラ」(~13760124死去)
- 1331年 00:00|モロッコ| |||<即位>マリ朝スルタン「アブー・アルハサン・アリー」(~1348年)
- 1331年1月9日-09:00|日本|福井県|元徳2年12月|幕府、聖護院尊珍法親王を越前へ配流
- 1331年2月4日-09:00|日本| ||元徳2年12月27日|<任命>六波羅探題北方・山城・山城・播磨国守護「北条仲時(極楽寺流普恩寺氏)」(~元弘3(1333)年5月9日)
- 1331年2月8日-09:00|日本| ||元徳3年|<刊行>吉田兼好「徒然草」
- 1331年2月8日-09:00|日本| ||元弘1;元徳3年|<任命>甲斐国守護「武田政義」(~康永2(1343)年戦死、以後、信武、信成、信春、信満、信元、信重、信守、信昌、信繩、信虎、晴信(信玄)と続く~元亀4(1573)年4月12日死去)
- 1331年2月8日-09:00|日本| ||元弘1;元徳3年|<任命>淡路国守護「長沼秀行」(~1333年)
- 1331年2月8日-09:00|日本| ||元弘1;元徳3年|<任命>備前国守護「佐々木(加地)氏」(~1333年)
- 1331年2月8日-09:00|日本|京都府京都市東山区|元徳3年|この年、八坂神社祇園絵図(隆円)できる
- 1331年2月8日-08:00|中国| ||元・至順2年|<即位>天山ウイグル王国行「イトタヒ・ノドゥ(太平奴)」セキの弟(~1335年)
- 1331年2月8日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至順1年|中国でペストが流行
- 1331年2月8日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至順2年1月|元、雲南の反乱が鎮圧される
- 1331年2月10日-03:00|サウジアラビア| |||<復位>メッカ・シャリフ「ルマイタ・ブン・アビー・ヌマイ・アサド・アルデイン」(~1343年)
- 1331年3月-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「イワン・アルクサンダル」(~13710217死去)
- 1331年3月2日-02:00|トルコ| |||オスマン・トルコ軍がビザンチンからニケーアを奪取
- 1331年4月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「ウグッチヨロ・ダ・ウァルト・ラゴン」
- 1331年4月16日-09:00|日本| ||元徳3年3月9日|<死去>狛朝葛(85歳) 雅楽家
- 1331年4月17日 00:00|イギリス| |||<死去>6代オックスフォード伯「ロバート・ウァイ」
- 1331年4月17日 00:00|イギリス| |||<就任>7代オックスフォード伯「ジョン・ウァイ」先代の甥(~13600124死去)
- 1331年6月2日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副王「アルスター伯ウリアム・ド・バーク」(~11月)
- 1331年6月3日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副王代行「アンソニー・デ・レイシ」(~13321203)
- 1331年6月10日-09:00|日本| ||元徳3年5月5日|六波羅、後醍醐天皇(43)の倒幕計画を探知、長崎高貞らを派遣し、日野俊基、文観(53)らを捕らえ、鎌倉に送る/元弘の変
- 1331年8月 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Guillaume de Cheney卿」(~同年) => 「Thomas Wake」(~1333年)
- 1331年8月22日-01:00|セルビア| |||<死去>第8代セルビア王「ステファン・ウロシュ3世デ・チャンスキ」
- 1331年8月22日-01:00|セルビア| |||<即位>第9代セルビア王「ステファン・ウロシュ4世トウシヤン」ステファン・ウロシュ3世デ・チャンスキの子(13310908戴冠式=>13460416、セルビア帝国皇帝~13551220、死去)
- 1331年9月7日-09:00|日本| ||元徳3年8月6日|北条高時(28)、内管領長崎高資討伐を謀り露見、長崎高頼の罪として陸奥国に配流
- 1331年9月11日-09:00|日本| ||元徳3;元弘1年8月9日|南朝が「元弘」に改元
- 1331年9月20日-01:00|モロコシ| |||<就任>モロコシ領主「カルロ・グリアマルティ(=カルロス1世)」ジエハから取り戻し統治(~13570815死去)、「アントニオ(=アントワーヌ)」(~13570527死去)
- 1331年9月26日-09:00|日本|奈良県|元徳3;元弘1年8月24日|鎌倉より京へ軍勢が差し向けられ、後醍醐天皇(43)、神器をもって奈良へ逃れる
- 1331年9月27日-09:00|日本| ||元徳3;元弘1年8月25日|六波羅、万里小路宣房(73)らを捕らえる
- 1331年9月29日-09:00|日本| ||元徳3;元弘1年8月27日|後醍醐天皇(43)、大和笠置寺に行幸/六波羅の兵が比叡山を攻撃、尊雲(23)・尊澄法親王は笠置山に逃れる
- 1331年10月5日 00:00|イギリス| |||<死去>第2代ケント伯「エドマント」
- 1331年10月5日 00:00|イギリス| |||<就任>第3代ケント伯「ジョン」(~13521226死去)
- 1331年10月7日-09:00|日本| ||元徳3;元弘1年9月5日|<死去>上総国守護「足利貞氏」(以後足利氏~1333年)
- 1331年10月13日-09:00|日本|大阪府南河内郡千早赤阪村|元徳3;元弘1年9月11日|楠木正成(37)ら河内・赤坂城で挙兵
- 1331年10月16日-09:00|日本|広島県福山市|元徳3;元弘1年9月14日|桜山茲俊が楠木正成に呼応して備後一宮で兵を挙げる
- 1331年10月22日-09:00|日本| ||元徳3;元弘1年9月20日|<踐祚>皇太子量仁親王、後伏見上皇院政(=>元弘2年3月22日北朝1代光厳天皇として即位~13330517)
- 1331年10月27日-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>アイユーブ朝(ハマー)第7代アミール「アルムアイヤド・アブルファイダウ」
- 1331年10月27日-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アイユーブ朝(ハマー)第8代アミール「アルムアッタルムハンマド」(~1341年死去)

1350迄 (1585件)

1331年10月30日-09:00|日本|京都府相楽郡笠置町|元徳3;元弘1年9月28日|幕府軍が笠置山を攻略
1331年10月31日-09:00|日本|京都府相楽郡笠置町|元徳3;元弘1年9月29日|幕府軍の笠置山攻略で脱出した後醍醐天皇が捕らえられる
1331年11月1日-09:00|日本| ||元徳3;元弘1年10月|<任命>常陸国守護職「佐竹貞義」
1331年11月6日-09:00|日本| ||元徳3年10月6日|後醍醐天皇、光厳天皇に神器を授与
1331年11月7日-09:00|日本|京都府京都市|元徳3年10月7日|法成寺無量寿院焼亡
1331年11月21日-09:00|日本|大阪府南河内郡千早赤阪村|元徳3年10月21日|河内・赤坂城が陥落し、楠木正成は脱出
1331年12月26日-02:00|トルコ| ||<死去>ラテン帝国皇帝「フィリップ2世」
1331年12月26日-01:00|アルバニア| ||<死去>アルバニア王国領主「タラント公フィリップ」
1331年12月26日-01:00|アルバニア| ||<就任>アルバニア王国摂政「カテリーナ(カテリーヌ・ド・ウァロ)」(~13321217)
1331年12月26日-01:00|アルバニア| ||<即位>アルバニア王国領主「タレント公ロベルト」(~13321217)
1332年-08:00|インドネシア| ||<即位>テルナテ・スルタン「Shah Alam」(~1343年)
1332年-04:30|アフガニスタン| ||<死去>カト朝マリク「Hafiz ibn Ghiyath-uddin」殺害される
1332年-04:30|アフガニスタン| ||<即位>カト朝マリク「Mu'izz-uddin Husayn ibn Ghiyath-uddin」(~1370年)
1332年-04:00|ロシア| ||<即位>スズダリ公「コンスタンチン・ウァシリウイチ」(~1341年)
1332年-03:30|イラン| ||<即位>カルト朝スルタン「ムスッティーン・フェイ・イブン・キヤスッティーン」(~1370年)
1332年-03:30|イラン| ||<即位>サラバダース王「Abd al-Razzaq ibn Fazlullah」(~1338年)
1332年-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「ウァーゴ・セーノ」(~1334年)
1332年-02:00|エストニア/デンマーク| ||<就任>デンマーク・エストニア総督「マルカート・ブライト」(~1335年死去)
1332年-01:00|フランス| ||<死去>オーベールニュ伯「ギョーム12世」
1332年-01:00|フランス| ||<就任>モンパリアル伯「モンフォール家アンリ」ティエリ3世の同族の甥孫、ホトンの妹アニスと結婚(~1367年)
1332年-01:00|フランス| ||<即位>ノルマンディー公「ジャン2世」フランス王フィリップ6世の長男(~1350年)
1332年-01:00|イタリア/フランス| ||<退任>サルツァ侯「マンフレート5世」
1332年-01:00|ドイツ| ||<就任>ニルンベルクがドイツ王から関税免除特権を授与
1332年 00:00|マリ/ニジェール| ||<即位>ソガイ王国国王「アリ・コソ」(~1340年)
1332年1月8日-02:00|トルコ| ||<即位>トレビゾント帝国第11代皇帝「マヌエル2世」(~1332.9)
1332年1月28日-09:00|日本| ||元徳4年|<任命>下野国守護「小山秀朝」(~1333年)
1332年1月28日-09:00|日本|奈良県高市郡高取町|元徳4;元弘2年|越智八郎邦澄が高取城築城
1332年2月2日-01:00|ドイツ| ||<死去>ハートン・ハートン辺境伯「ルトルフ3世」
1332年2月17日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|元徳4;元弘2年1月21日|桜山慈俊、一族若党20余人とともに、備後一宮の社壇に火をかけて滅ぶ
1332年3月21日-09:00|朝鮮| ||高麗・至順3年2月24日|<退任>高麗王「忠恵王」
1332年3月21日-09:00|朝鮮| ||高麗・至順3年2月24日|<復位>高麗王「忠肅王」(~13390503死去)
1332年4月2日-09:00|日本|新潟県佐渡市|元徳4;元弘2年3月7日|幕府、後醍醐天皇を隠岐へ流刑
1332年4月3日-09:00|日本| ||元徳4;元弘2年3月8日|幕府、恒良親王を但馬に、宗良親王を讃岐に、尊良親王を土佐に配流
1332年4月16日-09:00|日本| ||元徳4;元弘2年3月21日|<死去>京極為兼(79歳)権大納言、歌人
1332年4月27日-01:00|フランス| ||<就任>アンジュー伯「ジャン2世」フランス国王、メヌ伯、ホワエ伯、オーヴェルニュ伯、ブルゴニオン公、アキテーヌ公、ブルゴニオン公(~1350.11)
1332年5月5日-09:00|日本| ||元徳4;元弘2年4月10日|前関白二条道平(45)を捕らえ、洞院公賢(41)・万里小路宣房(74)らの参内を許す
1332年5月8日-09:00|日本|滋賀県大津市|元徳4;元弘2年4月13日|延暦寺が大火となる
1332年5月19日-01:00|ドイツ| ||<死去>ニルンベルク城伯「フリートリヒ4世」
1332年5月19日-01:00|ドイツ| ||<就任>ニルンベルク城伯「ヨハン2世」(~13570731死去)
1332年5月23日-09:00|日本| ||正慶1;元弘2年4月28日|北朝が「元徳」を「正慶」と改元
1332年5月27日-09:00|日本|京都府京都市|正慶1;元弘2年5月3日|幕府、足助重範(40)を六条河原で殺す
1332年6月3日-09:00|日本|千葉県|正慶1;元弘2年5月10日|鎌倉幕府、花山院師賢を下総国に流罪に処す
1332年6月15日-09:00|日本|神奈川県小田原市|正慶1;元弘2年5月22日|幕府、平成輔(41)捕縛されて護送途中に相模早河尻で処刑
1332年6月25日-09:00|日本|新潟県佐渡市|正慶1;元弘2年6月2日|幕府、日野資朝(42)を配流先の佐渡で処刑
1332年6月26日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正慶1;元弘2年6月3日|鎌倉幕府、日野俊基を鎌倉の葛原岡で処刑
1332年7月12日-09:00|日本|滋賀県米原市|正慶1;元弘2年6月19日|鎌倉幕府、北畠具行を護送途中に近江柏原で処刑
1332年7月19日-09:00|日本| ||正慶1年6月26日|護良親王の令旨を得た竹原八郎らが熊野勢と十津川衆を率いて挙兵
1332年7月20日 00:00|イギリス| ||<死去>初代マリ伯「トマス・ランドルフ」
1332年7月20日 00:00|マン島/イギリス| ||<就任>マン王・2代マリ伯「トマス・ランドルフ2世」先代の息子(~8.11死去)
1332年8月2日-01:00|デンマーク| ||<死去>デンマーク王「クリストファー2世エリクセン」55歳
1332年8月11日 00:00|イギリス| ||<死去>2代マリ伯「トマス・ランドルフ」
1332年8月11日 00:00|イギリス| ||<死去>8代マー伯「トムナル2世」
1332年8月11日 00:00|イギリス| ||<就任>3代マリ伯「ジョン・ランドルフ」先代の弟(~13461017死去)

1350迄 (1585件)

- 1332年8月11日 00:00|イギリス| |||<就任>9代マー伯「トマス」(~1377年死去)
- 1332年8月11日 00:00|イギリス| |||<就任>マリ伯「ジョン・ランドルフ」先代の弟(~13461017死去)
- 1332年8月12日 00:00|イギリス| |||<即位>スコットランド王「エドワード・ベアロー」イングランドの支援でデヴィッド2世を破り、スコットランド王となる(~13390707)
- 1332年8月12日 00:00|イギリス| |||イギリスがスコットランドの領土を占領(~13390707)
- 1332年9月-02:00|トルコ| |||<即位>トレビゾンテ帝国第12代皇帝「ハシム1世」(~13400406)
- 1332年9月2日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至順3年8月12日|<死去>元第10代皇帝「文宗トクテムル」/年29
- 1332年9月6日-02:00|ギリシャ/イタリア| |||ヴェネツィア、対トルコ戦争のため、ビザンツ皇帝アンドロニコスとロードス島騎士団と同盟
- 1332年10月23日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至順3年10月4日|<即位>元第11代皇帝「寧宗イリジバル」(~至順3年11月26日12月14日)ゴラの次男
- 1332年11月7日-01:00|スイス| |||ルツェルンが、最初の都市州としてヘルゲフェア連邦に加盟する(「ルツェルン同盟」)
- 1332年11月17日-09:00|日本|千葉県|正慶1:元弘2年10月29日|<死去>花山院師賢。配流先の下総で病死(32歳)大納言、歌人
- 1332年11月19日-09:00|日本|大阪府南河内郡千早赤阪村|正慶1:元弘2年11月|楠木正成(38)が護良親王に呼応して河内赤坂、千早城で挙兵
- 1332年11月19日-09:00|日本|奈良県吉野郡吉野町|正慶1:元弘2年11月|護良親王(尊雲法親王)(24)、吉野で挙兵
- 1332年12月 00:00|イギリス| |||ジェームズ・ダグラスの弟アール・ダグラスは反乱を起こし、アランでスコットランド国王エドワード・ベアリアルを破った/エドワード・ベアリアルは、イングランドに逃走
- 1332年12月3日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副王代行「トマス・ハーグ卿」(~13330212)
- 1332年12月14日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至順3年11月26日|<死去>元第11代皇帝「寧宗イリジバル」/年7
- 1332年12月17日-01:00|アルバニア| |||<就任>テュラツ公「ジョヴァンニ(ジャン・グラーイナ)」アルバニア王国の規模が大幅に縮小(~13350501死去)
- 1332年12月19日-09:00|日本|大阪府南河内郡千早赤阪村|正慶1:元弘2年12月|楠木正成(38)、赤坂城を奪回
- 1332年12月24日-09:00|日本|千葉県|正慶1年12月6日|<死去>九条忠教(85歳/関白、左大臣)
- 1333年-08:00|インドネシア| |||<即位>スダガラ王国マハラジャ「Prabu Ajigunawisesa/Sang Mokteng Kiding」(~1340年)
- 1333年-08:00|インドネシア| |||ハジヤンヤラン王国(ジャバ島西部のスダラ人の王国)ラトゥ・デワ(デワ王)が西ジャバのホゴールを王都に定める
- 1333年-05:00|パキスタン| |||<設立>ラスタナ国
- 1333年-05:00|パキスタン| |||<即位>東チャガタイハン国ハン「フザン」トレテムルの子(~1334年)
- 1333年-05:00|パキスタン| |||<即位>スムラ朝君主「Jam Unar」(~1351年亡命)
- 1333年-03:30|イラン| |||<即位>パダスハニ朝君主「Eskandar2世」(~1359年死去)
- 1333年-03:00|サウジアラビア| |||<復位>メッカ・シャリフ「ウタイア・ブン・アビー・ヌマイ・サイフ・アル・デイン」共同統治(~1334年8月)
- 1333年-02:00|ギリシャ| |||<死去>テッサリア尊厳公「ステファノス・ガウリロフ」東ローマ帝国による併合
- 1333年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アカイア公「カトリヌト・ウァロウ」(~1346年)
- 1333年-02:00|トルコ| |||<即位>カラマニ朝ベイ「Alaeddin Halil Mirza Bey」(~1348年)
- 1333年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||クレタ島でヴァルダス・カルクスとニコラオス・ブリコシリタスの反ヴェネツィア蜂起(~1334年)
- 1333年-01:00|イタリア| |||<就任>カラブリア公(ホーリ王の推定相続人の称号)「ジョヴァンナ」カロの三女、ホーリ女王ジョヴァンナ1世(~13430120)
- 1333年 00:00|ポルトガル/スペイン| |||北アフリカのベニメルネ軍がイベリア半島に上陸し、ジブラルタルを占領/カスティリア王アルフォンソ11世とポルトガル王アルフォンソ4世は、サラダの戦いにおいてイスラム教徒軍を撃ち破りイベリア半島を防衛
- 1333年1月17日-09:00|日本| ||正慶2・元弘3年|<任命>九州探題「武田信武」(~建武3・延元元(1336)年4月)
- 1333年1月17日-09:00|日本| ||正慶2・元弘3年|<任命>豊後国守護「大友貞宗」(~同年12月3日(13340109)死去)
- 1333年1月17日-09:00|日本|長野県小県郡青木村|正慶2:元弘3年|この年、長野大法寺三重塔できる
- 1333年1月31日-09:00|日本|大阪府堺市|正慶2:元弘3年1月15日|幕府・六波羅軍、千早城に向かう/和泉堺にて正成軍と対戦し敗れる
- 1333年2月 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Henri de Ferriers」+「Guillaume」(~1337.5)
- 1333年2月4日-09:00|日本|大阪府大阪市天王寺区|正慶2:元弘3年1月19日|楠木正成(39)、四天王寺で六波羅軍を撃破
- 1333年2月6日-09:00|日本|兵庫県神戸市北区|正慶2:元弘3年1月21日|赤松則村(56)、播磨・苔縄城に挙兵し、摩耶城へ入る
- 1333年2月13日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ダニー卿」ジョン・ダニー・ル・コシン(~13371015)
- 1333年2月16日 03:00|日本|大阪府南河内郡千早赤阪村|正慶2年2月2日|午の刻(午前12時頃)赤坂城(上赤坂城)で矢合わせによって戦いが始まり幕府方の人見光行(人見四郎入道恩阿)と本間資貞、その息子本間資忠が初戦で討ち死に/(~13日)幕府は攻撃を仕掛けたが、城を守っていた平野将監らはかなり善戦し、戦いのたびに死傷者が5、600人は出る有様だった
- 1333年3月2日-01:00|ポランド| |||<死去>ポランド王「ウラディスワフ1世ウキェテク」
- 1333年3月2日-01:00|ポランド| |||<即位>ポランド王「カジミェシュ3世ウイェルク」ウラディスワフ1世ウキェテクの息子(~13701105死去60歳)最も偉大なポランド王の一人
- 1333年3月13日-09:00|日本|大阪府南河内郡千早赤阪村|正慶2:元弘3年2月27日|<赤坂城の陥落>幕府軍が水の手を切ったため、城兵らは渴きに苦しむ平野将監以下将兵282人は降伏/この間、楠木正成は千早城に引いている/

1350迄 (1585件)

- 降伏した城兵らは六波羅に送られたのち、全員が六条河原で処刑され、その首は獄門にかけられた
- 1333年3月13日-09:00|日本|大阪府南河内郡千早赤阪村|正慶2;元弘3年2月27日|<千早城の戦い(河内国)>赤坂城を包囲していた幕府軍は千早城へと出軍し吉野から来た軍勢もまた千早城に駆け付けた/鎌倉幕府軍は一気に攻略しようとするうちに陣も構えず我先にと攻城. 千早城では櫓より大石を投げ落として敵の櫓を砕き、逃げ惑う兵には矢を降りそそぎ谷底に死体の山がうず高く重なった
- 1333年3月17日-09:00|日本|奈良県吉野郡吉野町|正慶2年閏2月1日|幕府軍は吉野の吉野城(金峰山城とも)を攻めてこれを陥落させた/護良親王は村上義光が身代わりになったこともあって辛くも逃げ延び、千早城へと向かった
- 1333年3月20日-09:00|日本|愛媛県|元弘3・正慶2年閏2月4日|土居・得能氏、反幕府の兵を挙げる
- 1333年3月27日-09:00|日本|愛媛県|元弘3・正慶2年閏2月11日|長門探題北条時直・伊予守護宇都宮貞宗が伊予を襲撃するが、土井通増・忽那重清に敗退
- 1333年4月9日-09:00|日本|島根県隠岐郡隠岐の島町|元弘3・正慶2年閏2月24日|後醍醐天皇(45)、阿野廉子(32)・千種忠顕らとともに隠岐を脱出
- 1333年4月11日-09:00|日本|兵庫県朝来市|元弘3・正慶2年閏2月26日|城頼連、播磨国高田城を攻め、家人ら討死
- 1333年4月13日-09:00|日本|鳥取県東伯郡琴浦町|元弘3・正慶2年閏2月28日|伯耆の名和長年、船上山に後醍醐天皇(45)を迎え挙兵
- 1333年4月14日-09:00|日本|鳥取県東伯郡琴浦町|元弘3・正慶2年閏2月29日|<船上山の戦い>幕府軍は攻勢を仕掛けたが、指揮官の一人である佐々木昌綱は右目に矢があたり戦死、搦手側の佐々木定宗らが降伏、佐々木清高率いる本軍は船上山を攻め上がるも、夕刻の暴風雨に乗じた名和軍の襲撃に混乱し多数の兵が船上山の断崖絶壁から落ちるなどの被害が出て、佐々木清高は命からがら小波城へと逃げ帰った
- 1333年4月18日-09:00|日本|大阪府南河内郡千早赤阪村|元弘3・正慶2年3月4日|<千早城の戦い(河内国)>包囲軍の諸将らは相談し、味方の戦線である近くの山より城壁へ橋を掛けて、兵たち5、6千人が城内へ向かって殺到/楠木正成はかねてより用意していた松明に火をつけて、薪を積み上げるように投げ、水鉄砲の中に油を入れて橋に注いだ/城内にたどり着こうとしていた兵は後ろに下がろうとしても後陣が続いており、飛び降りようにも谷深く、もたもたしていると谷風に煽られた火により橋が中ほどより折れ、数千人が橋とともに猛火に落ち重なって焼死
- 1333年4月24日-09:00|日本|大阪府箕面市|元弘3・正慶2年3月10日|<瀬川合戦>赤松則村(56)、摂津国瀬河に六波羅軍を破る
- 1333年4月26日-09:00|日本|愛媛県松山市|元弘3・正慶2年3月12日|<星岡の戦い>長門探題北条時直、星岡平井城の土居通増を攻撃したが敗れて長門国に退却
- 1333年4月27日-09:00|日本|福岡県福岡市|元弘3・正慶2年3月13日|鎮西探題赤橋英時が少弐貞経や大友貞宗らと共に、後醍醐天皇の綸旨を受けて攻めてきた菊池寂阿(武時, 41)・菊池覚勝・菊池頼隆を返り討ちにして敗死させる
- 1333年5月12日-09:00|日本|京都府京都市左京区|元弘3年3月28日|延暦寺が護良親王に呼応して六波羅探題と合戦. 法勝寺で敗退
- 1333年5月17日-09:00|日本|京都府京都市|元弘3年4月3日|<死去>植月重佐(不明)・鷹取種佐(不明)京都の四条猪熊で幕府軍と戦い討死
- 1333年5月22日-09:00|日本|京都府京都市|元弘3・正慶2年4月8日|千種忠顕、赤松則村(56)、京都の六波羅探題を攻めるが敗退
- 1333年5月23日-09:00|日本|京都府京都市|元弘3・正慶2年4月9日|六波羅の兵、西山に放火、衣笠寺・松尾寺・二尊院など焼亡
- 1333年6月-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パライン代行「ハル・ナジ・マルトニ」(2回目~7月)
- 1333年6月-01:00|ジブラルタル/モロッコ| ||ジブラルタルはマリノ朝のモロッコに復元(~1374年)
- 1333年6月6日 00:00|イギリス| ||<死去>アルスター伯「ウリアム・ド・ノント・バラ」
- 1333年6月6日 00:00|イギリス| ||<就任>アルスター伯「エリザベースト・バラ」(~1363|210死去)
- 1333年6月8日 00:00|マン島/イギリス| ||マン島はイギリス王が統治(~8.9)
- 1333年6月10日-09:00|日本|京都府長岡京市|元弘3・正慶2年4月27日|<久我縄手の戦い>六波羅勢(北条勢)の名越尾張守高家は7,600余騎の軍勢を久我一帯に布陣、足利高氏と共に後醍醐天皇方の軍勢を迎え撃った/名越高家の奮戦ぶりは見事なものであったが惜しくも赤松円心一族の佐野左衛門三郎範家の矢に射られ壮絶な最後を遂げた
- 1333年6月12日-09:00|日本|京都府亀岡市|元弘3・正慶2年4月29日|足利高氏(28)、丹波 篠村八幡で挙兵
- 1333年6月18日-01:00|ドイツ| ||<死去>下バリエル公「ハインリヒ15世」
- 1333年6月19日-09:00|日本|京都府京都市|元弘3・正慶2年5月7日|足利高氏(28)・赤松則村(56)・千種忠顕ら京に突入し六波羅を攻め、陥落させる/六波羅探題北条仲時(27)ら光厳天皇(19)を奉じ近江国へ敗走/六波羅探題南方「北条時益」(不明)落ち延びる途中野武士と戦って討死
- 1333年6月20日-09:00|日本|群馬県太田市|元弘3・正慶2年5月8日|新田義貞(32)、上野国新田庄・生品明神で挙兵、武蔵に入る
- 1333年6月21日-09:00|日本|滋賀県米原市|元弘3・正慶2年5月9日|<死去>隠岐守護「佐々木清高」船上山の戦いで敗れた後、北条仲時と共に自刃(39歳)
- 1333年6月21日-09:00|日本|滋賀県米原市|元弘3・正慶2年5月9日|北条仲時、北条時益ら六波羅探題の一族郎党432人は近江国の番場蓮華寺で自刃し、光厳天皇、後伏見上皇、花園上皇は捕らえられた
- 1333年6月22日-01:00|ドイツ| ||<死去>「パ-テン-パ-テン」辺境伯「フリートリヒ2世」

1350迄 (1585件)

- 1333年6月22日-01:00|ドイツ|||<就任>ハ-テン=ハ-テン辺境伯「ヘルマン9世」(~13530413死去)
- 1333年6月22日-09:00|日本|大阪府南河内郡千早赤阪村|元弘3・正慶2年5月10日|<千早城の戦い(河内国)>早朝、幕府軍の諸将は陣を撤収して、10万騎の軍勢は南都(奈良)へと引き上げた/大軍が退却する当たり大混乱が起き、岩場に突き当たって止む無く腹を切るもの、谷底に落ちるもの、他人に踏み殺される者、あるいは野伏に襲われるものが続出/包囲軍の主だった将は戦死せず、同日夜半に南都に到着/楠木正成の籠城戦が終結
- 1333年6月22日-09:00|日本|富山県高岡市|元弘3年5月10日|<死去>恒性皇子. 名越貞持に暗殺された(29歳)後醍醐天皇の皇子
- 1333年6月23日-09:00|日本|埼玉県所沢市|元弘3・正慶2年5月11日|<小手指原の戦い(武蔵国)>新田義貞は朝に入間川を渡って小手指原に達し、桜田貞国を総大将、長崎高重、長崎孫四郎左衛門、加治二郎左衛門を副将とする3万の幕府軍と衝突/幕府へ不満を募らせていた河越氏ら武蔵の御家人の援護を得て新田軍は次第に有利となっていた/日没までに新田軍は300、幕府軍は500ほどの戦死者を出し、両軍共に疲弊し、義貞は入間川まで幕府軍は久米川まで一旦撤退
- 1333年6月24日-09:00|日本|||元弘3・正慶2年5月12日|足利千寿王(高氏の嫡男, 3)が足利家家臣に連れ出され鎌倉を脱出し新田義貞(32)軍に加わる
- 1333年6月24日-09:00|日本|東京都東村山市|元弘3・正慶2年5月12日|<久米川の戦い(武蔵国)>朝、義貞の軍勢が久米川に布陣する幕府軍に奇襲を仕掛けたことで再度戦闘が発生/桜田貞国は奇襲に対する備えを講じており、奇襲は成功しなかった/五万の幕府軍は鶴翼の陣を敷いて義貞を挟みこむ戦法を採ったが、この戦法を義貞は看破し、戦法にかかったような芝居を見せ、陣を拡散させたため手薄になった本陣を狙い打ち/長崎、加治軍は撃破され、桜田貞国は軍勢を纏め、分倍河原まで退却
- 1333年6月27日-09:00|日本|東京都府中市|元弘3・正慶2年5月15日|<分倍河原の戦い(武蔵国)>2日間の休息を終えた新田軍1万は分倍河原の幕府軍への総攻撃を開始。だが援軍を得て士気の高まっていた15万の幕府軍に迎撃され全滅状態になり、堀兼(狭山市堀兼)まで敗走した。本陣が崩れかかる程の危機に瀕し、義貞は自ら手勢600騎を率いて幕府軍の横腹を突いて血路を開き辛うじて脱出/この敗走の際、武蔵国分寺(東京都国分寺市)が焼失
- 1333年6月28日-09:00|日本|東京都府中市|元弘3・正慶2年5月16日|<分倍河原の戦い(武蔵国) 早朝、三浦一族の大多和義勝が河村・土肥・渋谷、本間ら相模国の氏族を統率した軍勢8000騎の加勢を得、新田義貞軍は2万の兵力で分倍河原に一気に押し寄せ、北条軍に奇襲を仕掛け大勝利し、北条泰家以下は壊滅して敗走
- 1333年6月28日 03:00|日本|東京都多摩市|元弘3・正慶2年5月16日|<関戸の戦い(武蔵国)>分倍河原から退いた北条泰家(鎌倉幕府第14代執権・北条高時の弟)は7万の軍勢で鎌倉幕府の関所である霞/関一帯で防衛戦を行った。この戦いは半日足らずで新田軍が幕府軍を壊滅させ、北条泰家は家臣の横溝八郎や安保入道父子の奮戦によって一命を取り止める鎌倉に逃走したが、戦闘中に脱走兵や逃亡する武将が続出したこともあり幕府軍は完全に瓦解し、横溝八郎、安保入道父子は関戸で討死
- 1333年6月29日 00:00|アイルランド/イギリス|||<就任>アイルランド 判事代行「トマス・ド・ハーグ卿」(~13340118)
- 1333年6月29日-09:00|日本|富山県射水市|元弘3・正慶2年5月17日|越中守護名越時尭、宮方の大軍に包囲され自刃/名越時尭は逃れる
- 1333年6月30日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|元弘3・正慶2年5月18日|<鎌倉の戦い(相模国)>新田勢左翼・巨福呂坂方面には堀口貞満、大島守之らを差し向け、右翼・極楽寺坂方面には大館宗氏、江田行義らを差し向け、そして中央・化粧坂方面には新田義貞と弟脇屋義助が主力を率いて攻撃、新田勢は兵力が優勢であったものの、天然の要塞となっていた鎌倉の切通しの守りは固く、混戦が続いた/巨福呂坂は、北条一門で執権の赤橋守時率いる幕府勢が守りを固め、新田方の武将は堀口貞満、大島守之で、守時は巨福呂坂から出撃し、新田勢と激戦を繰り広げ、化粧坂攻撃の義貞軍の背後の洲崎まで迫った(洲崎合戦)。守時の軍勢は洲崎に到達した時点で兵力の大多数を失っており、守時や侍大将南条高直ら九十余名が洲崎で自刃。新田勢は攻撃を続け山/内まで攻め込むが、幕府勢の守りは固く、巨福呂坂の突破はできなかった/極楽寺坂(極楽寺切通し)では幕府方の大仏貞直が陣を張り守備、未明に大館宗氏率いる新田勢の一部が稲村ヶ崎の波打ち際を通して鎌倉へ突入した。長崎氏ら幕府勢の包囲攻撃にあい、稲瀬川付近で大館宗氏ら十一人が戦死、生き残った兵は退却し、宗氏子息の氏明が指揮を執り、南方の霊山に立てこもった
- 1333年6月30日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|元弘3・正慶2年5月18日|<死去>鎌倉幕府第16代執権「北条守時」(39歳)新田義貞軍に敗れて自刃
- 1333年7月-01:00|ハンガリー|||<就任>ハンガリー王国パライン「ゲイルムス・ドラゲス・ホナイ」(~1342年8月没)
- 1333年7月3日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|元弘3・正慶2年5月21日|<稲村ヶ崎の攻防戦>新田義貞は、援軍を率いて極楽寺坂に向かった。夜、義貞は引き潮に乗じ鎌倉西方の稲村ヶ崎を突破し、鎌倉市内に攻め入った
- 1333年7月4日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|元弘3・正慶2年5月22日|北条基時(鎌倉幕府13代執権)(享年48)、北条高時(鎌倉幕府14代執権)(享年30)、金沢貞頭(鎌倉幕府15代執権)(享年55)新田義貞に攻められ一族とともに自刃/鎌倉幕府はこれで滅亡
- 1333年7月7日-09:00|日本|||元弘3年5月25日|正慶の元号は廃され年号を元弘に戻す
- 1333年7月7日-09:00|日本|||元弘3年5月25日|北朝の光厳天皇が南朝の後醍醐天皇に譲位し一旦南北朝が合一
- 1333年7月7日-09:00|日本|福岡県福岡市|元弘3年5月25日|<死去>鎮西探題「赤橋英時」少貳貞経や大友貞宗、島津貞久らが離反、懸命に防戦したが敗れ、博多にて金沢種時をはじめ一族240名と共に自害
- 1333年7月8日-09:00|日本|||元弘3年5月26日|<解任>長門探題「北条時直」(不明)朝廷方の少貳貞経に降伏し罪を許されて本領を安堵
- 1333年7月13日-09:00|日本|||元弘3年6月|<任命>日向国守護「島津貞久」(~建武2(1335)年)
- 1333年7月17日-09:00|日本|||元弘3年6月5日|<任命>鎮守府将軍「足利尊氏」(~不詳)

1350迄 (1585件)

- 1333年7月17日-09:00|日本|京都府京都市|元弘3年6月5日|後醍醐帝京に還幸[建武の中興]
- 1333年7月19日 00:00|イギリス| |||<死去>4代サ-ラント伯「ケネズト・モウア(ケネズ・サ-ラント)」
- 1333年7月19日 00:00|イギリス| |||<死去>7代キャリック伯「アレクサンダー・ブルス」
- 1333年7月19日 00:00|イギリス| |||<就任>5代サ-ラント伯「ウィリアム・ド・モウア(ウィリアム・サ-ラント)」(~1370年死去)
- 1333年7月19日 00:00|イギリス| |||ア-ヘルトは、ハリダン・ヒルでエドワード3世に敗れ、戦死
- 1333年7月19日 00:00|イギリス| |||イングランドのエドワード3世が、スコットランドからマン島を奪う
- 1333年7月19日-08:00|中国/モンゴル| |||元・至順4年6月7日|<即位>元第12代皇帝「恵宗トゴン・テムル」(~至正30年4月28日1370年5月23日)ゴシラの長男、イリツバルの兄
- 1333年7月25日-09:00|日本|京都府京都市|元弘3年6月13日|護良親王が軍勢を率いて入洛/直後、征夷大將軍に任じられる(~9月初旬解任)
- 1333年8月9日 00:00|マン島| |||<就任>マン王「ジョン・ラントル」(2期目~9.29)
- 1333年8月11日-09:00|日本| |||元弘3年7月|<任命>遠江国守護「今川範国」(~9月)
- 1333年8月11日-09:00|日本| |||元弘3年7月|<任命>周防国守護「大内長弘」(~正平6・観応2(1351)年死去)
- 1333年8月11日-09:00|日本| |||元弘3年7月|<任命>大隅国守護「島津貞久」(~貞治2(1363)年4月隠居)
- 1333年8月11日-09:00|日本| |||元弘3年7月|<任命>筑後国守護「宇都宮冬綱」(~文和4・正平10(1355)年)
- 1333年8月11日-09:00|日本| |||元弘3年7月|<任命>筑前国守護「少貳貞経」(~建武元(1334)年12月、頼尚に譲る)
- 1333年8月11日-09:00|日本| |||元弘3年7月|<任命>長門国守護「輔大納言」(不詳)
- 1333年8月11日-09:00|日本| |||元弘3年7月|<任命>豊前国守護「少貳貞経」(~建武元(1334)年12月、頼尚に譲る)
- 1333年8月11日-09:00|日本| |||元弘3年7月|この頃、恩賞方・記録所を設置
- 1333年8月19日-09:00|日本| |||元弘3年7月9日|幕府軍の全面降伏で阿蘇治時ら処刑
- 1333年8月25日-01:00|スペイン| |||<死去>グアラタ王国ナル朝アミル「ムハンマド4世」
- 1333年8月25日-01:00|スペイン| |||<即位>グアラタ王国ナル朝アミル「ユースフ1世」(~13541019死去)
- 1333年8月29日-09:00|日本| |||元弘3年7月19日|<任命>飛騨国守護「岩松経家」(~建武2年7月22日(13350811)戦死)
- 1333年8月29日-09:00|日本| |||元弘3年7月19日|恩賞方が設置される
- 1333年9月2日-09:00|日本| |||元弘3年7月23日|敵対者の範囲を北条氏一族に限定し当知行安堵を国司の所管とした諸国平均安堵法を發布
- 1333年9月2日-09:00|日本| |||元弘3年7月23日|北条時行、鎌倉を攻撃/足利直義、護良親王を殺害、成良親王、足利義詮と共に三河国に逃れる
- 1333年9月14日-09:00|日本| |||元弘3年8月5日|足利高氏(28)は尊氏と改名
- 1333年9月18日-09:00|日本| |||元弘3年8月9日|足利尊氏(28)、早馬・使者と称し東海道諸駅で狼藉することを禁じる
- 1333年9月24日-09:00|日本| |||元弘3年8月15日|北朝の光明天皇が即位。再び南北朝分離へ
- 1333年9月25日-09:00|日本| |||元弘3年8月16日|<死去>守邦親王(鎌倉幕府9代將軍)[1301年生~](享年32)
- 1333年9月29日 00:00|マン島| |||<就任>マン王「William1世 de Montacute」(~13440130死去)
- 1333年10月10日-09:00|日本| |||元弘3年9月|記録所・窪所・武者所が設置される
- 1333年10月12日-09:00|日本|愛知県一宮市|元弘3年9月3日|重兼、尾張国聖徳寺の聖徳太子立像を造立
- 1333年10月19日-09:00|日本| |||元弘3年9月10日|雑訴決断所を設置
- 1333年10月30日-01:00|チェコ| |||<就任>ホヘミア摂政「カレル」(1回目⇒13340101、モウア辺境伯~13350730)
- 1333年11月15日-08:00|中国/モンゴル| |||元・元統1年10月8日|元の順帝(恵宗)トゴン・テムルが元統(~1335年)と改元
- 1333年11月19日-09:00|日本| |||元弘3年10月12日|<死去>西園寺禧子(後京極院)(31歳)後醍醐天皇の中宮
- 1333年11月27日-09:00|日本| |||元弘3年10月20日|北畠顕家が義良親王を奉じて、奥州將軍府に着任するため出発
- 1334年-07:00|タイ| |||<即位>ランナー王国マンライ朝国王「カムフ」(~1336年)
- 1334年-05:30|インド| |||マハール地方のジャラルがトウガル朝から独立し、マトウライ朝を創始
- 1334年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>西チャグタイハン国ハン「ハルル」ブカテムルの孫ヤサルの子(~1343年)
- 1334年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>東チャグタイハン国ハン「ジンクシ」トウアの子エブゲンの子(~1338年)
- 1334年-03:30|イラン| |||<死去>ハバント朝太守「Sharaf al-Muluk」
- 1334年-03:30|イラン| |||<即位>ハバント朝太守「Hasan2世」(~1349年死去)
- 1334年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンテア公「ピエトロ・ゼーノ」(~1336年)
- 1334年-02:00|トルコ| |||<即位>アイトゥン侯国ヘイ「Umur・ヘイ」(~1348年)
- 1334年 00:00|チャンル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガ-ンジ-島副管守護者「Gautier de Weston」(~1337年)
- 1334年 00:00|イギリス| |||<剥奪>ストラナン伯「マリス」5世
- 1334年1月1日-01:00|チェコ| |||<就任>モウア辺境伯「カレル」ホヘミア王ヤンの息子(⇒13460711、ロ-マ王カール4世~13491226退任)
- 1334年1月9日-09:00|日本|大分県|元弘3年12月3日|<死去>豊後国守護「大友貞宗」子の氏泰が継ぐ(~貞和4・正平3(1348)年隠居)
- 1334年1月17日 00:00|イギリス| |||<死去>リッチモンド伯「ジャン」
- 1334年1月17日 00:00|イギリス| |||<就任>リッチモンド伯「ジャン」3世「ブルターニュ公」(~13410430死去)
- 1334年1月17日-09:00|日本|青森県平川市|元弘3年12月11日|大光寺合戦/朝廷側の曾我光高等の兵で大光寺城を攻撃したが失敗
- 1334年1月20日-09:00|日本| |||元弘3年12月14日|足利直義が、成義親王を奉じて、鎌倉へむかい、鎌倉將軍府を

1350迄 (1585件)

- 設立/結果、2つの将軍府が存在することになり、天皇と足利の間にミヅができる
1334年2月5日-09:00|日本| ||元弘4年・建武元年|<任命>安房国守護「斯波家長」(~延元2年12月25日(13380116)自刃)
1334年2月5日-09:00|日本| ||元弘4年・建武元年|<任命>下野国守護「小山秀朝」(~建武2(1335)年7月13日死去)
1334年2月5日-09:00|日本| ||元弘4年・建武元年|<任命>肥前国守護「大友氏泰」(~興国3・暦応5(1342)年)
1334年2月5日-09:00|日本|京都府京都市下京区|元弘4年・建武元年|この年、真宗絵系図(京都長性院)できる
1334年2月5日-09:00|日本|福岡県北九州市|元弘4・建武元年1月|探題英時の猶子北条高政(規矩)は豊前帆柱城に
抛り、高政の舎弟(北条政顕の子)北条貞義は筑後堀口城に兵をあげた/規矩高政に呼応して、長野政通が門司城
で蜂起
1334年2月5日-09:00|日本|青森県平川市|元弘4年1月1日|大光寺合戦/曾我光高等再度大光寺城を攻撃し落城さ
せた
1334年2月16日-09:00|日本| ||元弘4年1月12日|新政にあたり日本最初の紙幣が発行される
1334年2月24日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|元弘4年1月20日|足利直義が成義親王を奉じて鎌倉将軍府を設立
1334年3月4日-01:00|イギリス| ||ウエネツィア、マントヴァとの通商協定
1334年3月5日-09:00|日本| ||建武1年1月29日|「建武」と改元し、天皇親政のための新人事が始る
1334年4月13日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建武1年3月9日|北条氏残党の本間・渋谷氏が鎌倉へ攻め入ったが、
渋川義季に撃退された
1334年5月2日-09:00|日本| ||建武1年3月28日|乾坤通宝を鑄造し紙幣と併用
1334年5月7日-09:00|日本|千葉県富津市|建武1年4月4日|宰相阿日郷安房に顕徳寺を創す
1334年5月31日-09:00|日本| ||建武1年4月28日|<任命>大隅国守護「島津貞久」(~貞治2(1363)年4月、氏久に譲位
)
1334年6月5日-09:00|日本| ||建武1年5月3日|後醍醐天皇が借金に苦しむ人々を救うために徳政令を発布
1334年6月12日 00:00|イギリス| ||ニューカール協定が結ばれ、スコットランド王ベドバルク3世に臣従を誓う
1334年6月16日-09:00|日本| ||建武1年5月14日|<任命>長門国守護「厚東武実」(~正平3・貞和4年3月5日(134804
4)退任)
1334年6月23日-09:00|日本|青森県弘前市|建武1年5月21日|<石川楯合戦>曾我光高が石川楯に立て籠もった叔父
経光と戦い落とす
1334年8月3日-09:00|日本|宮崎県|建武1年7月3日|北条一族の遠江掃部助三郎、弟の四郎6等が日向国島津荘内で
蜂起
1334年8月7日-09:00|日本|香川県三豊市|建武1年7月7日|上蓮房日仙讃岐高瀬に中之坊を創す
1334年8月9日-09:00|日本|京都府京都市|建武1年7月9日|阿蘇治時(北条高時の養子:16歳)、京都阿弥陀寺で処刑
1334年8月9日-09:00|日本|熊本県|建武1年7月9日|規矩高政、糸田貞義が少弐頼尚・大友貞載らによって平定され
た
1334年8月12日-09:00|日本|新潟県村上市|建武1年7月12日|越後国瀬波郡で小泉持長・大河将長が蜂起、守護代等
がこれを鎮圧
1334年9月3日-09:00|日本| ||建武1年8月5日|<任命>河内・摂津・和泉守護「楠木正成」(~建武3・延元元年5月25日
(13360704)死去)
1334年9月19日-09:00|日本|福井県小浜市|建武1年8月21日|若狭・太良荘にて百姓・59名が地頭代官の交代を要求
して起請文を提出し一揆が勃発
1334年9月29日 00:00|マン島/イギリス| ||<就任>マン島知事「William de Montacute」
1334年10月7日-09:00|日本|京都府京都市東山区|建武1年9月9日|<死去>北条高直、京都阿弥陀峰で斬首(生年生
年未詳)
1334年10月8日-09:00|日本| ||建武1年9月10日|<任命>越前守護「斯波高経」(~興国3・康永1(1342)年解任)
1334年10月29日-09:00|日本|和歌山県紀の川市|建武1年10月|紀伊粉河寺の南にある那賀郡飯盛山で北条一族の
佐々目憲法が湯浅党の六十谷定らと挙兵
1334年11月19日-09:00|日本| ||建武1年10月22日|護良親王が、天皇の命を受けた結城親光、名和長年に捕らえ
られる/継母藤原(阿野)廉子と尊氏の謀略といわれる
1334年12月4日-01:00|バチカン| ||<死去>196代ローマ教皇「ヨハネス22世」
1334年12月11日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建武1年11月15日|後醍醐天皇、護良親王を鎌倉・足利直義に預ける
1334年12月14日-01:00|ドイツ| ||<死去>下バベルン公「オットー4世」27歳
1334年12月15日-09:00|日本|青森県弘前市|建武1年11月19日|<津軽持寄城合戦>相馬持寄城に立て籠っていた名
越時如・安達高景らが降伏、津軽は平らいだ
1334年12月20日-01:00|バチカン| ||<就任>第197代ローマ教皇「ベネディクトゥス12世」(~13420425死去)
1334年12月27日-09:00|日本| ||建武1年12月|<譲位>筑前・豊前国守護「少弐貞経」⇒「少弐頼尚」(~観応2(1351)
年8月解任)
1335年-06:30|ミャンマー| ||<即位>ザガイン王「シュエトネット」(~1339年8月)
1335年-05:30|インド| ||<即位>サマ朝スルタン「Jam Unar」(~1339年死去)
1335年-02:00|ギリシャ| ||<死去>エドゥアール専制公「イオニス・コムニス・トウカス」
1335年-02:00|ギリシャ| ||<就任>エドゥアール専制公国摂政「アン・パレロゾーナ」(~1338年)
1335年-02:00|ギリシャ| ||<即位>エドゥアール専制公「ニコフォロス5世トウカス」ケファロニア島とザンテのハティノ伯爵(1回目~1338年
東ローマ帝国による支配)
1335年-02:00|トルコ| ||<即位>ラティク・ベイ「Murad Arslan」(~1362年)

1350迄 (1585件)

- 1335年 00:00|イギリス| |||<就任>デヴオン伯「Hugh de Courtenay」(~13401223死去)
- 1335年1月8日-09:00|日本| ||建武1年12月13日|護良親王配下の南部・工藤ら武士数十人が処刑される
- 1335年1月23日-09:00|日本| ||建武1年12月28日|二階堂道蘊(68)西園寺公宗による北条氏再興の陰謀に加担したとされ、処刑
- 1335年1月25日-08:00|中国| ||元・元統3年|<即位>天山ウイグル王国イクト「オル・テムル(月魯帖木兒)」タビ・ソドゥの子(~1353年)
- 1335年1月26日-09:00|日本| ||建武2年|<交替>近江国守護「六角時信」辞任⇒「六角氏頼」任命(~建武4(1338)年4月)
- 1335年1月26日-09:00|日本| ||建武2年|<交替>日向国守護「島津貞久」⇒「細川頼春」(~建武3(1336)年)
- 1335年1月26日-09:00|日本| ||建武2年|<任命>肥後国守護「大友氏泰」(~同年)⇒「少武頼尚」(~正平3・貞和4(1348)年)
- 1335年1月26日-09:00|日本| ||建武2年|<任命>備後国守護「朝山景連」(~延元3・建武5(1338年))
- 1335年1月26日-09:00|日本|千葉県千葉市中央区|建武2年1月|相馬親胤・千田胤貞、「千葉楯」を攻撃
- 1335年2月6日-09:00|日本|山口県下関市|建武2年1月12日|北条時直の遺児、越後左近将監とはかり長門国・佐加利山城で蜂起/吉田頼景・宗像氏範ら佐加利山城を攻撃
- 1335年2月12日-09:00|日本|山口県下関市|建武2年1月18日|吉田頼景・宗像氏範らが佐加利山城を攻め落とす
- 1335年2月24日-09:00|日本|香川県さぬき市|建武2年2月|紫雲山極楽寺主明範、寺を寒川郡石田郷より同郡長尾村吉祥院に移し、宝蔵院と号す
- 1335年3月15日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事代行「キルメイム修院長ロジャー・ウラ」(~6.26)
- 1335年3月17日-09:00|日本|兵庫県丹波市|建武2年2月22日|北条氏の残党、赤橋駿河守宗時の子息、駿河太郎重時が丹波国・烏帽子山城で蜂起、土居通増らが鎮圧に向かう
- 1335年4月2日-01:00|イタリヤ/スウェーデン| |||<死去>ケルテン公「ハインリヒ6世」兼チロル伯「ハインリヒ2世」兼カニオラ辺境伯「ハインリヒ」
- 1335年4月2日-01:00|ベルギー| |||<死去>ナムール伯「ジャン2世」
- 1335年4月2日-01:00|イタリヤ| |||<就任>チロル伯「John Henry」(~1341年)
- 1335年4月2日-01:00|ベルギー| |||<就任>ナムール伯「ギョーム2世」ジャン2世の弟(~13360312死去)
- 1335年4月2日-01:00|イタリヤ/スウェーデン| |||<即位>ケルテン公「オットー4世」(~13390217死去)、「アルブレヒト2世」兼カニオラ辺境伯(~13580816死去)兄弟で共同統治
- 1335年4月2日-09:00|日本|長野県飯山市|建武2年3月8日|常岩弥六宗家、信濃常岩北条(飯山市)で挙兵するが、失敗して落城
- 1335年4月10日-09:00|日本|長野県松本市|建武2年3月16日|信濃府中で犬甘郷の深志介知光が南朝方について反乱/信濃守護・小笠原貞宗が騒動鎮圧に向かう
- 1335年4月22日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建武2年3月28日|法条高時と一族の追悼のため宝戒寺を建立
- 1335年5月1日-01:00|アルバニア| |||<死去>デユラツツ公「ジヨアンニ(ジャント・グラウイナ)」
- 1335年5月1日-01:00|アルバニア| |||<就任>デユラツツ公「カルロ(シャル)」(~13480522死去)
- 1335年6月23日-09:00|日本|愛媛県西条市|建武2年6月3日|駿河太郎重時の仲間が拠っていた赤瀧城が落城
- 1335年7月-03:00|サウジアラビア| |||<復位>メッカ・シャリフ「ウタイフ・ブン・アビー・ヌマイ・サイフ・アル・デイン」共同統治(~1337年5月)
- 1335年7月2日-01:00|イタリヤ| |||ウエネツィア共和国十人委員会(秘密警察)が常制化される
- 1335年7月12日-09:00|日本| ||建武2年6月22日|西園寺公宗・日野資名ら、陰謀発覚して捕らえられる
- 1335年7月21日-09:00|日本| ||建武2年7月|<任命>信濃国守護「小笠原貞宗」(~11月)
- 1335年7月21日-09:00|日本|富山県|建武2年7月|名越時兼、越中や能登・加賀で長沢氏や井口氏、野尻氏ら新政に不満を持つ武士を結集し北陸で蜂起
- 1335年7月21日-09:00|日本|長野県|建武2年7月|諏訪頼重ら、北条時行を擁して信濃国に挙兵
- 1335年8月2日-09:00|日本|東京都府中市|建武2年7月13日|<武蔵府中の戦い>足利直義は、家来の小山秀朝を差し向け、武蔵国府中で北条時行軍を迎え討った/小山は乱戦の中で討死
- 1335年8月2日-09:00|日本|栃木県|建武2年7月13日|<死去>下野国守護「小山秀朝」
- 1335年8月3日-09:00|日本|長野県千曲市|建武2年7月14日|<青沼合戦>川中島の四宮荘国人領主の四宮左衛門太郎(武水別神社神官家)や保科弥三郎(諏訪神党・保科荘長田神社)・関屋氏(皆神山出早雄神社神官家)らが信濃国埴科郡船山郷(現・長野県千曲市小船山)にあった守護所を襲い守護側にいた市河氏(市河家文書)らと近くの八幡河原一帯にある青沼(千曲市杭瀬下)周辺で合戦となった/保科、四宮、関屋勢は敗走
- 1335年8月11日-09:00|日本| ||建武2年7月22日|<死去>飛騨国守護「岩松経家」戦死
- 1335年8月11日-09:00|日本|埼玉県日高市|建武2年7月22日|<女影原の戦い>幕府は、足利直義と渋川次郎大輔義季、岩松兵部経家等を主将として軍兵を率い、女影ヶ原(埼玉県日高市)の要地を占め防御の陣地四隊を張らせて待機したが、北条軍のため撃破された
- 1335年8月11日-05:00|日本|埼玉県所沢市|建武2年7月22日|<小手指原の戦い>未明、今川範満は、武蔵・小手指原で北条時行軍と戦い討ち死に
- 1335年8月12日-09:00|日本| ||建武2年7月23日|<死去>護良親王、皇族(生年1308年)
- 1335年8月12日-09:00|日本|東京都町田市|建武2年7月23日|<井手の沢の戦い(武蔵国)>井手の沢(東京都町田市)にて鎌倉から出陣して時行軍を迎撃した足利直義をも破る/執権足利直義は、部下の淵辺義博に命じて護良親王(27)を殺害させ、尊氏の子の幼い足利義詮や、後醍醐天皇の皇子成良親王らを連れて鎌倉を逃れる
- 1335年8月13日-09:00|日本|神奈川県横浜市鶴見区|建武2年7月24日|<中先代の乱/武蔵鶴見合戦>北条時行は鎌倉の奪還を謀り、信濃国で挙兵した北条時行の軍勢が鶴見(神奈川県横浜市)で佐竹貞義と交戦/佐竹義直(佐竹貞義の子)らが戦死

1350迄 (1585件)

- 1335年8月14日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建武2年7月25日|<中先代の乱>北条時行が鎌倉に入り、一時的に支配
- 1335年8月17日-01:00|ドイツ| ||<死去>ハ-テン=ハ-テン辺境伯「ルドルフ・ヘツ」
- 1335年8月17日-09:00|日本| ||建武2年7月28日|<手越河原 (静岡手越) の戦い>駿河勢 (多胡・興津・由比・蒲原・瀬戸・庵原) 直義軍を攻め、直義軍 (吉良満義・上杉重能・細川頼氏・卿津師定禅・高師秋・仁木行応・仁木義仍・洞忠長・細川弥四郎・仁木義良・八条義言・中金季通・賀子義俊・清水実宗・栗生道機) 宇津山越え三河に逃走/細川一族上池義俊討死
- 1335年8月19日-09:00|日本|富山県|建武2年8月|名越時兼は杉本城を拠点とし、松倉城の椎名六郎入道等北陸の新政権側の勢力を攻撃しつつ、3万騎余を率い上洛を目論んだが、加賀の大聖寺城に抛り迎撃した福田・敷地・山岸・上木といった狩野一党や、援軍として派遣された瓜生保を初めとする越前の武曾・深町ら武士団に敗れ討ち取られた
- 1335年8月19日-09:00|日本| ||建武2年8月1日|<任命>征夷大將軍「成良親王」(9) 後醍醐天皇により
- 1335年8月19日-09:00|日本|長野県佐久市|建武2年8月1日|望月氏の拠っていた望月城が、小笠原貞宗の軍に攻め落とされる
- 1335年8月20日-09:00|日本| ||建武2年8月2日|先に捕らわれていた西園寺公宗、日野氏光が誅された
- 1335年8月21日-09:00|日本| ||建武2年8月3日|鎌倉大風。大仏殿が倒壊し、圧死者500余人
- 1335年8月24日-01:00|チェコ/ポーランド| ||シジギアは、ポーランドからポーミアに割譲される
- 1335年8月27日-09:00|日本|静岡県湖西市|建武2年8月9日|北条時行は名越式部大輔を大将として軍を派遣、遠江橋本で合戦となり時行方は敗れて引く
- 1335年8月28日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 判事代行「キルメイム修院長ロジャー・ウラ」(~9. 18)
- 1335年8月30日-09:00|日本|静岡県掛川市|建武2年8月12日|足利尊氏、小夜中山 (静岡県掛川市) で合戦、勝利/今川頼国の手により名越高邦戦死
- 1335年8月31日-09:00|日本|福島県石川郡平田村|建武2年8月13日|陸奥長倉城で挙兵した結城盛広・祐義らが攻め落とされたが、なおも木幡山に拠って反抗は続けられた
- 1335年9月1日-09:00|日本|静岡県静岡市|建武2年8月14日|駿河国府合戦では、大将尾張次郎が自害、塩田陸奥八郎及び侍大将諏訪次郎は生け捕られ北条時行方は負けた
- 1335年9月4日-09:00|日本|神奈川県足柄下郡箱根町|建武2年8月17日|<箱根合戦>足利尊氏は北条時行軍を箱根水呑・葦河上・大平下・湯本地蔵堂で破る
- 1335年9月5日-09:00|日本|神奈川県相模原市|建武2年8月18日|足利尊氏、相模の相模川に北条時行の軍を破る/尊氏の将小笠原七郎父子並びに小笠原彦次郎父子等討死し時行の将金刺頼秀もまた戦死
- 1335年9月6日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建武2年8月19日|足利尊氏、鎌倉を奪回/北条時行は伊豆へ逃れる
- 1335年9月6日-09:00|日本|神奈川県藤沢市|建武2年8月19日|足利尊氏、辻堂・片瀬原 (神奈川県藤沢市) で合戦、勝利/敗れた諏訪頼重が鎌倉勝長寿院で自害
- 1335年9月17日-09:00|日本| ||建武2年8月30日|<任命>奥州総大将「斯波家長」(~延元2・建武4(1337)年2月) 足利尊氏が公家北畠顕家 (陸奥守) に対抗させるため陸奥へ下向させる/家長陸奥斯波郡に拠点を構える
- 1335年9月17日-09:00|日本| ||建武2年8月30日|<補任>下野国司兼守護「小山朝氏」前守護小山秀朝の子(~貞和2・興国7(1346)年4月13日死去)
- 1335年9月18日-09:00|日本| ||建武2年9月|<任命>加賀国守護「富樫高家」(~建武4(1337)年)
- 1335年9月20日-09:00|日本|長野県|建武2年9月3日|小笠原貞宗、安曇・筑摩 (長野県松本市)・諏訪 (諏訪市)・有坂 (小県郡長和町) の諸城を攻め落とす
- 1335年10月9日-09:00|日本|長野県埴科郡坂城町|建武2年9月22日|信濃惣大将村上信貞、坂木北条城を攻め落とす
- 1335年11月1日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建武2年10月15日|足利尊氏が鎌倉を奪還後も鎌倉に居座る/京都朝廷に対し謀反
- 1335年11月16日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元1年11月|元、科挙をやめる
- 1335年11月24日-01:00|ポーランド| ||<死去>グロツワレグニツァ=ブジェク公「ハンク6世トブルイ」(生年1294年)
- 1335年11月30日-03:30|イラン| ||<死去>イルハン朝君主「アフ・サイト」内紛が消滅へ向かう
- 1335年11月30日-03:30|イラン| ||<即位>イルハン朝君主「アルハ・ケウン」フグの弟アリクケの曾孫(~1336年殺害される)
- 1335年12月8日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元1年11月23日|元の順帝 (恵宗) トゴン・テムルが至元 (後至元~1340年) と改元
- 1335年12月15日-09:00|日本| ||建武2年11月|<交替>信濃国守護「小笠原貞宗」⇒「村上信貞」(~翌年2月)
- 1335年12月15日-09:00|日本| ||建武2年11月|<任命>上野国守護「上杉憲房」(~建武3・延元元年1月27日 (13360310) 死去)
- 1335年12月15日-09:00|日本| ||建武2年11月|<任命>常陸国守護「佐竹貞義」(~正平7・文和元年9月10日 (13521018) 死去)
- 1335年12月26日-09:00|日本|宮城県多賀城市|建武2年11月12日|<任命>鎮守府将軍「北畠顕家」(~不詳)
- 1335年12月31日-01:00|イタリア| ||<死去>フェラー侯「リナルド」
- 1336年-08:00|インドネシア| ||<即位>サム・ラ・ハ・サイ王国第4代スルタン「Al-Malik azh-Zhahir2世」(~1349年)
- 1336年-07:00|カンボジア| ||<死去>クメール王朝国王「ジャヤヴァルマテ・イ・ラメ・シウ・アラ」暗殺される
- 1336年-07:00|カンボジア| ||<即位>クメール王朝国王「トロク・ヒャム」(~1340年)
- 1336年-07:00|タイ| ||<即位>ランナー王国マンラーイ朝国王「ハ・ユ」(~1355年)
- 1336年-03:30|イラン| ||<死去>イルハン朝君主「アルハ・ケウン」殺害される

1350迄 (1585件)

- 1336年-03:30|イラン| |||<即位>イルハン朝君主「ムサー」(~1337年死去)ハ「トウ」の孫、「ムハンマド」(~1338年死去)フガの子モンケ・テムルの玄孫
- 1336年-03:30|イラン| |||<即位>インジュ朝シャ「Amir Ghiyas al-Din Kai-Khusrau」(~1338年)
- 1336年-03:30|イラン/イラク| |||<即位>ジャラル朝初代国王「タージュ・ウッディーン・ハサン・ブズルク」(~1356年)
- 1336年-03:30|イラン| |||<即位>ムサッファル朝スルタン「ムハリス・ウッディーン・ムハンマド」(~1358年)
- 1336年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ポロツク公「ナリマンタス」(~1345年)
- 1336年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンテリア公「ジョヴァンニ・サヌト」(~1338年)
- 1336年-02:00|トルコ| |||オスマン朝がカスィ侯国併合
- 1336年-01:00|イタリア/フランス| |||<死去>サルツォ侯「フェデリコ1世」
- 1336年-01:00|ドイツ| |||<死去>スポンハイム・クロイツハ伯「Simon2世」
- 1336年-01:00|フランス| |||<死去>トリエ伯「Jean3世 de Trie」
- 1336年-01:00|ポーランド| |||<死去>ラチフシュ公「Leszek」
- 1336年-01:00|イタリア/フランス| |||<就任>サルツォ侯「トマゾ2世」(~13570818死去)
- 1336年-01:00|ドイツ| |||<就任>スポンハイム・クロイツハ伯「Walram」(~1380年死去)
- 1336年-01:00|イタリア| |||<就任>モデナ侯「ニコロ1世」フェラーラ侯(~13440501死去)、「トリエツォ3世」フェラーラ侯(~13520320死去)
- 1336年-01:00|ポーランド| |||<即位>フウツク公ホレスワフ3世[ヴャツワフ1世の息子](~13510820死去、領地はマゾフシェとポーランドの他の公の間で分割)
- 1336年1月2日-09:00|日本| ||建武2年11月19日|政府、尊良親王と新田義貞の軍を尊氏・直義追討で鎌倉へ送る
- 1336年1月5日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・至元1年12月21日|高麗・忠肅王、元の通告により至元と改元
- 1336年1月8日-09:00|日本|愛知県岡崎市|建武2年11月25日|<矢作川の戦い(三河国)>新田義貞、三河国矢矧川(愛知県岡崎市)で高師泰を破る
- 1336年1月9日-09:00|日本|香川県高松市|建武2年11月26日|足利方の将細川定禅、讃岐鷺田荘に挙兵し、高松頼重と屋島で戦い破る
- 1336年1月9日-09:00|日本|兵庫県赤穂郡上郡町|建武2年11月26日|赤松則村(58)、足利尊氏方につき挙兵
- 1336年1月10日-09:00|日本|愛知県岡崎市|建武2年11月27日|(25日~)<矢作川の戦い>後醍醐天皇の命をうけた新田義貞とその弟・脇屋義助、足利尊氏旗下の足利直義・高師泰の間で行われた合戦。双方は三河国で矢作川を挟んで布陣し、これに敗れた足利勢は遠江国に退却
- 1336年1月14日-09:00|日本|茨城県日立市|建武2年12月初|佐竹貞義、多賀郡甕の原にて北畠軍と合戦。敗走して西金砂山城に籠城
- 1336年1月14日-09:00|日本|愛媛県|建武2年12月|河野通盛、足利尊氏に従って伊予で兵を挙げる
- 1336年1月14日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建武2年12月|<任命>鎌倉公方「足利義詮」(~貞和5・正平4(1349)年9月9日)
- 1336年1月15日-09:00|日本|広島県|建武2年12月2日|武田信武、安芸国で尊氏方の旗を揚げ、逸見有朝、信武の麾下に加わる
- 1336年1月18日-09:00|日本|静岡県静岡市駿河区|建武2年12月5日|<手越河原の戦い>後醍醐天皇が尊氏追討令を新田義貞に命じた新田軍と足利軍との合戦/両軍は駿河国安倍川右岸河口付近の手越河原で激突。正午から夜8時まで17回の激闘の末、新田軍が夜襲に成功し直義勢は鎌倉に軍勢を引き揚げた
- 1336年1月19日-01:00|ベルギー| |||<死去>シニ伯「Louis6世」ルズ伯Louis4世
- 1336年1月19日-01:00|ベルギー| |||<就任>シニ伯「Thierry de Heinsberg」(~13610117死去)
- 1336年1月20日 00:00|イギリス| |||<死去>エッセクス伯「ジョン・ド・ブーン」
- 1336年1月20日 00:00|イギリス| |||<就任>エッセクス伯「ハフリッド・ブーン」(~13611015死去)
- 1336年1月21日-09:00|日本|三重県|建武2年12月8日|<死去>浄土真宗仏光寺派の中興の祖、僧「了源」伊賀国(三重県)の山中で布教中に殺される
- 1336年1月22日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建武2年12月9日|鎌倉・浄光明寺に隠棲していた足利尊氏(30)が挙兵/これに呼応して南朝軍の佐々木道誉(29)が足利方に寝返
- 1336年1月24日-01:00|スペイン/イタリア| |||<死去>アラゴン国王・サルデーニャ国王「アルフォンソ4世」兼バルセロナ伯「アルフォンソ3世慈悲王」37歳
- 1336年1月24日-01:00|スペイン/イタリア| |||<即位>アラゴン国王・サルデーニャ国王「ペドロ4世」兼バルセロナ伯「ペドロ3世(尊儀王)」(~13870105死去68歳)
- 1336年1月24日-09:00|日本|神奈川県足柄下郡箱根町|建武2年12月11日|<箱根・竹ノ下の戦い>箱根・竹ノ下で足利尊氏勢と新田義貞勢の間で行われた合戦/尊氏軍が押し気味に戦局が展開し大友貞載と塩冶高貞が尊氏軍に寝返ったため、義助軍は総崩れとなり敗走/義貞は、軍を撤退させる/近江守護の佐々木道誉も尊氏軍に寝返り義貞軍も総崩れ/尊良親王の近侍であった中将二条為冬が戦死
- 1336年1月25日-09:00|日本|富山県|建武2年12月12日|普門俊清、越中で挙兵(足利尊氏方)
- 1336年1月25日-09:00|日本|静岡県裾野市|建武2年12月12日|<佐野原の戦い>足利尊氏が後醍醐天皇に背き鎌倉で挙兵したとき、尊良親王股肱の臣と公家大将藤原朝臣二条為冬が箱根竹ノ下の戦いで味方の大友・佐々木の寝返りで敗れ佐野原へ退いた後ここで戦い討ち死に
- 1336年1月26日-09:00|日本|静岡県三島市|建武2年12月13日|<伊豆国府の戦い>足利尊氏、箱根を越え伊豆国府に攻め入り、新田義貞勢を破り、伊豆国府を奪回
- 1336年1月26日-09:00|日本| ||建武2年12月13日|日向国の肝付兼重・伊東祐広・肥後国の菊池武敏らが挙兵、政府軍に応じる

1350迄 (1585件)

- 1336年2月4日-09:00|日本| ||建武2年12月22日|北畠顕家は義良親王を奉じ奥州の兵を引き連れ、尊氏軍を追って上京開始/その兵数5万
- 1336年2月5日-09:00|日本|新潟県新潟市|建武2年12月23日|<蒲原合戦>加地景綱は色部高長らを率いて蒲原津城の前線陣地・松崎で合戦、南朝方は小国政光らを中心に奮戦、北朝方は野田左衛門次郎家清など重臣を失いながらも南朝軍を駆逐
- 1336年2月6日-09:00|日本|新潟県新潟市|建武2年12月24日|<蒲原合戦>前日に続き沼垂で市街戦となり北朝方が大きな犠牲を払いながらも勝利、南朝軍は阿賀野川を越えて蒲原津城に撤退
- 1336年2月8日-09:00|日本|広島県広島市安芸区|建武2年12月26日|<矢野城合戦>武田信武、安南郡矢野城に楯籠った天皇方の熊谷蓮覚を攻滅ぼす
- 1336年2月9日-09:00|日本|千葉県香取郡多古町|建武2年12月27日|<千田荘の合戦(下総国)>千田一族の孫太郎子息滝楠殿が宗主胤貞に対して叛乱を企てて、千葉介(胤胤)と一味同心して、竹元や岩部など付近の在地武士を糾合し胤貞の本拠である大島城(多古町島)に攻めよせた/圧倒的な叛乱軍のために大島城から土橋城を経て岩部城に至る防禦線は分断され、早朝から日没に至る戦闘の末に土橋・並木の両城は陥落
- 1336年2月13日-09:00|日本| ||延元1・建武3年|<任命>(南朝)伊予国守護「大館氏明」(~康永元・興国3(1342)年9月3日死去)
- 1336年2月13日-09:00|日本| ||建武3年|<任命>(南朝)薩摩国守護「阿蘇惟時」(~興国3・暦応5(1342)年)
- 1336年2月13日-09:00|日本| ||建武3年|<任命>伊勢・志摩国守護「畠山高国」(~延元3・建武5(1338)年解任)
- 1336年2月13日-09:00|日本| ||建武3年|<任命>遠江国守護「今川範国」(~暦応元(1338)年9月)
- 1336年2月13日-09:00|日本| ||建武3年|<任命>薩摩国守護「島津貞久」(~貞治2(1363)年4月退任、師久が継ぐ)
- 1336年2月13日-09:00|日本| ||建武3年|<任命>出雲・隠岐国守護「塩高貞」(~興国2・暦応4(1341)年3月24日出奔)
- 1336年2月13日-09:00|日本| ||建武3年|<任命>上総国守護「高師直」(~延元3・建武5(1338)年)
- 1336年2月13日-09:00|日本| ||建武3年|<任命>対馬守護「少貳頼尚」(~正平16・延文6(1361)年)
- 1336年2月13日-09:00|日本| ||建武3年|<任命>但馬国守護「今川頼貞」(~同年)⇒「桃井盛義」(~延元4・暦応2(1338)年)
- 1336年2月13日-09:00|日本| ||建武3年|<任命>丹後国守護「今川頼貞」(~同年)
- 1336年2月13日-09:00|日本| ||建武3年|<任命>備前国守護「松田盛朝」(~正平10・文和4(1355)年)
- 1336年2月13日-09:00|日本| ||建武3年|<任命>尾張国守護「中条秀長」(~暦応元(1338)年)
- 1336年2月13日-09:00|日本| ||建武3年|<任命>美濃国守護「土岐頼貞」(~延元4・暦応2(1339)年2月22日死去)
- 1336年2月13日-09:00|日本| ||建武3年|これより先、吉田兼好、「徒然草」を著わす
- 1336年2月13日-09:00|日本|愛媛県松山市|建武3年|河野通盛、善応寺を建て正堂土顕を開山とする
- 1336年2月13日-07:00|ベトナム| ||大越・開祐8年|黎則が「安南志略」20巻を完成
- 1336年2月13日-09:00|日本|京都府京都市東山区|建武3年1月|親鸞御影堂(大谷)焼亡
- 1336年2月14日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建武3年1月2日|北畠顕家、兵をおこし鎌倉を攻め、足利義詮・桃井直常の軍勢を破り、鎌倉を占領
- 1336年2月15日-09:00|日本|滋賀県大津市|建武3年1月3日|足利尊氏軍は新田義貞軍を追撃し近江瀬田唐橋で激突、搦め手の宇治で尊氏軍が勝利し、宮方は撤退し、京を巡る合戦に突入
- 1336年2月19日-09:00|日本|滋賀県草津市|建武3年1月7日|足利尊氏の軍が叡山の僧成願坊が三百余騎で立て籠もった近江国伊伎洲城を攻略
- 1336年2月22日-09:00|日本|京都府京都市中京区|建武3年1月10日|二条富小路殿焼亡
- 1336年2月22日-09:00|日本|京都府八幡市|建武3年1月10日|<淀大渡の戦い>細川定禅・赤松則村、新田軍を破り入京
- 1336年2月22日-09:00|日本|滋賀県大津市|建武3年1月10日|後醍醐天皇(48)、神器を奉じ近江国東坂本に回避
- 1336年2月28日-09:00|日本|滋賀県大津市|建武3年1月16日|北畠顕家と楠木正成・新田義貞の連合軍は園城寺にいた足利尊氏方の軍勢を破り軍を率いていた細川定禅は敗走
- 1336年2月29日-09:00|日本|長野県長野市|建武3年1月17日|小笠原貞宗は村上信貞と協力して清滝城を攻撃破却
- 1336年3月6日-09:00|日本|長野県長野市|建武3年1月23日|清滝城を攻め落とす村上信貞が、市河経助らの軍を率いて、香坂心覚らの籠る牧城を攻めるが落とせなかった
- 1336年3月10日-09:00|日本| ||建武3年1月27日|<任命>長門探題「斯波高経」(~不詳)
- 1336年3月10日-09:00|日本|京都府京都市|建武3年1月27日|<京都合戦>新田義貞(35)・北畠顕家(18)軍、京で足利尊氏(31)を破り京都奪取
- 1336年3月10日-09:00|日本|群馬県|建武3年1月27日|<死去>上野国守護「上杉憲房」憲顕が継ぐ(~正平6・観応2(1351)年12月解任)
- 1336年3月12日-01:00|ベルギー| ||<死去>ハムル伯「ギ-2世」
- 1336年3月12日-01:00|ベルギー| ||<就任>ハムル伯「フィリップ」3世「ギ-2世の弟」(~1337.9死去)
- 1336年3月13日-09:00|日本|京都府亀岡市|建武3年1月30日|<糺河原の合戦>新田・北畠軍は京都とその周辺で攻勢をかけ戦いで敗れた足利尊氏は丹波国篠村八幡宮に撤退
- 1336年3月14日-09:00|日本| ||建武3年2月|<交替>信濃国守護「村上信貞」⇒「小笠原貞宗」(~建武5・延元3(1338)年4月)
- 1336年3月14日-09:00|日本| ||建武3年2月|<再任>播磨国守護「赤松則村」(~正平5・観応元(1350)年1月11日死去)
- 1336年3月14日-09:00|日本| ||建武3年2月|<任命>安芸国守護「武田信武」(~興国6・貞和元(1345)年12月)

1350迄 (1585件)

- 1336年3月14日-09:00|日本| ||建武3年2月|<任命>丹波国守護「仁木頼章」(~康永2(1343)年12月解任)
- 1336年3月18日-09:00|日本| ||建武3年2月5日|<任命>(南朝)鎮守府將軍「北畠顕家」(~延元3・建武5(1338)年5月22日討ち死に)
- 1336年3月19日-09:00|日本|茨城県|建武3年2月6日|楠木正家(正成一族)、常陸久慈西郡の戦いで佐竹義冬を敗死させる
- 1336年3月23日-09:00|日本|兵庫県西宮市|建武3年2月10日|<西宮の戦い>足利尊氏側に味方した山陽周防国(現:山口県東南)・長門国(現:山口県西)の守護大名が瀬戸内海を渡り、約500の軍艦を率いて摂津国神戸港に入港/尊氏側は周防・長門の援軍に合流して港を出て都に攻め上ろうとするが、西宮浜で待ち構えていた楠木正成と合戦になり終日戦って決着がつかない/同日夜、正成は陣を引いた
- 1336年3月24日-09:00|日本| ||建武3年2月11日|<任命>淡路国守護「細川師氏」(~正平3・貞和4(1348)年5月23日死去)
- 1336年3月24日-09:00|日本|大阪府池田市|建武3年2月11日|<豊島河原合戦(摂津国)>足利尊氏は合流した援軍を従えて攻め上り新田義貞・北畠顕家両軍と豊島河原(瀬川)で合戦を繰り広げ、結果尊氏側は新田・北畠軍に大敗を喫した
- 1336年3月25日-09:00|日本| ||建武3年2月12日|足利尊氏(31)、厚東・大友氏の船で海路九州へ敗走
- 1336年3月26日-09:00|日本| ||建武3年2月13日|<死去>洞院季子、伏見天皇の妃(生年1265年)
- 1336年3月28日-09:00|日本|長野県|建武3年2月15日|北条時興と丹波右近大夫が、国衛の在庁役人深志介知光らと信濃国に挙兵、小笠原貞宗(44)らと戦う
- 1336年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ベンチュルツォ・ド・フランチェスキ」 「ムジロ・ダ・ハウティ」
- 1336年4月5日-01:00|イタリヤ| ||<死去>グラーヴィーナ伯「ジョアンニ・デ・イトゥラツォ」
- 1336年4月5日-01:00|イタリヤ| ||<就任>グラーヴィーナ伯「Charles, Duke of Durazzo」(~13480123死去)、「Louis」(~13620722死去)
- 1336年4月11日-09:00|日本| ||建武3・延元元年2月29日|南朝が「延元」と改元
- 1336年4月11日-09:00|日本|福岡県太宰府市|建武3年2月29日|少弐貞経、菊池武敏に大宰府を攻められ自害
- 1336年4月13日-09:00|日本|広島県尾道市|建武3・延元元年3月2日|僧道宗の発願により、尾道光明寺の堂宇再興成る
- 1336年4月13日-09:00|日本|福岡県福岡市東区|建武3・延元元年3月2日|<多々良浜の戦い(筑前国)>足利勢は、筑前国宗像(現在の福岡県宗像市周辺)を本拠とする宗像氏範らの支援を受けて宗像大社に戦勝を祈願し、筑前国の多々良浜(多々良川付近)に布陣した菊池氏率いる宮方と戦うが、足利軍は約2千騎に過ぎず兵力の差は歴然で、少弐貞経が足利軍のために調達した装備は菊池軍の大宰府攻撃の際に焼失していたため、当初は宮方の菊池軍が優勢であったが、菊池軍に大量の裏切りが出たため戦況は逆転し、菊池軍は総崩れで敗走し、阿蘇惟直は戦死
- 1336年4月18日-05:30|インド| ||<即位>グイジャナル王国(サガマ朝)国王「ハリハ1世」(~1356年)、「グイジャナル王国」(~1649年)創始
- 1336年4月22日-09:00|日本|沖縄県|元・至元2年3月11日|<死去>琉球国王「玉城」
- 1336年4月22日-09:00|日本|沖縄県|元・至元2年3月11日|<即位>琉球国王「西威」(~13490430(至正9年4月13日)死去滅亡)
- 1336年4月27日-09:00|日本|福島県相馬市|建武3・延元元年3月16日|相馬光胤らは宇多郡の熊野堂城にあった白河宗広の一族中村広重と黒木城の黒木正光を攻撃
- 1336年5月5日-09:00|日本|大分県玖珠郡玖珠町|建武3・延元元年3月24日|一色頼行ら、反尊氏軍の拠点玖珠城を攻撃
- 1336年5月11日-09:00|日本|兵庫県赤穂郡上郡町|建武3・延元元年3月30日|<白旗合戦>赤松円心の籠もる赤松城(後の白旗城)に対し後醍醐方の新田義貞が包囲する(5月攻略できずに兵庫に撤退)
- 1336年5月12日-09:00|日本| ||建武3・延元元年4月|<任命>九州探題「一色範氏」(~貞和2・正平元(1346)年8月)
- 1336年5月12日-09:00|日本| ||建武3・延元元年4月|<任命>土佐国守護「細川顕氏」(~建武4(1337)年)
- 1336年5月17日-09:00|日本| ||建武3・延元元年4月6日|<死去>93代「後伏見天皇」/49歳(誕生:弘安11(1288)0303)
- 1336年5月23日-01:00|ポーランド| ||<死去>プウォツク公「ウァツワ1世」
- 1336年5月23日-01:00|ポーランド| ||<即位>プウォツク公「ホレスワフ3世」(~13510820死去、領地はゾフシェとポーランドの他の公の間で分割)
- 1336年5月27日-09:00|日本|神奈川県藤沢市|建武3・延元元年4月16日|片瀬川の戦い(江ノ島付近)、北畠顕家が斯波家長を蹴散らす
- 1336年6月1日-09:00|日本|宮城県気仙沼市|建武3・延元元年4月21日|葛西高直は、本吉郡馬籠城を攻めて馬籠家当主・千葉行胤(周防守)を攻め滅ぼした
- 1336年6月7日-01:00|スイス| ||チューリッヒでツフト革命が成る
- 1336年6月10日-09:00|日本| ||建武3・延元元年5月|<任命>石見国守護「上野頼兼」(~貞和5(1349)年)
- 1336年6月18日-09:00|日本| ||建武3年5月9日|<任命>関東執事「斯波家長」(~建武4(1337)年12月25日死去)
- 1336年6月24日-09:00|日本|広島県福山市|建武3・延元元年5月15日|夕刻より福山城攻城戦が始まり籠城している大井田軍はよく奮戦し、足利軍は2万の死傷者を出した
- 1336年6月25日-09:00|日本|広島県福山市|建武3・延元元年5月16日|足利直義、朝原峠より攻撃を開始したが、福山城兵撃退
- 1336年6月26日-09:00|日本|広島県福山市|建武3・延元元年5月17日|福山城火をかけられ落城/氏経は僅かに400

1350迄 (1585件)

人ばかりとなった将兵と共に足利軍の布陣を突破/20回以上の戦闘を繰り返しながら本陣のある播磨国との国境にほど近い備前国三石城に逃れた

- 1336年7月3日-09:00|日本|福島県南相馬市|建武3・延元元年5月24日|広橋経泰と相馬胤平の軍勢を糾合した北畠顕家の大軍が小高城を攻撃し、相馬光胤は一族岡田長胤・胤治・胤俊らとともに討ち死にし小高城は落城
- 1336年7月4日-09:00|日本| ||建武3・延元元年5月25日|<任命>和泉国守護「畠山国清」(~建武4(1337)年4月)
- 1336年7月4日-09:00|日本|兵庫県神戸市中央区|建武3・延元元年5月25日|<死去>摂津・和泉守護「楠木正成」
- 1336年7月4日-09:00|日本|兵庫県神戸市中央区|建武3・延元元年5月25日|<湊川の戦い>摂津国湊川で、九州から東上して来た足利尊氏・足利直義兄弟らの軍が、これを迎え撃った後醍醐天皇方の新田義貞・楠木正成の軍を破る/楠木正成(42)は弟の楠木正季ら一族とともに自害/新田は敗走/後醍醐天皇(48)再度、比叡山に逃れる
- 1336年7月6日-09:00|日本|滋賀県大津市|建武3・延元元年5月27日|醍醐天皇、新田義貞が護衛し三種の神器を持って比叡山へ避難
- 1336年7月9日-09:00|日本| ||建武3年6月|<任命>伊予国守護「河野通盛」(~延元3・建武5(1338)年)
- 1336年7月13日-09:00|日本|滋賀県大津市|建武3・延元元年6月5日|足利直義(30)、延暦寺を攻撃
- 1336年7月15日-09:00|日本|京都府京都市左京区|建武3・延元元年6月7日|南軍の将千種忠顕戦、雲母坂(修学院音羽谷)で足利直義に敗れ戦死
- 1336年7月23日-09:00|日本| ||建武3・延元元年6月15日|光厳上皇、延元改元を無効として元号を「建武」に戻す
- 1336年7月28日-09:00|日本|滋賀県大津市|建武3・延元元年6月20日|新田義貞、比叡山山門の寄手を討破り、山名時氏京都へ引き退る
- 1336年8月 00:00|イギリス/フランス| ||イングランド王エドワード3世、「フランドル」の「毛織物業」の原料「羊毛」の輸出を禁止
- 1336年8月4日-09:00|日本|長野県長野市|建武3・延元元年6月27日|(26日~)村上信貞、守護代小笠原経義が香坂心覚らの立て籠っている牧城を攻めるが落とせず
- 1336年8月7日-09:00|日本| ||建武3・延元元年6月30日|<任命>伯耆国守護「石橋和義」(~建武4(1337)年)
- 1336年8月7日-09:00|日本|京都府京都市|建武3・延元元年6月30日|<京都合戦>足利尊氏から京都奪回を試みた新田義貞・名和長年ら後醍醐天皇方が敗北
- 1336年8月7日-09:00|日本|京都府京都市|建武3・延元元年6月30日|<死去>伯耆守護「名和長年」洛中で戦死
- 1336年8月8日-09:00|日本| ||建武3・延元元年7月|<任命>能登国守護「吉見頼為」(~8月)
- 1336年8月12日-09:00|日本|京都府京都市|建武3・延元元年7月5日|宇都宮公綱(後醍醐方)、京都奪回を目指すも失敗
- 1336年8月20日-09:00|日本|京都府京都市|建武3・延元元年7月13日|<京都合戦>京都で足利尊氏2万騎と新田義貞2万騎の戦いにおいて、仁木・細川・今川・荒川・土岐・佐々木・逸見・武田・小早川は新田義貞に敗れる
- 1336年8月30日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|建武3・延元元年7月23日|今川範国、大將軍として武田信武らと共に、醍醐宇治を攻略。今川範国、醍醐寺の官軍を攻め、仏像および經典数万帙を焼く
- 1336年9月1日-09:00|日本| ||建武3・延元元年7月25日|<任命>若狭国守護「斯波家兼」(~12月)
- 1336年9月5日-01:00|フランス| ||<死去>エタフ伯「Charles d'Evreux」
- 1336年9月5日-01:00|フランス| ||<就任>エタフ伯「Louis1世 d'Evreux」(~1399年~14000506死去)
- 1336年9月6日-09:00|日本| ||建武3・延元元年8月|<交替>能登国守護「吉見頼為」⇒「吉見頼顕」(~翌年1月)
- 1336年9月6日-09:00|日本| ||建武3年8月|<任命>因幡国守護「吉良貞家」(~興国6・貞和2(1346)年10月)
- 1336年9月20日-09:00|日本| ||建武3年8月15日|<就任>関白「近衛経忠」(~建武3年12月28日)
- 1336年9月20日-09:00|日本| ||建武3・延元元年8月15日|<踐祚>北朝2代「光明天皇」/延元2年12月28日即位式/北朝は建武の年号を使用~13481027
- 1336年9月25日-09:00|日本|京都府京都市|建武3・延元元年8月20日|新田義貞、賀茂糺河原方面に戦い破れる
- 1336年9月28日-09:00|日本|京都府京都市|建武3・延元元年8月23日|細川直俊、今川心省範国ら淀・竹田の官軍を攻めて破る
- 1336年10月6日-09:00|日本| ||建武3年9月|<任命>紀伊国守護「畠山国清」(~観応2(1351)年8月)
- 1336年10月6日-09:00|日本|埼玉県本庄市|建武3・延元元年9月|<蕪山合戦>武蔵国児玉郡浅見山(別名、大久保山)周辺域(現埼玉県本庄市から児玉町一帯)で北畠顕家が足利方として同地方にいた安保光泰の一党を討って南進/児玉氏の菩提寺である西光寺と庄氏の菩提寺である宍塚寺が焼失
- 1336年10月6日-09:00|日本|大阪府岸和田市|建武3・延元元年9月1日|岸和田治氏(楠木残党)が足利方の畠山国清と戦ったが足利方に押され八木城に籠城
- 1336年10月12日-09:00|日本|大阪府貝塚市|建武3・延元元年9月7日|天王寺から中院右少将と楠木一族の橋本正茂らが援軍に来たため岸和田治氏が八木城中から撃って出て畠山国清を挟み撃ち/国清は撤退し蕎原城に籠城したが治氏らは同城を落とし国清を敗走させた
- 1336年10月16日-09:00|日本|滋賀県大津市|建武3年9月中旬|<近江の戦い(近江国)>足利方の小笠原貞宗が甲斐・信濃両国の一族・軍勢3,000余騎を連れて、東山道から近江国へ進み、瀬田(現在の滋賀県大津市瀬田)まで差し掛かったところ、比叡山の衆徒が瀬田の唐橋を撤回した後だったので、仕方なく野路に陣を張った/そこに新田義貞・脇屋義助が瀬田川を渡って攻撃を仕掛け、大きな戦いとなったが、最後は貞宗が勝利/貞宗は次の攻撃を警戒して、より防衛力の高い鏡山に陣を張り直したが、それにも関わらず新田軍は果敢に攻撃を続けてきたので、これも撃退
- 1336年10月18日-09:00|日本|愛知県豊川市|建武3年9月13日|吉良宮内少輔四貞経、襲撃してきた井伊谷を拠点とする新田左馬助義氏を八幡(豊川市八幡)の陣を破り、本野原(豊川市本野ヶ原)の拠点を落とし、篠原~天竜川河畔で合戦。細川頼種・仁木頼高討死
- 1336年11月-01:00|フランス| ||<死去>バル伯「Etouart1世」

1350迄 (1585件)

- 1336年11月-01:00|フランス| |||<就任>バル伯「アンリ4世」(~1344年死去)
- 1336年11月1日-09:00|日本|広島県世羅郡世羅町|建武3年9月27日|山内親西ら、竹内兼幸らの拠る重永城を攻略
- 1336年11月3日-09:00|日本|滋賀県草津市|建武3年9月29日|<近江の戦い(近江国)>足利軍佐々木道誉・小笠原貞宗と新田軍新田義貞・脇屋義助が伊岐代・馬場で開戦/これに負けて逃げる新田軍を足利軍は追撃して志那浜(草津市志那町の志那浜湖岸)で散々に打ち破り、足利方の武将田代頭綱も首級一つをあげるなどの武勇を見せた
- 1336年11月4日-09:00|日本| ||建武3年10月|<任命>駿河・伊豆国守護「石塔義房」(~建武5・延元3(1338)年1月)
- 1336年11月13日-09:00|日本|京都府京都市|建武3・延元元年10月10日|後醍醐天皇(48)は足利尊氏と講和し京都へ戻るが花山院に幽閉された
- 1336年11月14日-09:00|日本|滋賀県長浜市|建武3・延元元年10月11日|近江塩津の大雪での戦いで、新田方の得能通綱・土居通増が戦死
- 1336年11月15日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「キルメイナム修院長ロジャー・ウラ」(~13371015)
- 1336年11月15日-09:00|日本|大分県玖珠郡玖珠町|建武3・延元元年10月12日|北朝軍が南朝諸将を籠る豊後の玖珠城を落城させた
- 1336年11月16日-09:00|日本|福井県敦賀市|建武3・延元元年10月13日|新田義貞(35)は恒良(11)・尊良親王(30)を奉じて越前金ヶ崎城に入る
- 1336年11月18日-09:00|日本|福井県敦賀市|建武3・延元元年10月15日|今川駿河守頼貞、海上を回って金崎城を攻めるも叶わず
- 1336年12月5日-09:00|日本|京都府京都市|建武3・延元元年11月2日|後醍醐天皇(48)、光明天皇(15)に神器を渡す/後醍醐天皇(48)に太上天皇の尊号を贈る
- 1336年12月10日-09:00|日本|京都府京都市下京区|建武3・延元元年11月7日|<任命>室町幕府執事「高師直」(~正平4・貞和5(1349)年閏6月15日)
- 1336年12月10日-09:00|日本|京都府京都市下京区|建武3・延元元年11月7日|足利尊氏(31)、京・室町に幕府を開く/「建武式目」17条を定めて新たなる武家政権の基本方針を定める
- 1336年12月22日-09:00|日本| ||建武3・延元元年11月19日|<任命>下総国守護「千葉貞胤」(~正平6・観応2(1351)年正月1日(13510128)死去)
- 1336年12月22日-09:00|日本|青森県弘前市|建武3・延元元年11月19日|持寄城が落城し、名越時如・安達高景らが降伏
- 1336年12月30日-09:00|日本|愛知県|建武3・延元元年11月27日|新田義貞と足利直義の軍勢、三河国矢作川を挟んで対峙/直義敗れて遠江国鷺坂に退く
- 1337年-05:00|パキスタン/インド| |||インド地方でジャム・ウールがサマム朝を創始
- 1337年-04:00|ロシア| |||<即位>プスコフ公「フェオドール・アレクサンドロヴィチ」(~1341年)
- 1337年-03:30|イラン| |||<死去>イルハン朝君主「ムサー」
- 1337年-03:30|イラン| |||<即位>イルハン朝君主「トグテムルチンギス・カンの弟ジョチ・カルの後裔」(~1353年死去)
- 1337年-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「イワン・アッシン4世」共同統治者(~1349年没)
- 1337年-02:00|トルコ| |||オスマン朝がコメニエを攻略
- 1337年-02:00|リトアニア| |||サモギティアはトラカイ公領地の一部(~1398年)
- 1337年-02:00|エジプト/アルメニア| |||マムルーク朝軍がアルメニア王国を服属させる
- 1337年-01:00|ポーランド| |||<就任>クウォグフ公「ハンリ1世 of Jawor」(~13460515死去)
- 1337年-01:00|ポーランド| |||<就任>ラチフ・シュ公「ニコラス2世」(~13651208死去)
- 1337年-01:00|アルジェリア| |||<廃位>ザイヤーン朝スルタン「アブ・タシュフィーン1世」マリン朝に支配される(~1348年)
- 1337年 00:00|マリ| |||<死去>マリ帝国マンサ「マンサ・ムサ1世」
- 1337年 00:00|イギリス| |||<就任>コンウォール公「エドワード」エドワード3世の子(~13760608死去)
- 1337年 00:00|イギリス| |||<就任>ダービー伯「ヘンリー・オブ・ゲロメント」(~13610327死去)
- 1337年 00:00|イギリス| |||<就任>ノーサンプトン伯「ウィリアム・ト・ブーン」(~13600916死去)
- 1337年 00:00|マリ| |||<即位>マリ帝国マンサ「Maghan」(~1341年)
- 1337年 00:00|イギリス| |||イギリスで毛皮法が制定、毛皮の着用を王室と高収入貴族に限定
- 1337年 00:00|モロッコ| |||マリン朝がザイヤーン朝からトムセンを奪う
- 1337年1月3日-09:00|日本| ||建武3年12月|<交替>若狭国守護「斯波家兼」⇒「京極高氏」(~建武4(1337)年)
- 1337年1月3日-09:00|日本| ||建武3年12月|<任命>越中国守護「吉見頼隆」(~建武4(1337)年)
- 1337年1月3日-09:00|日本| ||建武3年12月|<任命>河内国守護「細川頼氏」(~貞和3・正平2(1347)年11月解任)
- 1337年1月3日-09:00|日本|三重県度会郡度会町|建武3・延元元年12月|北畠親房、伊勢の軍を率いて北朝方の棚橋大神宮法楽寺を占領
- 1337年1月8日-01:00|イタリア| |||<死去>ジョット・ディ・ボントーネ(生年1267年頃/イタリアの画家、彫刻家、建築家)
- 1337年1月13日-09:00|日本|茨城県那珂市|建武3・延元元年12月11日|楠木正家の拠る常陸瓜連城、佐竹氏に攻められ落城
- 1337年1月23日-09:00|日本|奈良県吉野郡吉野町|建武3・延元元年12月21日|<南北朝分裂>後醍醐天皇(48)幽閉されていた花山院を脱出、吉野へ逃れる
- 1337年1月30日-09:00|日本| ||建武3年12月28日|<就任>関白「近衛経忠」(~建武4年4月6日)
- 1337年1月30日-09:00|日本|奈良県吉野郡吉野町|建武3・延元元年12月28日|後醍醐天皇は吉野吉水院を行宮に定め、豊仁親王に譲った三種の神器は偽物であり本物の神器は自らが吉野に持ってきた物であると称して独自の朝廷(南朝)を樹立(南北朝両立)

1350迄 (1585件)

1337年2月1日-09:00|日本|沖縄県|元・至元3年|<即位>琉球南山国王「承察度」(~1396年)
1337年2月2日-09:00|日本| ||建武4年|<交替>若狭国守護「京極高氏」⇒「斯波家兼」(~延元3・建武5(1338)年5月)
1337年2月2日-09:00|日本| ||建武4年|<交替>土佐国守護「細川頼氏」⇒「細川定禅」(~延元4・暦応2(1339)年)
1337年2月2日-09:00|日本| ||建武4年|<交替>日向国守護「細川頼春」⇒「大友氏泰」(~同年)
1337年2月2日-09:00|日本| ||建武4年|<任命>越後国守護「高師泰」(~延元3・建武5(1338)年)
1337年2月2日-09:00|日本| ||建武4年|<任命>三河国守護「高師兼」(~興国2・暦応4(1341)年)
1337年2月2日-09:00|日本|岩手県西磐井郡平泉町|延元2・建武4年|この年、平泉中尊寺焼失
1337年2月2日-09:00|日本|滋賀県東近江市|延元2・建武4年|この年、近江国妙楽寺真宗絵系図描かれる
1337年2月2日-09:00|日本|三重県松阪市|延元2・建武4年|潮田幹景、松阪神山城を築城
1337年2月2日-09:00|日本| ||建武4年1月|<交替>能登国守護「吉見頼顕」⇒「吉見頼隆」(~正平3・貞和4(1348)年)
1337年2月2日-09:00|日本|福島県相馬市|延元2・建武4年1月|相馬松鶴丸は再び蜂起し小高城を奪い返した
1337年2月9日-09:00|日本|福島県伊達市|延元2・建武4年1月8日|幕府軍、北畠顕家(19)は義良親王(9)を奉じ陸奥国霊山城に籠り蜂起
1337年2月13日-09:00|日本|福井県敦賀市|延元2・建武4年1月12日|<金ヶ崎の戦い>足利軍の攻撃を受けている金ヶ崎城の後方支援をすべく動いていた瓜生兄弟が敵に迎撃され兄の瓜生保と弟の義鑑が討死
1337年2月27日-09:00|日本|福島県相馬市|建武4;延元2年1月26日|相馬松鶴丸は中村広重の熊野堂城を攻撃し落城させた
1337年3月 00:00|イギリス| ||<就任>サフォーク伯「ロバート・ドゥ・アフォード」(~13691104死去)
1337年3月3日-09:00|日本|宮城県多賀城市|延元2・建武4年2月|<任命>奥州総大将「石塔義房」(~貞和元・興国6(1345)年9月解任)
1337年3月3日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元3年2月|元の河南で胡閏児の白蓮教反乱がおこる
1337年3月10日-01:00|イタリア| ||ベネチアでガイスコンティ、エステ、コンツァーガ各家、反スカ同盟で手をつなぐ
1337年3月16日 00:00|イギリス| ||<就任>ソールズベリー伯「ウィリアム・モンタギュー」(~13440130死去)
1337年3月16日 00:00|イギリス| ||<就任>ダークヒュー伯「ヘンリー(オブ・ケロズモント)」(⇒13450922兼4代ランカスター伯・4代レスター伯⇒13490820兼リコン伯⇒13510306初代ランカスター公~13610324死去)
1337年3月16日 00:00|イギリス| ||<就任>ハンティントン伯「William de Clinton」(~13541031死去)
1337年4月7日-09:00|日本|福井県敦賀市|延元2・建武4年3月6日|<金ヶ崎の戦い>越前国金ヶ崎城に籠城する新田義貞率いる南朝方の軍勢を斯波高経率いる北朝方の軍勢が攻め落城させる/尊良親王・新田義顕は自害、恒良親王は北朝方に捕縛され、洞院実世は脱出し、杣山城へ逃れる
1337年4月7日-09:00|日本|福井県敦賀市|延元2・建武4年3月6日|<死去>尊良親王、皇族、後醍醐天皇の皇子(生年生年未詳)
1337年4月11日-09:00|日本|大阪府藤井寺市|建武4年3月10日|細川頼氏・直俊兄弟が田代頼綱らを率い河内国葛井寺前大路で南朝軍の大塚惟正が率いる平石源次郎・八木法達・岸和田治氏らと戦い細川直俊戦死
1337年5月1日-09:00|日本| ||建武4年4月|<任命>武蔵国守護「高重茂」(~延元3・建武5(1338)年)
1337年5月1日-09:00|日本|大阪府|建武4年4月|<交替>和泉国守護「畠山国清」⇒「細川頼氏」(~貞和3・正平2(1347)年12月解任)
1337年5月5日-09:00|日本|奈良県吉野郡吉野町|延元2・建武4年4月5日|北朝関白近衛経忠、吉野の南朝へ出奔
1337年5月10日 00:00|フランス諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Thomas de Ferriers」(1期目~1340年)、代理「Gautier de Weston」(1期目~1341年)
1337年5月16日-09:00|日本|京都府京都市|建武4年4月16日|<就任>北朝関白「近衛基嗣」(~建武5年5月19日)
1337年5月21日-09:00|日本| ||延元2・建武4年4月21日|<任命>丹後国守護「荒川詮頼」(~同年)⇒「上杉朝定」(~延元3・建武5(1338)年)
1337年5月24日-01:00|フランス| ||フランス国王フィリップ6世が、エドワード3世の反逆により、ガスコニュ所領の没収を宣言
1337年5月26日-09:00|日本|鹿児島県|建武4;延元2年4月26日|足利直義(31)、島津頼久らを薩摩国に帰還させ伊集院忠国らを討たせる
1337年5月31日-09:00|日本| ||建武4年5月|この頃、光照寺・宝田院・宝光寺の一流相承系図成る
1337年6月7日-01:00|フランス| ||<就任>エノー伯「ギヨーム2世」(~13450926死去)
1337年6月11日-09:00|日本| ||延元2・建武4年5月12日|<死去>珣子内親王、後醍醐天皇の中宮(生年1311年)
1337年6月25日-01:00|イタリア| ||<死去>シチリア王「フェデリコ2世」
1337年6月25日-01:00|イタリア| ||<即位>シチリア王「ピエトロ2世」(~13420815死去)
1337年7月15日-01:00|ドイツ/イギリス| ||コロンツ条約が結ばれ、エドワード3世が皇帝ルートヴィヒ4世と同盟
1337年7月18日-01:00|アルバニア| ||<就任>デュラツォ公代行「ルトヴィヒ(ルイ)」(~13460522)
1337年7月27日-09:00|日本|静岡県浜松市|延元2・建武4年6月29日|今川範国、井伊城攻め敗退
1337年7月28日-09:00|日本| ||建武4年7月|<交替>越中国守護「吉見頼隆」⇒「井上俊清」(~興国5・康永3(1344)年罷免)
1337年7月28日-09:00|日本| ||延元2・建武4年7月|<交替>伯耆国守護「石橋和義」⇒「山名時氏」(~正平6・観応2(1351)年)
1337年7月28日-09:00|日本| ||延元2・建武4年7月|<任命>伊賀国守護「仁木義直」(~延元4・暦応2(1339)年)
1337年7月28日-09:00|日本| ||延元2・建武4年7月|<任命>摂津国守護「赤松範資」(~延元4・暦応2(1339)年)
1337年7月28日-09:00|日本|兵庫県赤穂郡上郡町|延元2・建武4年7月1日|赤松則村播磨国に法雲寺を建立
1337年7月31日-09:00|日本|栃木県小山市|延元2・建武4年7月4日|下野の南朝方春日頼国らが小山城を攻撃するが、桃井貞直が撃退

1350迄 (1585件)

茂の三千騎は墨俣川で北条時行の五千騎と戦った。三番くじの今川範国・三浦高継の軍勢は足地川で陸奥勢一万騎を相手に戦った。四番くじの上杉憲顕ら武蔵・上野の軍勢は青野原で新田義興・宇都宮氏の三万騎と戦った。そして最後は土岐頼遠・桃井直常の一千騎が北畠顕家の本隊六万騎に攻めかかり、激戦となるも大軍を率いる北畠勢が勝利

1338年2月21日-09:00|日本| ||延元3・建武5年2月|<交替>伊予国守護「河野通盛」⇒「岩松頼有」(~興国2・暦応4(1341)年9月)

1338年3月 00:00|フランス| |||<就任>ジャージー-島フランス司令官「ニコラス・ベッフェ提督」(~9月)

1338年3月 00:00|フランス| |||ジャージー-島がフランスにより占領(~9月)

1338年3月6日-09:00|日本|岐阜県大垣市|延元3・建武5年2月14日|雲津川・墨俣川口にて高師泰・細川頼春と北畠顕家が戦い、顕家が勝利

1338年3月8日-09:00|日本|三重県松阪市|建武5;延元3年2月16日|北畠顕家軍、飯野郡櫛田川で幕府軍の石河兼光を追い散らす

1338年3月9日-09:00|日本|福井県越前市|延元3・建武5年2月17日|<日野川の戦い>今立郡で新田義貞・脇屋義助と守護斯波氏兄弟(越前守護高経・若狭守護家兼)が戦闘、斯波高経は府中新善光寺城放棄に追込まれる(斯波高経は織田・栗屋城経由で足羽へ、家兼は若狭へ逃げる)

1338年3月11日-01:00|イタリア| |||ベネチアがサヴォイア公トヴァーコと通商協定

1338年3月13日-09:00|日本|奈良県奈良市|延元3・建武5年2月21日|北畠顕家(20)、伊賀より奈良に入り高師直の幕府軍と戦い京都に敗走させる

1338年3月20日-09:00|日本|奈良県奈良市|延元3・建武5年2月28日|<奈良般若坂の戦い>北朝方の桃井直常が北畠顕家を破る/義良親王(10)は吉野に逃れる

1338年3月28日-09:00|日本|広島県三原市|延元3・建武5年3月7日|岩松頼宥、妻高山城から小早川頼平らを追落

1338年3月29日-09:00|日本|大阪府大阪市天王寺区|延元3・建武5年3月8日|<天王寺の戦い>南朝方の北畠顕家(20)、摂津国天王寺で幕府軍を破る

1338年4月4日-09:00|日本|大阪府大阪市天王寺区|延元3・建武5年3月14日|高師直、天王寺に北畠顕家(20)を破る

1338年4月4日-09:00|日本|福岡県久留米市|延元3・建武5年3月14日|一色範氏、今川頼貞・小俣道刺をして菊池武重らを石垣城を攻め敗れる

1338年4月5日-09:00|日本|大阪府大阪市|延元3・建武5年3月15日|北畠顕家軍、摂津渡辺の戦いで幕府軍に勝つ

1338年4月6日-09:00|日本|大阪府大阪市阿倍野区|延元3・建武5年3月16日|北畠顕家軍、足利尊氏と阿倍野で戦い、敗れて和泉へ

1338年4月10日-09:00|日本|広島県安芸郡海田町|延元3・建武5年3月20日|武田軍が小早川高平や福屋城衆らの火村山城を攻略

1338年4月21日-09:00|日本| ||延元3・建武5年4月|<交替>近江国守護「六角氏頼」⇒「京極高氏」(~10月)

1338年4月21日-09:00|日本| ||延元3・建武5年4月|<交替>信濃国守護「小笠原貞宗」⇒「村上信貞」(~翌年6月)

1338年4月24日-01:00|イタリア| |||<就任>モンフェラート侯「ジョヴァンニ2世」テオドリックの子(~13720319)

1338年5月19日-09:00|日本|福井県敦賀市|延元3・建武5年4月29日|敦賀郡荒地(愛発)中山関の南朝勢を朽木頼氏が破る

1338年5月20日-09:00|日本| ||延元3・建武5年5月|<交替>若狭国守護「斯波家兼」⇒「桃井直常」(~9月)

1338年5月27日-09:00|日本|大阪府和泉市|延元3・建武5年5月8日|北畠顕家、和泉坂本に観音寺城を築城

1338年6月7日-09:00|日本| ||延元3・建武5年5月19日|<就任>北朝関白「一条経通」(~暦応5(1342)年正月26日)

1338年6月10日-09:00|日本| ||延元3・建武5年5月22日|<死去>(南朝)鎮守府將軍「北畠顕家」討ち死に(享年20)

1338年6月10日-09:00|日本|大阪府堺市|延元3・建武5年5月22日|<石津の戦い>和泉国堺浦・石津において南朝方の北畠顕家と北朝方の高師直が戦った合戦/北畠顕家、名和義高・南部師行らの西上軍の有力武将も戦死、南朝軍の主力は壊滅

1338年6月19日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「ヘルフオード・司教トマス・デ・チャールトン」(~13400407)

1338年6月19日-09:00|日本|愛媛県松山市|延元3・建武5年6月|忽那義範ら、久米郡高井城を攻略

1338年6月19日-09:00|日本|広島県東広島市|延元3・建武5年6月|僧知心の発願により、木造地藏菩薩半跏像(河内竹林寺蔵)成る

1338年6月27日-09:00|日本| ||延元3・建武5年6月9日|<任命>関東管領「上杉憲顕(山内)」(~暦応元(1338)年12月19日)

1338年7月16日-01:00|ベルギー/イギリス| |||イングランド王エドワード3世、「フランドルの反乱」に同調するため、アンガエルスに上陸

1338年7月16日-01:00|ドイツ| |||レオの選帝侯会議で国王選挙への教皇認可権を否認

1338年7月22日-09:00|日本|京都府八幡市|延元3・建武5年7月5日|高師直、男山に北畠顕信を攻撃し破り、冷泉持家・家房を戦死させる/石清水八幡宮を焼く

1338年7月28日-09:00|日本|京都府八幡市|延元3・建武5年7月11日|男山城が落城

1338年7月30日-09:00|日本|愛媛県西条市|延元3・建武5年7月13日|忽那義範、西条城を攻略

1338年8月9日-09:00|日本|静岡県浜松市|延元3・建武5年7月23日|今川範国、井伊城攻め敗走

1338年8月17日-09:00|日本|福井県福井市|延元3・建武5年閏7月2日|<藤島の戦い>夕刻、新田義貞は黒丸城支城の一つである藤島城を包囲している味方の士気を鼓舞しようと、わずかな手兵を率いて藤島城へと向かったが、燈明寺驛において黒丸城から藤島城救援のために行進中の細川孝基の率いる歩射部隊と遭遇し激戦のすえ矢疵を負って自刃/新田軍は壊滅

1338年8月22日-02:00|ギリシャ/スペイン| |||<死去>アネ公「ギジエル2世」

1350迄 (1585件)

- 1338年8月22日-02:00|ギリシャ/スペイン| |||<即位>アテネ公「ジョアン2世」(~1348年死去)
1338年8月31日-01:00|イタリア| |||<即位>ムラノ島にサン・ジョヴァンニ・バティスタ病院設立
1338年9月 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||<就任>ガーンジー-島フランス司令官「Nicolas Behuchet de Musy de La Loupe d'Escrignolles」(~1340.6死去)
1338年9月8日 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||<就任>ガーンジー-島主「Robert8世 Bertrand de Bricquebec」(~13401029)
1338年9月8日 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||ガーンジー-島、ルダニ-島、サーク島のロバート・バートラムが率いるフランスによる占領 (~13401029~キャッスル・コーネットでは13450817まで続く)
1338年9月10日-09:00|日本| ||延元3・建武5年閏7月26日|<任命>(南朝)鎮守府将軍「北畠顕信」(~不詳)陸奥大守 義良親王を奉じる
1338年9月18日-09:00|日本| ||延元3年8月5日|<死去>二条為世、公卿、歌人(生年1250年)
1338年9月24日-09:00|日本| ||延元3・建武5年8月11日|<任命>室町幕府初代征夷大将軍「足利尊氏」(~13580430)
1338年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「テナロ・マトロニ」「フォスコ・ラファネリ」
1338年10月11日-09:00|日本| ||延元3・暦応1年8月28日|北朝が「暦應」に改元
1338年10月14日-09:00|日本| ||延元3・暦応1年9月|<交替>遠江国守護「今川範国」⇒「仁木義長」(~興国4・康永2(1343)年)
1338年10月14日-09:00|日本| ||延元3・建武5年9月|<交替>近江国守護「京極高氏」⇒「六角氏頼」(~正平6・観応2(1351)年6月25日出家)
1338年10月14日-09:00|日本| ||延元3・暦応1年9月|<交替>若狭国守護「桃井直常」⇒「大高重成」(~翌年3月)
1338年10月14日-09:00|日本| ||延元3・暦応1年秋|北畠親房、歴史書「神皇正統記」を著わす
1338年10月14日-09:00|日本| 静岡県御殿場市|延元3・暦応1年9月|重須日濟駿河御殿場に久成寺を創す
1338年11月13日-09:00|日本| 広島県尾道市|延元3・暦応1年10月|幸春作木造聖徳太子立像(尾道浄土寺蔵)成る
1338年11月17日-09:00|日本| 茨城県稲敷市|延元3・暦応1年10月5日|<常陸合戦(常陸国)>北畠親房の拠る神宮寺 城が北朝方の佐竹氏によって陥落し、阿波崎城を經由して小田治久の本拠である小田城(茨城県つくば市)へ移る
1338年12月12日-09:00|日本| ||延元3・暦応1年11月|<任命>但馬国守護「吉良貞家」(~正平3・貞和4(1348)年2月)
1338年12月12日-09:00|日本| 京都府京都市|延元3・暦応1年11月|高田専修寺(三重県)の専空、戦災で焼けた大谷 廟堂を再建
1339年-08:00|マレーシア| |||<即位>クランタン・スルタン国スルタン「スルタン・マフムド・ジッター・リアヤ・サーダトゥッサラム」(~1362年)
1339年-05:30|インド| |||<死去>サマ朝スルタン「Jam Unar」
1339年-05:30|インド| |||<即位>カシミール・スルタン朝スルタン「Shamsu' d-Din Shah」(~1342年)
1339年-05:30|インド| |||<即位>サマ朝スルタン「Jam Junan」(~1352年)
1339年-05:30|インド| |||カシミール地方でムスリム政権のジャーミリー朝おこる
1339年-04:00|ロシア| |||<即位>第5代ベローゼロ公「フョートル・ロマノウィチ」(~1380年クリコヴォの戦いで戦死)
1339年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンテア公「ニコラ・フリウリ」(~13410210)
1339年-02:00|トルコ| |||<即位>イスファエンティヤリス君主「Ibrahim Pasha」(?)
1339年-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「シモーネ・ボッカネグラ」(~1344年)
1339年-01:00|フランス| |||<就任>モンペリアル伯「アンリ」ティエリ3世の同族の甥孫、オトンの妹アニスと結婚(~1367年死去)
1339年-01:00|オランダ| |||<昇格>ゲルデルン伯「ライナルト2世(レイナウト2世)」⇒ゲルデルン公(~13431012死去)
1339年-01:00|オランダ/ベルギー| |||<昇格>ブレンタはブルバント公国の領地(~1577年)
1339年 00:00|イギリス| |||<就任>ペンブルック伯「ロレンス・ヘイスティングス」(~13480820死去)
1339年1月24日-01:00|イタリア| |||トレヴィーゾとその領域ヴェネツィアに移る
1339年2月10日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年|<交替>伊賀国守護「仁木義直」⇒「千葉貞胤」(~延元5・暦応3(1340)年)
1339年2月10日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年|<交替>摂津国守護「赤松範資」⇒「仁木義有」(~同年)
1339年2月10日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年|<交替>備後国守護「仁木義長」⇒「石橋和義」(~延元5・暦応3(1340)年)
1339年2月10日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年|<任命>阿波国守護「細川和氏」(~興国2・暦応4(1341)年)
1339年2月10日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年|<任命>丹後国守護「今川頼貞」(~興国2・暦応4(1341)年)
1339年2月10日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年|<任命>尾張国守護「高師泰」(~翌年4月)
1339年2月10日-09:00|日本| 愛知県安城市|延元4・暦応2年|正阿、三河国大浜道場を建立
1339年2月10日-09:00|日本| 群馬県利根郡川場村|延元4・暦応2年|大友氏泰、中巖円月を開山、弟氏時を開基として、吉祥寺を創建
1339年2月16日-01:00|オーストリア/スロベニア| |||<死去>オーストリア公・シュターアマルク公・ケルテン公「オットー陽気公」37歳
1339年2月17日-01:00|オーストリア| |||<即位>オーストリア・シュタイアマルク公(名目のみ)「レオポルト2世」オットー1世の息子(アルブレヒト2世と共同統治~13440810死去)、「フリードリヒ4世」(~13441211死去)
1339年2月19日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年1月10日|北畠親房が「神皇正統記」を著す
1339年3月 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||<就任>ジャージー-島フランス司令官「ロバート8世ベルランデブリックベック」(~10月)
1339年3月 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||ジャージー-はフランスにより占領(~10月)
1339年3月11日-09:00|日本| 長野県大町市|延元4・暦応2年2月|伊豆仁科城で37人が捕らえられ、大将普蘭寺左馬助を含む13人が相模龍口で斬られた
1339年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「リセウト」「ジョアネ・ロ・ド・アガト」

1350迄 (1585件)

- 1339年4月1日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年2月22日|<死去>美濃国守護「土岐頼貞」(頼遠が継ぐ~興国3・康永元(1342)年12月1日斬首)
- 1339年4月6日-09:00|日本|栃木県真岡市|延元4・暦応2年2月27日|南朝方春日顕国、下野を攻め矢木岡城を攻め落とす/同月、益子・上三川・箕輪諸城を攻略
- 1339年4月10日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年3月|<交替>若狭国守護「大高重成」⇒「斯波高経」(~暦応4(1341)年4月)
- 1339年4月19日-01:00|イタリヤ| |||ハネツアガベルカモとブレシアとの通商協定
- 1339年4月21日-01:00|イタリヤ| |||ハネツアガモとの通商協定
- 1339年5月3日-09:00|朝鮮| ||高麗・至元5年3月24日|<死去>高麗王「忠肅王」
- 1339年5月4日-01:00|イタリヤ| |||ハネツアガロティとの通商協定
- 1339年5月5日-01:00|イタリヤ| |||ハネツアガクレメとの通商協定
- 1339年5月7日-09:00|日本|福井県勝山市|延元4・暦応2年3月28日|越前の南朝軍、経峰に幕府軍を攻撃、攻防続く
- 1339年5月10日-09:00|日本|京都府京都市西京区|延元4・暦応2年4月|摂津親秀西方寺を西芳寺と改め禅院とする
- 1339年6月4日-09:00|日本|福井県坂井市|延元4・暦応2年4月26日|北朝軍、大野郡西方寺城を攻撃、足羽郡中嶋城の南朝軍が救う
- 1339年6月8日-09:00|日本|青森県平川市|延元4・暦応2年5月|(3月~)宮方の南部政長越後五郎・成田頼時・工藤貞行・倉光孫三郎らが曾我貞光の居城大光寺外楯を攻めたが、一族惣領家の曾我孫二郎師助らとの3ヶ月にわたる防戦で退けられた
- 1339年6月21日-01:00|スイス| |||ラウハンの戦い/ヘルツが周辺貴族との戦いに勝利
- 1339年7月4日-09:00|日本|福井県福井市|延元4・暦応2年5月27日|南朝軍の足羽郡中嶋城が陥落
- 1339年7月7日 00:00|イギリス| |||<即位>スコットランド王「デヴィッド2世」(2期目~13710222死去46歳)
- 1339年7月8日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年6月|<交替>信濃国守護「村上信貞」⇒「小笠原貞宗」(~8月)
- 1339年7月8日-09:00|日本|青森県青森市|延元4・暦応2年6月|南部政長の命を受けた安藤四郎が、尻八楯を攻撃し、津軽合戦奉行の安藤太師季や曾我貞光と合戦/両軍に多くの死傷者が出る
- 1339年7月18日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年6月11日|<任命>関東執事「高師冬」(~康永3(1344)年閏2月2日)
- 1339年7月23日-01:00|フランス| |||<就任>アンジュー伯(ヴァロワ家)ルイ1世「ジャン2世とボンヌ・リュクサンブールの次男」(1383年アンジュー公~13840920死去45歳)
- 1339年8月-06:30|ミャンマー| |||<即位>ガイン王「キヤワ」(~1349年3月)
- 1339年8月6日-09:00|日本|福井県福井市|延元4・暦応2年7月|新田義貞(38)の弟・脇屋義助(33)、黒丸城を落とす/守護斯波高経(34)、加賀へ逃れる
- 1339年8月11日-09:00|日本|京都府京都市北区|延元4・暦応2年7月6日|足利尊氏等持院を創建
- 1339年8月16日-01:00|イタリヤ| |||<死去>ミラノ・シニョレ「アツォネ・ヴァイスコンティ」
- 1339年8月16日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ミラノ・シニョレ「ルキノ・ヴァイスコンティ」(~13490124死去)、「ジヨハンニ・ヴァイスコンティ」(~13541005死去)
- 1339年8月21日-09:00|日本|福井県福井市|延元4・暦応2年7月16日|義貞弟脇屋義助府中を出撃し、各新田軍と合流し黒丸城を攻撃し、守護斯波高経加賀へ敗走、脇屋軍一時越前制圧
- 1339年8月31日-09:00|日本|静岡県浜松市|延元4・暦応2年7月26日|高師泰・師冬・仁木義長、伊井谷を攻め、三岳城の出城と鴨江の城が落城
- 1339年9月1日-01:00|ドイツ| |||<死去>下バリエル公「ハインリヒ14世」33歳
- 1339年9月1日-01:00|ドイツ| |||<即位>下バリエル公「ヨハン1世」ハインリヒ14世の息子(~13401220死去11歳)
- 1339年9月4日-09:00|日本| ||暦応2・延元4年8月|<交替>信濃国守護「小笠原貞宗」⇒「吉良満義」(~興国2・暦応4(1341)年)
- 1339年9月4日-09:00|日本|岩手県一関市|延元4・暦応2年8月|薄衣清村は葛西高清に降伏し、薄衣氏はふたたび葛西氏の麾下に入った
- 1339年9月18日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年8月15日|<譲位>96代「後醍醐天皇」
- 1339年9月18日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年8月15日|<踐祚即位>97代「後村上天皇」(~13680511)
- 1339年9月19日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年8月16日|<死去>後醍醐天皇(51)(誕生:正応1(1288)1102)96代天皇
- 1339年9月23日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「Simone Boccanegra」(1期目~13441223)
- 1339年9月23日-01:00|イタリヤ| |||ジェノヴァの民衆が蜂起
- 1339年9月30日-09:00|日本|宮崎県都城市|延元4・暦応2年8月27日|幕府方畠山義顕、南朝方高城の肝付兼重を攻め、九州南部を抑える
- 1339年10月 00:00|イギリス| |||<就任>ヘンブリック伯「ロレンス・ヘイスティングス」(~13480820死去)
- 1339年10月4日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年9月|<任命>(南朝)征夷大將軍「興良親王」(~不詳)
- 1339年10月4日-09:00|日本|茨城県つくば市|延元4・暦応2年9月|北畠親房(46)、常陸小田城で神皇正統記を著す
- 1339年10月18日-09:00|日本|福井県福井市|延元4・暦応2年9月15日|北朝軍、足羽郡落野寺城を攻略
- 1339年10月29日-04:00|ロシア| |||<死去>ウラジミール大公、ウエリ大公「アレクサンドル・ミハイロヴィチ」(生年1301年)
- 1339年10月31日-01:00|イタリヤ| |||<死去>ヴェネツィア共和国ドージェ「フランチェスコ・ダントロ」
- 1339年11月6日-09:00|日本|京都府京都市右京区|延元4・暦応2年10月5日|將軍尊氏、直義、足利尊氏が後醍醐天皇の冥福を祈るため、洛西嵯峨の亀山殿を改めて禅寺とし歴応寺(天竜寺)を創建
- 1339年11月7日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「パルロチオ・ガラティニョ」(~1342年)
- 1339年11月28日-09:00|日本|茨城県下妻市|延元4・暦応2年10月27日|(25日~)関東の北軍、高師冬を大将に常陸駒

1350迄 (1585件)

館城を攻撃するも撤退

- 1339年12月1日-09:00|日本|静岡県浜松市|延元4・暦応2年10月30日|北朝方・高師泰の攻撃を受けて遠江・千頭峯城落城
- 1339年12月2日-09:00|日本| ||延元4・暦応2年11月|<交替>土佐国守護「細川定禅」⇒「細川皇海」(~延元5・暦応3(1340)年)
- 1339年12月2日-09:00|朝鮮| ||高麗・至元5年11月2日|<即位>高麗王「忠恵王」(~13440130死去)
- 1340年-08:00|インドネシア| ||<即位>スダガ・ガル王国マハラジャ「Prabu Ragamulya Luhurprabhawa/Aki Kolot」(~1350年)
- 1340年-07:00|カンボジア| ||<即位>クメール王朝国王「ニヒヤン・ハット(涅槃王)」建国(~1346年)
- 1340年-05:30|インド| ||<死去>マドゥライ・スルタン朝「アラー・ウッティーン・ウダ・イッー」
- 1340年-05:30|インド| ||<即位>マドゥライ・スルタン朝「クブ・テ・イン」
- 1340年-05:00|ウズベキスタン| ||<即位>東チャグタイ・ハン国ハン「アリー・スルタン」チャグタイの弟ゴ・テ・イの5代孫
- 1340年-04:00|ロシア| ||<即位>プロンスク公「アレクサンドル・ミハイロヴィチ」(~同年死去)⇒「ヤロスラフ・アレクサンドロヴィチ」(~1342年)
- 1340年-03:30|イラン| ||<即位>ハザーラス朝君主「Muzaffar al-Din Afrasiab2世」(~1355年)
- 1340年-03:00|ペラルーシ| ||<即位>ピンスク公「ナリマンタス」(~13480202死去)
- 1340年-02:00|ウクライナ| ||<死去>ガリチ公「ユリー・トロイノヴィチ(ホーランド・名ホレスワフ)」
- 1340年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ウホリーニ公「リュバ・ルタス・ゲ・テ・イミナティス」(~1366年)
- 1340年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ガリチ公「リュバ・ルタス」(~1349年)
- 1340年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ベルス公「ユリギス・ナリマンタティス」(~1377年)
- 1340年-02:00|ウクライナ| ||<復位>ルツク公「リュバ・ルタス」(~1383年)
- 1340年-02:00|ギリシャ/トルコ| ||東ローマ帝国に併合され、ビロズ専制侯国は滅びた
- 1340年-02:00|ウクライナ/リトアニア| ||ウクライナ北部はリトアニアの一部になる(~1362年)
- 1340年-01:00|ドイツ| ||<就任>ウアイマル=オーラミュンデ伯「フリードリヒ1世」(~1365年,ウエッティン家の領主権を認めた)
- 1340年 00:00|イギリス| ||<就任>初代ケンプリッジ伯「ウィリアム・オブ・シェリブ」(~13610226死去)
- 1340年 00:00|マリ/ニジェール| ||<即位>ソカグイ王国国王「サルマン・マリ」(~1347年)
- 1340年1月25日-01:00|フランス/イギリス| ||エドワード3世がフランス王を称し、フランドルの諸都市に承認させる
- 1340年1月30日-09:00|日本| ||延元5・暦応3年|<交替>伊賀国守護「千葉貞胤」⇒「桃井直常」(~興国2・暦応4(1341)年)
- 1340年1月30日-09:00|日本| ||延元5・興国元・暦応3年|<任命>摂津国守護「赤松範資」(~正平6・観応2(1351)年4月8日死去)
- 1340年1月30日-09:00|日本|愛知県瀬戸市|延元5・興国元・暦応3年|僧処齊、尾張水野に定光寺を創建
- 1340年1月30日-09:00|日本|京都府京都市右京区|延元5・興国元・暦応3年|天童寺夢窓国師画像できる
- 1340年1月30日-09:00|日本|長崎県壱岐市|延元5・暦応3年|本宮八幡宮[本宮西触]の御殿を建立
- 1340年1月30日-09:00|日本|兵庫県南あわじ市|延元5・興国元・暦応3年|細川師氏が足利尊氏の命により南朝方の宇原兵衛らを立川瀬の戦いで破り養宜館を居館とし淡路を支配
- 1340年1月30日-09:00|日本|福島県白河市|延元5・興国元・暦応3年|結城家5代・親朝が小峰ヶ岡に城を構えた(白河小峰城)/福島県
- 1340年2月-02:00|エジプト| ||<即位>カイロ・アッバース朝カリフ「ワスィク1世」(~13410617)
- 1340年2月27日-09:00|日本|静岡県浜松市|延元5・暦応3年1月29日|高師泰・師冬・仁木義長に攻められ遠江三嶽城落城/宗良親王(28)、大平城・安倍城と移り、信濃へ向かう
- 1340年2月28日-09:00|日本| ||延元5・暦応3年2月|北畠親房(46)、職原抄を著す
- 1340年3月11日-01:00|ドイツ| ||<死去>スポンハイム・クロイツハ伯「John2世」
- 1340年3月31日-04:00|ロシア| ||<死去>モスクワ大公兼ウラジミール・スズダリ大公「イワン1世ダニコヴィチ」
- 1340年3月31日-04:00|ロシア| ||<即位>モスクワ公・ウラジミール・スズダリ大公「シモン・イワノヴィッチ・ゴ・テ・イ」(~13530427死去)
- 1340年4月1日-01:00|ドイツ| ||<死去>ホルシュタイン=レンズブルク伯「ゲルハルト3世大伯」
- 1340年4月1日-01:00|ドイツ| ||<就任>ホルシュタイン=レンズブルク伯「ニコラウス1世」(~13970508死去),「ハインリッヒ2世」(~1384年死去)
- 1340年4月6日-02:00|トルコ| ||<即位>トビズント帝国第13代皇帝エイルネー・ハ・オトクナ「バシレイオス1世の未亡人」(~13410717)
- 1340年4月7日-01:00|ポーランド| ||<死去>ハーリチ・ウホリーニ王「ホレスワフ・イェジ2世」
- 1340年4月8日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド判事「ダニー卿ジョン・ダニー・ル・コン」(~13440714)、代行「キルメナム修院長ロジャー・ウトラ」(~13410205)
- 1340年5月25日-09:00|日本| ||興国元・暦応3年4月28日|南朝が「興国」に改元
- 1340年6月 00:00|チャンネル諸島/フランス| ||<死去>ガーンジ島フランス司令官「Nicolas Behuchet de Musy de La Loupe d'Escrignolles」
- 1340年6月22日-09:00|日本|茨城県下妻市|興国元・暦応3年5月27日|高師冬が下総国駒館城を攻略
- 1340年6月24日-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| ||<就任>リウオニア騎士団団長「フルチャード・フォン・トライレベン」(~13451214)
- 1340年6月24日-01:00|デンマーク| ||<即位>デンマーク王「ヴァルデマル4世クリストファーセン」クリストファ2世とホンメルン公女エウフィーミアの三男(~13751024死去)
- 1340年6月24日-01:00|ベルギー/フランス/イギリス| ||フランス王フィリップ6世の艦隊、ブルージュの外港スライの「スライの海戦」でイングランドに敗北/イングランドが「英仏海峡」の制海権を掌握
- 1340年6月24日-01:00|フランス/オランダ/イギリス| ||ライン川河口のスライ沖の戦いで、国王エドワード3世のイングランド軍がフラン

1350迄 (1585件)

- ス艦隊を破りフロントルに上陸する(百年戦争)
1340年6月24日-09:00|日本|茨城県下妻市|暦応3:興国1年5月29日|下総国駒館城を南朝軍が奪回、北朝軍高師冬は陣営を焼いて逃走
1340年6月26日-03:30|イラン/イラク/アゼルバイジャン| |||<即位>チヨバン朝初代国王シャイフ・ハサン(~13431215暗殺)
1340年6月26日-09:00|日本|奈良県奈良市|興国元・暦応3年6月1日|興福寺吉祥天像(寛慶)できる
1340年7月-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「コラート・ブリン」(~1343年5月)
1340年7月14日-09:00|日本| ||興国元・暦応3年6月19日|<再任>関東執事「上杉憲顕(山内)」(~観応2(1351)年12月27日)
1340年7月19日-09:00|日本|長野県伊那市|興国元・暦応3年6月24日|北条時行は諏訪上社大祝諏訪頼継の助けを得て信濃大徳寺城で兵を挙げる
1340年8月4日-09:00|日本|愛知県豊橋市|興国元・暦応3年7月11日|源尊氏、三河国赤岩寺の阿弥陀如来坐像を造立
1340年8月24日-09:00|日本|福井県坂井市|興国元・暦応3年8月1日|京と能登からの増援を得た北朝、守護斯波高経が坂井郡金津上野城を攻略
1340年8月26日-09:00|日本|福井県坂井市|興国元・暦応3年8月3日|北朝、守護斯波高経が畑時能たてこもる千手寺城(湊城)を攻略
1340年8月31日-09:00|日本|鹿児島県|興国元・暦応3年8月8日|島津貞久(71)、薩摩一宇治・市来両城を攻略
1340年9月-01:00|フランス/イギリス| |||フロントルに再上陸し、フランス軍と戦っていたイングランド王エドワード3世が撤退
1340年9月1日-06:30|ミャンマー| |||<就任>ヒンヤ摂政「ソトウ」(~13440329)
1340年9月9日-09:00|日本|福井県福井市|興国元・暦応3年8月17日|吉見軍・斯波軍、藤島の丸岡に向城を築き、黒丸城の脇屋義助と対峙。城から打って出た脇屋軍を撃退
1340年9月12日-09:00|日本| ||興国元・暦応3年8月20日|新田義宗が越後妻有荘で挙兵、信濃との境志久見口の関所を破り、志久見山長峰に陣を張った
1340年9月12日-09:00|日本|福井県福井市|興国元・暦応3年8月20日|守護斯波高経の幕府軍、新田氏に奪われた黒丸城を奪い返す
1340年9月13日-09:00|日本|長野県下水内郡栄村|興国元・暦応3年8月21日|新田義宗が志久見山で市河氏が小笠原貞宗に負けて妻有荘へ戻っていった
1340年9月16日-09:00|日本|静岡県浜松市|興国元・暦応3年8月24日|遠江守護「仁木義長」・「高師泰」、遠江大平城(井伊谷支城)の宗良親王(29)を攻略
1340年9月25日-01:00|フランス/イギリス| |||フランス王フィリップ6世とイングランド王エドワード3世、スペインで会談し、1342年6月24日までの休戦に同意
1340年10月4日-09:00|日本|福井県越前市|興国元・暦応3年9月13日|守護斯波高経(35)ら幕府軍、越前府中を攻略し、脇屋義助(34)を破る(新善光寺城を再び奪取)
1340年10月13日-09:00|日本|福井県勝山市|興国元・暦応3年9月22日|吉見軍・斯波軍、南条郡大塩城に夜討を仕掛け、城麓を焼き払い落城させる
1340年10月14日-09:00|日本|茨城県龍ヶ崎市|興国元・暦応3年9月23日|南朝方東條勢(東條氏・小田治久・春日顯國ら)龜谷城を北朝方(佐竹軍)から奪還
1340年10月14日-09:00|日本|岐阜県恵那市|興国元・暦応3年9月23日|吉見軍・斯波軍、松鼻城、妙法寺城及び脇屋義助の立て籠る平葺陣を落城させる/脇屋義助は美濃に落延びる
1340年10月27日-09:00|日本|奈良県吉野郡吉野町|(興国元・暦応3年10月6日|佐々木道誉(34)・秀綱父子、妙法院宮御所を襲い、これを焼き打ちにする
1340年10月30日-01:00|スペイン| |||カスティリヤ・レオン王アルフォンソ11世が、グラナダとモロッコ・イスラム連合軍をサドの戦いで破る
1340年10月31日-09:00|日本|愛媛県松山市|(興国元・暦応3年10月10日|忽那義範、忽那島に来襲した安芸国守護武田信武の軍を撃退
1340年11月13日-09:00|日本|愛知県岡崎市|興国元・暦応3年10月23日|今川範氏、佐々木宗永と平岩城を攻落
1340年11月13日-09:00|日本|長野県伊那市|興国元・暦応3年10月23日|小笠原貞宗(48)が信濃・大徳王寺城(北条時行)を攻略/頼継は諏訪へ戻り、時行はどこへともなく逃げていった
1340年11月16日-09:00|日本|千葉県|興国元・暦応3年10月26日|幕府、延暦寺の訴えにより佐々木道誉父子を上総に配流
1340年11月17日-09:00|日本|福岡県北九州市|興国元・暦応3年10月27日|吉見軍・斯波軍、畑城を攻撃し、畑六郎左衛門尉時能が降伏。城郭を破壊
1340年12月20日-01:00|ドイツ| |||<死去>下バリエル公「ヨハン1世」11歳
1340年12月20日-01:00|ドイツ| |||<即位>上バリエル公「ルートヴィヒ4世」⇒バリエル公(~13471011死去)
1340年12月20日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元6年12月|元、科挙制度復活
1340年12月23日 00:00|イギリス| |||<死去>デヴァン伯「Hugh de Courtenay」
1340年12月23日 00:00|イギリス| |||<就任>デヴァン伯「Hugh de Courtenay」(~13770502死去)
1340年12月28日-01:00|イタリア| |||ヴェネツィア、大議会の議事室建造の法令
1341年-07:00|タイ| |||<即位>スコタイ王朝国王「ケアムトゥム」(~1347年)
1341年-05:00|ガザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| |||<死去>ジョチ・ウルス・ハン「ウスベク・ハン」
1341年-05:00|ガザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| |||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「ティエニ・ベク(ティニベク・ハン)」ウスベク・ハンの子(~1342年死去)
1341年-05:00|モルデヴァ| |||<即位>ティムゲ朝スルタン「Ahmed Shihabuddine Loka Aadheettha」(~1347年廃位)

1350迄 (1585件)

- 1341年-04:00|ロシア| |||<即位>プスコフ公「アレクサンドル・フェオド・ウイチ」(~1341年)
- 1341年-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>アイユーブ朝(ハマー)第8代アミール「アル=アッタルムハンマド」
- 1341年-02:00|ギリシャ| |||<就任>ナクソス公「ジョヴァンニ1世」(~1362年)
- 1341年-02:00|トルコ| |||オスマン朝とビザンティンが和平を締結
- 1341年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||クレタ島でレオン・カレルギスが率いた反ウエネツィア蜂起(~1347年)
- 1341年-01:00|スペイン| |||<就任>アンブリアス伯「Raymond Berengar」(~1364年)
- 1341年-01:00|ポーランド| |||<即位>チェルスク公「カジミェシュ1世」トロイェン1世の息子(~1349年)
- 1341年-01:00|ポーランド| |||<即位>マゾフシェ公「シモグイト3世」カジミェシュ1世の兄弟(~13810616死去)1370年までにプワツクを含むマゾフシェの大部分の再統一に努めたが、1374年に息子達の間で分割された
- 1341年 00:00|アイスランド/デンマーク| |||<就任>アイスランド支配者「ボトルフル・アント・レソン」(~1343年)
- 1341年 00:00|イギリス| |||<就任>ウイグ・タウン伯「Malcolm Fleming」(~1363年死去)
- 1341年 00:00|マリ| |||<即位>マリ帝国マンサ「マンサ・スレイマン」(~1360年死去)
- 1341年1月18日-09:00|日本| ||興国2・暦応4年|<交替>阿波国守護「細川和氏」隠居⇒「細川頼春」(~正平7年・文和元(1352)年閏2月20日戦死)
- 1341年1月18日-09:00|日本| ||興国2・暦応4年|<交替>三河国守護「高師兼」⇒「南宗継」(~興国3・暦応5(1342)年)
- 1341年1月18日-09:00|日本| ||興国2・暦応4年|<任命>備後国守護「細川頼春」(~興国3・暦応5(1342)年)
- 1341年1月18日-09:00|日本| ||興国2・暦応4年|<任命>武蔵国守護「高師冬」(~興国5・康永3(1344)年)
- 1341年1月18日-09:00|日本|愛知県瀬戸市|興国2・暦応4年|平心処斎、三河・尾張の各地を遍歴修行の後、尾張国水野郷に定光寺を創建
- 1341年1月18日-09:00|日本|広島県東広島市|興国2・暦応4年|僧行賢の発願により、石造地藏菩薩立像(東広島稲木西山)成る
- 1341年1月18日-07:00|ベトナム| ||大越・開祐13年|ベトナムの陳朝が刑書を完成
- 1341年1月18日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至正1年1月1日|元の順帝(恵宗)トゴン・テムルが至正と改元(~1370年)
- 1341年1月21日-02:00|エジプト| |||<廃位>ハリー朝スルタン「アル=アシュラフ=アラ=アル=デイン=クジュク」
- 1341年2月10日-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ウエネツィアのカンティエラ公「アントニア・コーナ」(~13431026)
- 1341年2月16日-09:00|日本|東京都八王子市|興国2・暦応4年1月30日|二峯城の南朝軍が瓜生を焼き払い、再び八王子城に攻め寄せるが、吉見軍がこれを撃退
- 1341年2月20日-09:00|日本|宮城県栗原市|興国2・暦応4年2月4日|奥六郡で南朝側が北朝側の岩崎楯を攻撃/和賀義綱の弟清義が討ち死に
- 1341年2月22日 00:00|アイスランド/イギリス| |||<就任>アイスランド 判事代行「ダブリン大司教ヒックノールのアレクサンダー」(~5.16)
- 1341年2月23日-09:00|日本|香川県仲多度郡まんのう町|興国2・暦応4年2月7日|南朝軍は帆山に城を構えるが、吉見軍が攻め落す
- 1341年3月-02:00|ラトビア/エストニア| |||<死去>リガ大司教・リヴァント公「フリートリヒ・パナー・フォン・ヘルンシュタイン」
- 1341年3月13日-01:00|ポーランド| |||<死去>ワルシャワ公「トロイェン1世」
- 1341年3月13日-01:00|ポーランド| |||<即位>マゾフシェ公「シモグイト3世」カジミェシュ1世の兄弟「ワルシャワ・チェルスク公」(~13810616死去)
- 1341年3月13日-01:00|ポーランド| |||<即位>ワルシャワ公「カジミェシュ1世」(~13551126死去領地はマゾフシェに再統合)
- 1341年3月15日-01:00|フランス/ドイツ| |||皇帝ルートヴィヒ4世が、イングランドとの同盟を破棄してフランス王フィリップ6世と和約
- 1341年3月16日-01:00|フランス| |||「カベル(塩税)」が導入される
- 1341年3月20日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Thomas de Hampton」(~1343年)
- 1341年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ベントイグエニャ」「サステイノ」
- 1341年4月10日-09:00|日本| ||興国2・暦応4年3月24日|<解任>出雲・隠岐国守護「塩冶高貞」出奔
- 1341年4月14日-09:00|日本|島根県松江市|興国2・暦応4年3月28日|山名時氏父子、出雲国宍道山にて塩冶高貞を討つ/高貞自害
- 1341年4月17日-09:00|日本| ||興国2・暦応4年4月|<交替>若狭国守護「斯波高経」⇒子の「斯波氏頼」(~興国3・暦応5(1342)年)
- 1341年4月27日-09:00|日本| ||興国2・暦応4年4月11日|<死去>慈道法親王、法親王、歌人(生年1282年)
- 1341年4月30日-01:00|フランス/イギリス| |||<死去>ブルターニュ公・リッチモンド伯「ジャン3世幸運公」55歳
- 1341年4月30日-01:00|フランス| |||<即位>ブルターニュ公「ジャンヌ・ド・パンティエール」ギイ・ド・パンティエールとジャンヌ・ド・アウオールの1人娘(~1364年~13840910死去),「シャルル1世」ブルゴワ伯ギイ1世とマルグリット・ド・ガワロワの次男(~13640929死去),「ジャンヌ・ド・モンフォール(ジャン4世)」アルテュール2世とヨランド・ド・ドルーの1人息子(~1345.5~13450926死去)
- 1341年4月30日 00:00|イギリス| |||<就任>リッチモンド伯「ロベール3世・ダルトワ」フランスの王族(~1342年死去)
- 1341年5月16日 00:00|アイスランド/イギリス| |||<就任>アイスランド 判事代行「ジョン・モリス卿」(~13440714)
- 1341年6月7日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<死去>ハリー朝スルタン「ナスイル・ムハンマド」67歳
- 1341年6月8日-02:00|エジプト| |||<即位>ハリー朝スルタン「アル=マンズール=サイフ=アル=デイン=アブ=バクル」(~8.5廃位)
- 1341年6月11日-01:00|ポーランド| |||<死去>ジエンピツェ公「ホルコ2世」(生年1300年)
- 1341年6月11日-01:00|チェコ/ポーランド| |||<就任>ポーミア摂政「モウア辺境伯カレル」(2回目~13470902)
- 1341年6月15日-02:00|トルコ| |||<死去>ニカイア帝国皇帝「アントロニコス3世パレオロス」
- 1341年6月15日-02:00|トルコ| |||<即位>ニカイア帝国皇帝「ヨハネス5世パレオロス」アントロニコス3世パレオロスの長男(~13760812廃位~13910216死去)
- 1341年6月17日-02:00|エジプト| |||<即位>カイロ・アッバース朝カリフ「ハーキム2世」(~1352年)

1350迄 (1585件)

- 1341年7月17日-02:00|トルコ| |||<即位>トビズント 帝国第14代皇帝「アンナ」アレクシオス2世の娘 (~7.29)
- 1341年7月17日-09:00|日本|新潟県中魚沼郡津南町|興国2・暦応4年6月3日|市河氏の奮戦もあって、新田義宗は逆に妻有荘内に攻め込まれ敗れた
- 1341年7月24日-07:00|ベトナム| ||大越・開祐13年6月11日|<死去>陳朝(大越)皇帝「憲宗」
- 1341年7月30日-02:00|トルコ| |||<即位>トビズント 帝国第15代皇帝「ミカエル」ヨハネ3世の父(1日だけ)
- 1341年7月31日-02:00|トルコ| |||<復位>トビズント 帝国第14代皇帝「アンナ」(~13420904)
- 1341年8月5日-02:00|エジプト| |||<即位>ハリー朝スルタン「アル=アシュラフ=アラ=アル=デ=イン=グジュク」(~13420121 廃位)
- 1341年8月5日-02:00|エジプト| |||<廃位>ハリー朝スルタン「アル=マンズール=サイフ=アル=デ=イン=アブ=バクル」
- 1341年8月6日-09:00|日本|茨城県つくば市|興国2・暦応4年6月23日|高師冬、北畠親房(48)の拠る小田城を攻撃するが敗れる
- 1341年8月8日-09:00|日本|福井県南条郡南越前町|興国2・暦応4年6月25日|守護「斯波高経」、瓜生兄弟たてこもる 廬山城を攻め落城させる
- 1341年8月11日-09:00|日本|福井県越前市|興国2・暦応4年6月28日|吉見軍、大瀧城を落城させる
- 1341年8月13日-09:00|日本| ||興国2・暦応4年7月|<任命>出雲・隠岐国守護「山名時氏」(~康永2・興国4(1343)年8月)
- 1341年8月28日-04:00|アルメニア| |||<死去>キリキア=アルメニア王国国王「レオ4世」殺害される
- 1341年8月28日-04:00|アルメニア| |||<即位>キリキア=アルメニア王国国王「コンスタンティヌス2世」(~13440417 殺害される)
- 1341年8月28日-02:00|トルコ| |||<死去>キリキア=アルメニア王国国王「レウオン5世」
- 1341年9月3日-09:00|日本|京都府京都市右京区|興国2・暦応4年7月22日|暦応寺を天竜寺と改称
- 1341年9月7日-01:00|フランス| |||「ブルターニュ継承戦争」が始まる/イングランド 王エドワード 3世はジャン・ド・モンフォール(ジャン3世の異母弟、ジャン4世の父)を支持/フランス王フィリップ 6世は甥(妹マルグリット・ド・ヴァロワの子)のシャルル・ド・ブルボン(「ブルボン伯」シャルル、ジャンヌ・ド・パンティエールの夫)を支持/フランス王フィリップ 6世の長子「ルナンティエール公」ジャン(のちのジャン2世)、シャルル・ド・ブルボン(「ブルボン伯」シャルル)への援軍を指揮
- 1341年10月2日-07:00|ベトナム| ||大越・紹豊1年8月21日|<即位>陳朝(大越)皇帝「裕宗」(~13690629(大治12年5月25日) 死去) 紹豊と改元(-1357)
- 1341年10月18日-02:00|ラトビア/エストニア| |||<就任>リガ 大司教・リヴァント公「エンゲルベルト・フォン・ド・レン」(~13470909 死去)
- 1341年10月27日-09:00|日本|茨城県稲敷市|興国2・暦応4年9月17日|北朝方屋代信経・別府幸實ら信太荘佐倉楯・河内郡駒馬楯・東條城・龜谷城攻略
- 1341年10月28日-09:00|日本|岐阜県本巣市|興国2・暦応4年9月18日|土岐頼遠らが脇屋義助を美濃国の根尾城に破る/義助は吉野に脱出
- 1341年11月10日-09:00|日本| ||興国2・暦応4年10月|<任命>丹後国守護「山名時氏」(~正平5・貞和6(1350)年)
- 1341年11月10日-09:00|日本|京都府京都市|興国2・暦応4年10月|日蓮宗の妙顕寺、御溝傍今小路から四条櫛笥に移る
- 1341年11月10日-09:00|日本|京都府京都市北区|興国2・暦応4年10月|足利尊氏、三条坊門高倉に夢窓国師を開山として等持寺を建てる
- 1341年11月14日-09:00|日本|茨城県鹿嶋市|興国2・暦応4年10月5日|東條氏、北朝方に降伏/その後も鹿嶋大使役を務める
- 1341年11月30日-09:00|日本|福井県福井市|興国2・暦応4年10月21日|畑時能、坂井郡鷹巣城で幕府(斯波)軍と戦い陥落
- 1341年12月-02:00|リトアニア| |||<死去>リトアニア大公「ゲデミナス」領土は彼の7人の息子に分割
- 1341年12月-02:00|リトアニア| |||<即位>リトアニア大公「ヤグステイス」ゲデミナスの子(~1345年2月、兄のアルギルダスとケストウティスにより退位させられた)
- 1341年12月17日-01:00|アンドラ| |||<就任>アンドラ公国共同大公「ウルヘルシ教ベレト・ナルボナ」(~1344年)
- 1341年12月18日-09:00|日本|茨城県つくば市|興国2・暦応4年11月10日|小田城の小田治久(58)が高師冬に通じたため北畠親房(48)は関城、春日顕国は大宝城へ逃れる
- 1342年-05:30|インド| |||<建国>ブンデイ国
- 1342年-05:30|インド| |||<即位>イリヤス=シャーヒー朝「シャムステイン=イリヤス=シャー」ベングアルに建国(~1357年 死去)
- 1342年-05:30|インド| |||<即位>カシュミール=スルタン朝スルタン「Jamshed」(~1343年)
- 1342年-05:30|インド| |||<即位>ホイヤラ朝国王ハッターラ4世(~1346年)
- 1342年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| |||<死去>ジョチ=ウルス=ハン「ティエニ=ベク(ティニベク=ハン)」
- 1342年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン/タジキスタン| |||<即位>ジョチ=ウルス=ハン「ジャニ=ベク(ジャニベク=ハン)」ウズベク=ハンの子(~1357年)
- 1342年-04:00|ロシア| |||<即位>フスコフ公「アントリュス=アルギルダイイス」(~1349年)
- 1342年-04:00|ロシア| |||<即位>フロンスク公「ヴァシリ=アレクサンドロウイチ」(~1344年)
- 1342年-04:00|ロシア| |||<即位>リヤザン大公「ヤロスラフ3世アレクサンドロウイチ」(~1343年~1344年 死去)
- 1342年-03:00|ベラルーシ| |||<死去>ポロツク公「ヴァイニウス」
- 1342年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ポロツク公「アントリュス=アルギルダイイス」(~1377年)
- 1342年-02:00|トルコ| |||<即位>キリキア=アルメニア王国国王「コンスタンティン4世」(~13440417 死去)
- 1342年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のパン「ニコラ=ラコウイチ」(~1343年)
- 1342年-01:00|イタリア| |||<就任>チロル伯「Louis of Wittelsbach」(~13610918 死去)
- 1342年-01:00|クロアチア| |||<就任>ポルツァ公「ジュレ=ライチッチ」(~1350年)
- 1342年-01:00|ポーランド| |||<就任>レグニツァ公「ウエニスラフ1世」(~1345年), 「ル1世公正公」(~1346年)

1350迄 (1585件)

- 1342年 00:00|イギリス| |||<死去>リッチモンド伯「ロベール3世・ダルトワ」
- 1342年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド大法官「ウィリアム・デ・ホースコ」⇒「トマス・チャーチス卿」(~1346年)
- 1342年1月8日-09:00|日本| ||<興国2・暦応4年12月>|<任命>越後国守護「上杉憲顕」(~正平6・観応2(1351)年12月解任)直義方
- 1342年1月15日-09:00|日本|茨城県|<興国2・暦応4年12月8日>|高師冬、北畠親房らの拠る常陸の関、大宝両城を攻撃、顕時ら師冬の軍を破る
- 1342年1月21日-02:00|エジプト| |||<即位>ハリー朝スルタン「アル=ナジール=アフマド」(~6.27廃位)
- 1342年1月21日-02:00|エジプト| |||<廃位>ハリー朝スルタン「アル=アシュラフ=アラ=アル=デ=イン=クジク」
- 1342年1月27日-09:00|日本|愛媛県松山市|<興国2・暦応4年12月20日>|忽那一族、北朝方と道後で戦って恵良城に退く
- 1342年1月29日-01:00|フランス| |||<死去>ブルボン公「ルイ1世」
- 1342年1月29日-01:00|フランス| |||<就任>ブルボン公「ピエール1世」(~13560919死去)
- 1342年1月30日-09:00|日本/中国/モンゴル| ||<興国2・暦応4年12月23日>|足利直義(35)、夢窓疎石(66)の要請により天竜寺船を元に派遣
- 1342年2月6日-09:00|日本| ||<興国3・暦応5年>|<解任>越前国守護「斯波高経」
- 1342年2月6日-09:00|日本| ||<興国3・暦応5年>|<交替>伊勢・志摩国守護「高師秋」⇒「仁木義長」(~正平4・貞和5(1349)年)
- 1342年2月6日-09:00|日本| ||<興国3・暦応5年>|<交替>若狭国守護「斯波氏頼」⇒「大高重成」(~正平3・貞和4(1348)年6月7日)
- 1342年2月6日-09:00|日本| ||<興国3・暦応5年>|<交替>備後国守護「細川頼春」⇒「高師泰」(~正平4・貞和5(1349)年)
- 1342年2月6日-09:00|日本| ||<興国3・暦応5年>|<任命>伊賀国守護「千葉貞胤」(~興国2・暦応4(1343)年)
- 1342年2月6日-09:00|日本| ||<興国3・暦応5年>|<任命>備前国守護「細川顕氏」(~観応元・正平5(1350)年8月)
- 1342年2月6日-09:00|日本|福井県福井市|<興国3・暦応5・康永元年>|この年、朝倉慶景、越前国足羽に弘祥寺を建立
- 1342年2月6日-07:00|ベトナム| ||<大越・紹豊2年>|<死去>チャンハ王「制阿難」
- 1342年2月6日-07:00|ベトナム| ||<大越・紹豊2年>|<即位>チャンハ王「茶和布底」(~1360年死去)
- 1342年3月4日-09:00|日本| ||<暦応5年1月27日>|<就任>(北朝)関白「九条道教」(~康永元年11月12日)
- 1342年3月6日-09:00|日本|京都府京都市|<興国3年・暦応5年1月29日>|関山慧玄が妙心寺を創建
- 1342年3月24日-09:00|日本|島根県浜田市|<興国3・暦応5年2月17日>|幕府軍、石見国・小石見城の新田義氏を攻略
- 1342年4月6日-09:00|日本|愛媛県松山市|<興国3・暦応5年3月>|忽那氏一族、湯築城を攻略
- 1342年4月25日-01:00|パチン| |||<死去>第197代ローマ教皇「ハネンティヌス12世」
- 1342年4月25日-09:00|日本|京都府京都市左京区|<興国3・暦応5年3月20日>|法勝寺九重塔焼失/以後再建されなかった
- 1342年5月3日-01:00|リベチンシュタイン| |||<就任>ヴェルデンベルグ伯「ファドゥーツ卿」ハルトマン1世「カガンス」から分離(~13540827没)
- 1342年5月19日-01:00|パチン| |||<就任>第198代ローマ教皇「クレメン6世」(~13521206死去)
- 1342年5月28日-09:00|日本| ||<興国3・暦応5年4月23日>|室町幕府が禅寺の寺格を制定/京都・鎌倉を合わせた八か寺を五山、十か寺を十刹とした(五山十刹の制)
- 1342年6月1日-09:00|日本| ||<興国3・康永1年4月27日>|北朝が「康永」に改元
- 1342年6月4日-09:00|日本| ||<興国3・暦応5年5月>|<任命>伊予国守護「細川頼春」(~観応2・正平6(1351)年2月)
- 1342年6月27日-02:00|エジプト| |||<即位>ハリー朝スルタン「アル=サーリフ=イスマイル」(~13450804死去)
- 1342年6月27日-02:00|エジプト| |||<廃位>ハリー朝スルタン「アル=ナジール=アフマド」
- 1342年6月30日-09:00|日本|島根県浜田市|<興国3年5月27日>|武田軍、石見国大多和外城を攻略
- 1342年7月12日-01:00|イタリア| |||<ヴェネツィア、テラにおける通商をめぐり、ジェノヴァと協約>
- 1342年7月16日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<死去>ハンガリー王「コロチア王「カロイ1世」
- 1342年7月16日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<即位>ハンガリー王「コロチア王「ラヨシュ1世大王」(⇒13701105、兼ホーランド王「ルドヴィク1世」~13820911没)
- 1342年7月22日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|<興国3・康永1年6月19日>|南朝懐良親王(13)、島津貞久(73)を薩摩・谷山で撃破
- 1342年8月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国「ラタイン」代行「ハル・ギ・マルトニ」(3回目~10月)
- 1342年8月12日-01:00|フランス| |||<死去>ブルボン伯「Guy1世」
- 1342年8月12日-01:00|フランス| |||<就任>ブルボン伯「ルイ2世」(~13460826死去)
- 1342年8月15日-01:00|イタリア| |||<死去>シチリア王「ピエトロ2世」
- 1342年8月15日-01:00|イタリア| |||<即位>シチリア王「ルドヴィゴ」(~13551016死去)
- 1342年8月15日-09:00|日本|愛媛県四国中央市|<興国3・康永1年7月14日>|細川頼春(38)、伊予国川之江城を陥れ、ついで南朝軍を同国新居郡千丈原で破る
- 1342年9月4日-02:00|トルコ| |||<即位>トルビズント帝国第16代皇帝ヨハネス3世(~13440503)
- 1342年9月5日-09:00|日本|京都府京都市東山区|<興国3・康永1年8月5日>|山城国法観寺塔完成
- 1342年9月29日 00:00|イギリス| |||<就任>リッチモンド伯「ジョン(オフ・ゴート)」イングラント王「エドワード3世」の息子(~13720625カスティラ王即位)
- 1342年10月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国「ラタイン」「ミクロシュ・ギレトフイ」(~1356年3月没)
- 1342年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「リセウ・ト・ウゲット」「フォスキノ・ド・フィリッポ」

1350迄 (1585件)

- 1342年10月1日-09:00|日本| ||興国3・暦応5年9月|<交替>信濃国守護「吉良満義」⇒「小笠原貞宗」(~正平2・貞和3(1347)年5月26日死去)
- 1342年10月3日-09:00|日本|愛媛県今治市|興国3・康永1年9月3日|<死去>(南朝)伊予国守護「大館氏明」細川頼春に伊予国の世田城を攻め滅ぼされる
- 1342年10月6日-09:00|日本|京都府京都市|興国3・康永1年9月6日|美濃守護・土岐頼遠、京都で光厳上皇(29)の車に矢を射る
- 1342年10月30日-09:00|日本|宮城県栗原市|興国3年・康永元年10月|奥州総大将の石塔義房が、栗原郡三迫の戦いで、南部氏を糾合した北畠顕信軍を破る
- 1342年11月-02:00|ルーマニア/ハンガリー| ||<就任>トランシルヴァニア総督「ミクス・シカイ」(~1344年6月)
- 1342年11月4日-09:00|日本|広島県尾道市|興国3・康永元年10月6日|小早川氏平ら、豊田郡生口島の南朝方を攻略
- 1342年12月10日-09:00|日本| ||康永1年11月12日|<就任>北朝関白「鷹司師平」(~貞和2(1346)年2月29日)
- 1342年12月28日-01:00|イタリア| ||<死去>ヴェネツィア共和国ドージェ第53代「パルメオ・グラーネーゴ」
- 1342年12月29日-09:00|日本|岐阜県|興国3・康永元年12月1日|<死去>美濃国守護「土岐頼遠」有名な「院と言ったか、犬と言ったか」という光厳天皇(当時は上皇)に対する非礼事件で刑死(甥の頼康が継ぐ~元中4・嘉慶元(1387)年12月25日死去)
- 1343年-08:00|インドネシア| ||<即位>テルナトゥスルタン「Tulu Malamo」(~1347年)
- 1343年-08:00|インドネシア| ||ハリ島はガジャマダの派遣軍に敗れ、マジャパヒト王国の直接の支配下に置かれた
- 1343年-05:30|インド| ||<死去>ヒササ朝国王「ハッラー3世」
- 1343年-05:30|インド| ||<即位>カシミールスルタン朝スルタン「Ala' u' din」(~1343年)
- 1343年-05:00|ウズベキスタン| ||<即位>西チャグタイハン国ハンガーン「ハリルの弟」(~1346年)
- 1343年-04:00|ロシア| ||<即位>プロンスク公「ウラジミール・ミトリエフ」(~1372年)
- 1343年-04:00|ロシア| ||<即位>リザン大公「イヴァン・アレクサンドロフ」(~1344年)
- 1343年-03:30|イラン| ||<即位>インジュ朝シャー「アブー・イサーク」(~1357年)
- 1343年-03:30|イラン| ||<即位>サラバタース王「Muhammad Ay Temur」(~1346.8死去)
- 1343年-03:00|サウジアラビア| ||<即位>メッカ・シャリフ「タハ・ブン・ムハイタ・アサド・アル＝ディーン」、「アジュラン・ブン・ムハイタ・イズ・アル＝ディーン」(~1344年3月)
- 1343年-02:00|ギリシャ/セルビア| ||アトスはセルビア帝国の一部(~1371年)
- 1343年-01:00|ドイツ| ||<死去>ザクセン＝ラウエンブルク公ベルゲドルフ＝メルン系「アルブレヒト4世」
- 1343年-01:00|イタリア| ||<死去>フェラーラ侯・エテ辺境伯「ベルトルト1世」
- 1343年-01:00|イタリア| ||<就任>エテ辺境伯「フランチェスコ2世」(~1384年死去)
- 1343年-01:00|フランス| ||<就任>オマル女伯「Blanche of Ponthieu」(~1387年)、オマル伯「John3世」Blancheの夫(~1356年)
- 1343年-01:00|クロアチア| ||<就任>スラヴォニア全土のハン「ミクロシュ・ハンフィ」(~1344年)
- 1343年-01:00|フランス| ||<就任>プロヴァンス伯(アンジュー＝シチリア家)ジャンヌ1世(~1382年)ホーリ女王
- 1343年-01:00|ドイツ| ||<即位>ザクセン＝ラウエンブルク公ベルゲドルフ＝メルン系「ヨハン3世」(~1356年死去)
- 1343年-01:00|スペイン| ||アラゴン王ペドロ4世、バlears諸島を併合
- 1343年-01:00|イタリア| ||ピサ大学設立
- 1343年-01:00|イタリア| ||フィレンツェ、共和国に
- 1343年 00:00|アイルランド| ||<死去>トメント王「ミューチャルタハ・オーブリアン」
- 1343年 00:00|ギリシャ| ||<就任>11代フェスター伯「エドワード・アンジュー(エドワード 黒太子)」先代の長男(~13760608死去)
- 1343年 00:00|アイスランド/デンマーク| ||<就任>アイスランド支配者「グリームル・ソスタインソン」(~1346年)
- 1343年 00:00|チャンネル諸島/ギリシャ| ||<就任>ギリシャ王領ジャージー島守護者「Thomas de Ferriers」(2期目~1347年)、代理「Gautier de Weston」(2期目~1347年)
- 1343年 00:00|アイルランド| ||<即位>トメント王「フライアン・バン・オブリアン」トナル・マック・フライアン・アルド・オーブリアンとマイルド・ニコック・マスカムナの息子(~1350年没)
- 1343年 00:00|ギリシャ| ||イングランドの議会が貴族院と庶民院に分れる
- 1343年 00:00|チャンネル諸島/フランス| ||サーク島はフランスが占領(~1347年)
- 1343年1月1日-02:00|トルコ| ||トルコ・マンビジで地震、死者5千7百人
- 1343年1月4日-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「アントニア・ダンドロ」(~1354年)
- 1343年1月19日-01:00|フランス/ギリシャ| ||ローマ教皇クレメン6世の仲裁により、フランス北西部のマストロワで休戦協定「マストロワ条約」が結ばれ「ブルターニュ継承戦争」が休戦となる
- 1343年1月20日-01:00|イタリア/フランス| ||<死去>ホーリ王「ロベルト」兼プロヴァンス伯「ロベルト」
- 1343年1月20日-01:00|イタリア| ||<就任>カブリア公(ホーリ王の推定相続人の称号)「アントニア・ジヨヴァンナ1世の夫」(~13450918死去)
- 1343年1月20日-01:00|イタリア/フランス| ||<即位>ホーリ王「ジヨヴァンナ1世」兼プロヴァンス伯「ジャンヌ1世」(~13820512死去)
- 1343年1月27日-09:00|日本| ||興国4・康永2年|<任命>伊豆国守護「上杉憲顕」(~興国6・貞和2(1346)年)
- 1343年1月27日-09:00|日本| ||興国4・康永2年|<任命>佐渡国守護「小椋成長」(~不詳)
- 1343年1月27日-09:00|日本| ||興国4・康永2年1月|<死去>甲斐国守護「武田政義」北朝方と戦い戦死
- 1343年3月27日-09:00|日本|熊本県菊池市|興国4・康永2年3月|大友氏泰・合志幸隆、菊池城占領
- 1343年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「フランツォーノ・ド・チロ」「チェッコ・チロ」
- 1343年4月26日-09:00|日本|茨城県筑西市|興国4・康永2年4月2日|春日顕時、関城に赴き結城直朝らを討つ
- 1343年5月-02:00|エストニア/デンマーク| ||<就任>デンマーク・エストニア総督代行「ヘルム・フォン・パレンベク」(~16日)

1350迄 (1585件)

- 1343年5月8日-09:00|日本|広島県尾道市|興国4・康永2年4月14日|三吉覚弁,南朝方の大館右馬亮を因島同崎城に攻め,これを追落
- 1343年5月16日-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「コ・スウィン・フォン・ヘリケ」(~1344年)
- 1343年5月24日-09:00|日本| ||興国4・康永2年5月|<任命>備中国守護「南宗継」(~正平6・観応2(1351)年)
- 1343年6月2日-09:00|日本|広島県尾道市|興国4・康永2年5月10日|因島同崎城主広沢五郎,幕府方に降参
- 1343年6月5日-05:30|インド| |||<建国>ジャハル国
- 1343年6月22日-01:00|イタリア/フランス| |||<死去>サヴォイア伯「アイメーネ」
- 1343年6月22日-01:00|イタリア/フランス| |||<就任>サヴォイア伯「アメーネ6世」(~13830301死去)
- 1343年7月2日-09:00|日本| ||興国4・康永2年6月10日|結城親朝が足利氏に通じ北朝方として挙兵
- 1343年7月8日-01:00|ポーランド| |||ポーランドのカジミェシュ3世が,ドイツ騎士団と休戦し,ポーランドを譲渡
- 1343年8月-05:30|インド| |||<即位>ホイヤ朝「ヴィルハークシャハッタラ4世」
- 1343年8月15日-01:00|ノルウェー| |||<即位>ノルウェー王「ハコン6世マグナソン若王」(~13800911没)
- 1343年8月21日-09:00|日本| ||興国4・康永2年8月|<交替>隠岐国守護「山名時氏」⇒「佐々木導誉(京極高氏)」(~正平2・貞和3(1347)年8月)
- 1343年8月21日-09:00|日本| ||興国4・康永2年8月|<交替>出雲国守護「山名時氏」⇒「佐々木導誉(京極高氏)」(~観応2・正平6(1351)年3月)
- 1343年8月21日-09:00|日本|京都府京都市右京区|興国4・康永2年8月|この月,天竜寺仏殿・山門法堂など相次いでできる
- 1343年9月16日-01:00|スペイン| |||<死去>ナバラ王「フェリペ3世」37歳
- 1343年9月26日-01:00|アントワープ| |||<死去>アントワープ公国共同大公「ワロ伯爵がストン2世」
- 1343年9月26日-01:00|アントワープ| |||<就任>アントワープ公国共同大公「ワロ伯爵がストン3世」(~13910801死去)
- 1343年10月12日-01:00|フランス| |||<死去>ゲルテルン公「ライナルト2世(レイナウト2世)」
- 1343年10月12日-01:00|フランス| |||<即位>ゲルテルン公「ライナルト3世(レイナウト3世)」(~1361年)
- 1343年10月12日-01:00|フランス| |||<就任>ゲルテルン公摂政「エレア」ライナルト2世の妻(~1344年)
- 1343年10月26日-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンテリア公「ピエトロ・ミアニ」(~13450424)
- 1343年11月28日-09:00|日本|茨城県筑西市|興国4・康永2年11月11日|高師冬が関城を落す/関城主・関宗祐切腹/北畠親房(50)、吉野へ帰る
- 1343年11月29日-09:00|日本|茨城県下妻市|興国4・康永2年11月12日|小笠原貞宗(50)、常陸国・大名城を攻略/大寶城主・下妻政泰らは討死/春日顕國・興良親王ら事前に吉野へ脱出
- 1343年11月29日-09:00|日本|茨城県筑西市|興国4・康永2年11月12日|高師冬率いる北朝方に攻められ常陸国・伊佐城(伊達行朝)陥落
- 1343年12月15日-03:30|イラン/イラク/アゼルバイジャン| |||<即位>チヨハン朝第2代国王「アシュラフ・シャイハサン」の弟(~1357年殺害され,チヨハン朝は滅亡)
- 1343年12月19日-09:00|日本| ||興国4・康永2年12月2日|<交替>丹波国守護「仁木頼章」代官荻野朝忠が背く⇒「山名時氏」(~観応2・正平6(1351)年8月)
- 1344年-05:30|インド| |||<建国>ウンチャハラ国
- 1344年-05:30|スリランカ| |||<即位>ガンボラ王国国王「Bhuvanai kabahu4世」(~1353年)、「Parakkamabahu5世」(~1359年)
- 1344年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||<死去>オルタ・ウルス・ハン「Mubarak Khwaja」
- 1344年-05:00|カザフスタン/キルギス/トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||<即位>オルタ・ウルス・ハン「Chimtay」(~1360年死去)
- 1344年-04:00|ロシア| |||<即位>アロンスク公「イヴァン・アレクサンドロヴィチ」(~1351年)
- 1344年-04:00|ロシア| |||<即位>リャザン大公「ヴァシーリ2世アレクサンドロヴィチ」(~1349年~1350年死去)
- 1344年-03:00|エチオピア| |||<死去>エチオピア帝国(ソモソ朝)皇帝「アムダ・セヨン1世」
- 1344年-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソモソ朝)皇帝「ネヤ・ケルスタ」(~1372年死去)
- 1344年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「ステイグット・アンダーソン・チュートン・シュタットホルダー」(~13461101)
- 1344年-01:00|フランス| |||<死去>サンボール伯「ジャン」
- 1344年-01:00|フランス| |||<死去>ハール伯「アンリ4世」
- 1344年-01:00|クロアチア| |||<就任>全スラヴ・オーストリア「ニコラ・セーチ」(~1349年)
- 1344年-01:00|フランス| |||<就任>ヴァロア伯「Philip2世」(~1375年)
- 1344年-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク伯「コンラート1世」(~1367年)
- 1344年-01:00|フランス| |||<就任>サンボール伯「ギヨーム5世」(~1360年死去)
- 1344年-01:00|フランス| |||<就任>ハール伯「エドゥアール2世」(~1352.5死去)
- 1344年-01:00|フランス| |||<即位>オルアン公「フィリップ」フランス王フィリップ6世の息子(~13750901死去)
- 1344年 00:00|イギリス| |||<就任>ストラサン伯「モーリス・ド・モラヴィア」(~13461017死去)
- 1344年1月16日-09:00|日本| ||興国5・康永3年|<交替>越中国守護「井上俊清」⇒「桃井直常」(~正平6・観応2(1351)年8月解任)
- 1344年1月16日-09:00|日本| ||興国5・康永3年|<任命>美作国守護「富田秀貞」(~観応3・正平7(1352)年)
- 1344年1月16日-09:00|日本|京都府京都市下京区|興国5・康永3年|この年,千葉親鸞上人絵伝巻(照願寺)できる
- 1344年1月21日-09:00|日本| ||興国5・康永3年1月6日|<死去>成良親王,皇族(生年1326年)
- 1344年1月30日 00:00|イギリス| |||<死去>ソールズベリー伯「ウィリアム・モンタキュート」
- 1344年1月30日 00:00|マン島| |||<死去>マン王「William1世 de Montacute」
- 1344年1月30日 00:00|イギリス| |||<就任>ソールズベリー伯「ウィリアム・モンタキュート」(~13970603死去)

1350迄 (1585件)

- 1344年1月30日 00:00|マン島| |||<就任>マン王「William2世 Montague」(~13970603死去)
- 1344年1月30日-09:00|朝鮮| ||高麗・至元10年1月15日|<死去>高麗王「忠恵王」
- 1344年2月15日-09:00|日本|兵庫県豊岡市|興国5・康永3年2月|山名時氏、但州三開山城を攻め取る
- 1344年2月21日-09:00|日本|愛知県名古屋市中区|興国5・康永3年2月7日|尾張国真福寺宝生坊
- 1344年3月-03:00|サウジアラビア| |||<復位>メッカ・シャリフ「ルマイ・ブン・アビ・ヌマイ・アサド・アル・ディーン」(~13451018)
- 1344年3月1日-09:00|朝鮮| ||高麗・至元10年2月16日|<即位>高麗王「忠穆王」(~13481225死去)
- 1344年3月29日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ピンヤ王「チョウシ1世」(~13501212)
- 1344年3月29日-01:00|スペイン| |||アラゴン・ナバラ王のペドロ4世が、バlears諸島を再び併合し、マヨルカ王ハイメ2世を廃位
- 1344年4月12日-01:00|イタリア| |||ベネチアでスクォラ・グランデ・ディ・サンタ・マリア・デッラ・カリア設立
- 1344年4月14日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至正4年3月|元で「遼史」成る
- 1344年4月17日-04:00|アルメニア| |||<死去>キキア・アルメニア王国国王「コンスタンティヌス2世」アルメニア諸侯に殺される
- 1344年4月17日-04:00|アルメニア| |||<即位>キキア・アルメニア王国国王「コンスタンティヌス3世」(~13621221死去)
- 1344年4月17日-02:00|トルコ| |||<死去>キキア・アルメニア王国国王「コンスタンティヌス4世」
- 1344年4月17日-02:00|トルコ| |||<即位>キキア・アルメニア王国国王「コンスタンティヌス5世」(~13621221死去)
- 1344年4月20日-09:00|日本|茨城県下妻市|興国5・康永3年3月7日|南朝方・春日顕国が常陸国・大宝城を奪還
- 1344年4月21日-09:00|日本|茨城県下妻市|興国5・康永3年3月8日|幕府軍が常陸国大宝城を再奪回/春日顕著は捕らえられて翌日殺される
- 1344年5月1日-01:00|イタリア| |||<死去>フェララ・モデナ侯「ニコロ1世」
- 1344年5月3日-02:00|トルコ| |||<再位>トレビゾント 帝国第15代皇帝「ミカエル3世」ヨハネス3世の父(~13491213)
- 1344年5月13日-09:00|日本|静岡県焼津市|興国5・康永3年4月|<創建>猪之谷神社(関方)興良親王の従者が姓を加用と改め創立し代々宮守を勤める
- 1344年5月27日-09:00|日本|静岡県榛原郡川根本町|興国5・康永3年4月15日|<造立>智者山権現(本川根藤川)千手観音堂、大檀那鶴彦太郎藤原時長による
- 1344年6月11日-09:00|日本|福井県小浜市|興国5・康永3年5月|若狭守護大高重成、遠敷郡青井の寺院を禅寺に改め、大年法延を開山に招いて高成寺を創建
- 1344年7月-02:00|ルーマニア/ハンガリー| |||<就任>トランシルヴァニア総督「イシュトヴァーン1世ラックワイ」(~1350年)
- 1344年7月11日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヴェルテンベルク伯「ウルリヒ3世」
- 1344年7月11日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヴェルテンベルク伯「エーハルト2世」(~13920315死去)、「ウルリヒ4世」(~13620501退位)共同統治
- 1344年7月11日-09:00|日本| ||興国5・康永3年6月|<任命>関東執事「高重茂」(~正平4・貞和5(1349)年12月)
- 1344年7月13日-09:00|日本|大阪府河内長野市|興国5・康永3年6月3日|河内国歎心寺再建
- 1344年7月14日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事「ラルフ・デ・アフォード 卿」(~13460406没)
- 1344年8月1日-09:00|日本| ||興国5・康永3年6月22日|<死去>丹波忠守(生年1270年/医術、官人、歌人)
- 1344年8月10日-01:00|オーストリア| |||<死去>オーストリア・シュタイアーマルク公(名目のみ)「レオハルト2世」
- 1344年8月30日-01:00|ドイツ| |||<死去>ブラウンシュヴァイク=ヴェルフェンビュッテル及びゲッティンゲン侯「オットー1世」弟であるエルスト1世とマグヌス1世が領地を分割
- 1344年8月30日-01:00|ドイツ| |||<就任>ブラウンシュヴァイク=ヴェルフェンビュッテル侯「マグヌス1世」オットー1世の弟(~1369死去)
- 1344年8月30日-01:00|ドイツ| |||<就任>ブラウンシュヴァイク=ゲッティンゲン侯「エルスト1世」オットーの弟(~13670424死去)
- 1344年10月28日-02:00|トルコ| |||アンリ2世の甥ユーク4世が小アジアのトルコ人からスミュルナ(エゲ 海岸)を奪い取る
- 1344年11月3日-01:00|ベルギー| |||<死去>リエージュ公「アドルフ・ラ・マルク」
- 1344年11月3日-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ公「イングバルト・ラ・マルク」(~1364年)
- 1344年11月18日-09:00|日本|神奈川県横浜市戸塚区|康永3年10月13日|<創建>富士山本門寺(西山本門寺)日代
- 1344年12月6日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至正4年11月|元で「金史」成る
- 1344年12月11日-01:00|オーストリア| |||<死去>オーストリア・シュタイアーマルク公(名目のみ)「フリードリヒ4世」
- 1344年12月25日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ジョバンニ1世ディ・メルタ」(~13500106)
- 1344年12月31日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<死去>ポズナン=シュテッティン公「オットー1世」
- 1344年12月31日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ポズナン=シュテッティン公「バルネム3世大公」(~13680814死去)
- 1345年-04:00|ロシア| |||<死去>ムロム公「ヴァンリー・ヤロスラウイチ」
- 1345年-04:00|ロシア| |||<即位>第16代ムロム公「ユーリー・ヤロスラウイチ」(~1353年)
- 1345年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ポロツク公「アントリウス・アルキルダイトリス」(~1377年)
- 1345年-02:00|ルワンダ| |||<即位>ルワンダ 王国ムツィ「シマールクウェ」(~1378年)
- 1345年-02:00|ギリシャ/セルビア| |||エペロスはセルビアの一部(~1355年)
- 1345年-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク伯「コンラート1世」(~1367年死去)
- 1345年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||<就任>クロアチアとダルマチア・ハン「マイクロシュ1世」(1回目~1346年)
- 1345年-01:00|ポーランド| |||<即位>ラヴァ公がミェシュ1世[チェルスク公](~1349年)
- 1345年-01:00|フランス/イギリス| |||イギリス軍はノルマンディーを一時的に再占領(~1360年)
- 1345年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||ハンガリーによるダルマチアのザラ支配(~1346年7月)
- 1345年-01:00|イタリア| |||ポント・ヴェッキオ完成(イタリア、フィレンツェで最も古い橋)
- 1345年1月8日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|興国5・康永3年12月4日|備前金川城主松田元喬岡上に蓮昌寺を創す
- 1345年1月26日-09:00|日本|京都府京都市中京区|興国5・康永3年12月22日|足利直義第(三条坊門万里小路)焼亡
- 1345年2月-02:00|リトアニア| |||<即位>リトアニア大公「アルキルダス」(~13770502没)、「ケストイティス」(1回目~13770502)

1350迄 (1585件)

- 1345年2月-02:00|リトニア| ||<退位>リトニア大公「ヤスティス」兄のアルギルダスとケストウティスにより
1345年2月3日-09:00|日本| ||興国6・康永4年|<任命>三河国守護「高師兼」(~正平6・観応2(1351)年死去)
1345年2月3日-09:00|日本|茨城県那珂市|興国6・康永4・貞和元年|大拙祖能禅師を開山として、弘願寺創建
1345年2月3日-09:00|日本|奈良県吉野郡吉野町|興国6・康永4年1月|吉野蔵王堂焼失
1345年2月18日-01:00|ポーランド| ||<死去>ラウア公「シェムイト2世」
1345年3月31日-09:00|日本|京都府京都市|興国6・康永4年2月27日|四条堀川-姉小路堀川間の数10町焼亡
1345年4月3日-09:00|日本|京都府京都市下京区|興国6・康永4・貞和元年3月|鎌倉本勝寺を京都六条堀川に移して
本国寺(⇒本圀寺)と改称
1345年4月3日-09:00|日本|熊本県菊池市|興国6・康永4年3月|肥後の菊池武光:合志幸隆が占拠していた深川城を
奪還
1345年4月5日-09:00|日本|島根県雲南市|興国6・康永4年3月3日|出雲の幕府軍、佐々木貞家が籠る屋根山城を攻
略
1345年4月7日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 判事代行「ジョン・モリス卿」(~10日)
1345年4月18日-09:00|日本|広島県尾道市|興国6・康永4年3月16日|尾道浄土寺の阿弥陀堂再興成る
1345年4月24日-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカンテリア公「マルコ・ダ・モリン」(~13470819)
1345年5月-01:00|フランス| ||<即位>ブルターニュ公(カティエンヌ・ド・モンフォール家)ジャン4(5)世征服公「ジャン・ド・モンフォールとジ
ョアンヌ・ド・フランスの1人息子」(~13991101死去59~60歳)
1345年5月31日-09:00|日本|京都府京都市右京区|興国6・康永4年4月29日|<完成>天龍寺<臨済宗天龍寺派大本山>
足利尊氏、夢窓疎石
1345年6月25日-01:00|ポーランド| ||<死去>シフトニツェ公「ヘンリク2世」(生年1316年)
1345年7月22日-01:00|イタリア| ||ベネツィア、ターナでの通商中止
1345年7月30日-09:00|日本| ||興国6・康永4年7月|<任命>奥州管領(尊氏方)「畠山国氏」(~観応2・正平6(1351)年
2月12日自害)
1345年7月30日-09:00|日本| ||興国6・康永4年7月|<任命>奥州管領(直義方)「吉良貞家」(~文和2・正平8(1353)年
12月死去)
1345年8月-01:00|クロアチア/イタリア| ||ベネツィア、ザラで反乱
1345年8月4日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| ||<死去>ハフリー・マムルーク朝スルタン「アル＝サーリフ・イスマイル」
1345年8月4日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| ||<即位>ハフリー・マムルーク朝スルタン「カミル・シャーバン」(~13460918殺害される)
1345年9月18日-01:00|イタリア| ||<死去>カラブリア公(ホーリ王の推定相続人の称号)「アントニア」
1345年9月22日 00:00|イギリス| ||<死去>3代ランカスター伯・3代レスター伯「ヘンリー」
1345年9月22日 00:00|イギリス| ||<就任>4代ランカスター伯・4代レスター伯「ヘンリー(オブ・グロスマント)」「ダーク・ヘー伯(⇒13490820兼リ
ンカン伯⇒13510306初代ランカスター公~13610324死去)
1345年9月26日-01:00|ハンガリー| ||<死去>エノー伯「ギヨーム2世」
1345年9月26日-01:00|ハンガリー| ||<就任>エノー伯「マルグリット2世」(~13560623死去)神聖ローマ皇帝ルートヴィヒ4世と共同統
治(~1347年)
1345年9月27日-09:00|日本| ||康永4・興国6年9月|<解任>奥州総大将「石塔義房」
1345年9月27日-09:00|日本| ||興国6・康永4年9月|<交替>日向国守護「島津貞久」⇒「畠山直顕」(~観応3・正平7(1
352)年)
1345年10月21日-01:00|フランス/イギリス| ||ランカスター伯のイングランド軍が、ガスコニュでフランス軍を破る
1345年11月15日-09:00|日本| ||興国6・貞和元年10月21日|北朝が「貞和」に改元
1345年11月15日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至正5年10月21日|元で「宋史」成る
1345年11月16日-09:00|日本| ||興国6・貞和元年10月22日|彗星出現
1345年12月14日-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| ||<就任>リグアニア騎士団団長「コズウィン・フォン・ヘルケ」(~13590910死去)
1345年12月25日-01:00|イタリア| ||<就任>カラブリア公(ホーリ王の推定相続人の称号)「カルロ・マルテッロ」ジョヴァンナ1世とアント
ニアの子(~13480510死去)
1345年12月25日-09:00|日本| ||興国6・康永4年12月|<交替>安芸国守護「武田信武」退任⇒「武田氏信」(~正平23・
貞治7(1368)年解任)
1346年-07:00|カンボジア| ||<即位>クメール王朝国王「シアン・レアキア」(~1347年)
1346年-05:30|インド| ||ウイジヤナガル王国の皇太子が林圀朝を滅ぼす
1346年-05:00|ウズベキスタン| ||<即位>西チャグタイハン国ハン「ターニシュマント」オコデイの4代孫(~1348年)
1346年-04:00|ジョージア| ||<死去>グルジア国王「ジョージ5世」
1346年-04:00|ロシア| ||<就任>ウゴロト 共和国ノゴロト公「セシオン・イヴァノヴィチ」(~1353年)
1346年-04:00|ジョージア| ||<即位>グルジア国王「ダビデ9世」(~1360年死去)
1346年-03:30|イラン/アフガニスタン| ||<死去>ミフラーニド 朝マリーク「Qutb al-Din Muhammad」
1346年-03:30|イラン| ||<即位>オームス王「Turan Shah」(~1377年)
1346年-03:30|イラン/アフガニスタン| ||<即位>ミフラーニド 朝マリーク「Taj al-Din ibn Qutb al-Din」(~1350年)
1346年-03:00|イェメン| ||<死去>ラッシー朝イマム「アルムライト・ヤヤ・ビン・ハムザー」
1346年-03:00|サウジアラビア| ||<即位>メッカ・シャリフ「アジュランアブルサルジヤ」(~1349年)、「タカバ・ブン・ムルタイ・アサト・アル＝ティン」(~
1349年12月)
1346年-02:00|ギリシャ| ||<即位>アカイア公「ロベルト・デ・イターラント」(~1364年)
1346年-02:00|トルコ| ||<即位>イスファエンディヤリス 君主「Adil・ベイ bin Ya' kub」(~1361年)
1346年-02:00|トルコ| ||<即位>サルハン侯国ベイ「Fahruddin Ilyas・ベイ」(~1362年)

1350迄 (1585件)

- 1346年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||サモス島はジェノヴァの所有 (~1475年)
- 1346年-01:00|ポーランド| |||<再任>レクニツァ公「ウェンセスラウス1世」 (~13640602死去)
- 1346年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||<就任>クロアチアとダルマチア・ハン「マイクロシュ・シイチ・テ・フェルシェント・ウァ」 (1回目 ~1349年)
- 1346年-01:00|ベルギー/フランス| |||<就任>フランドル伯「ルイ2世」 (~1384年)
- 1346年-01:00|ドイツ| |||<就任>レーフェンスベルク伯「ゲルハルト1世」 (~13600518死去)
- 1346年-01:00|チェコ/アルゼビア| |||<即位>ハヴス朝アミール「ウマル2世」 (~1349年)
- 1346年 00:00|アイスランド/デンマーク| |||<就任>アイスランド支配者「ルティ・トルグ・リムソン」 (~1348年没)
- 1346年1月24日-09:00|日本| ||興国6・貞和2年|<任命>伊賀国守護「仁木義長」 (~正平2・貞和3(1347)年)
- 1346年1月24日-09:00|日本| ||興国6・貞和2年|<任命>伊豆国守護「上杉重能」 (~貞和5・正平4(1349)年閏6月7日罷免)
- 1346年1月24日-09:00|日本| ||興国6・貞和2年|<任命>越前国守護「細川頼春」 (~観応元・正平5(1350)年)
- 1346年1月24日-09:00|日本| ||興国6・貞和2年|<任命>遠江国守護「千葉貞胤」 (~同年)
- 1346年1月24日-09:00|日本| ||興国6・貞和2年|<任命>武蔵国守護「高師直」 (~観応2・正平6(1351)年2月26日死去)
- 1346年3月-01:00|フランス/イギリス| |||フランス王フィリップ6世の長子「ルマンティエ公」ジャン(のちのジャン2世)、フランス王軍を率いてフランス南西部の北アキテーヌに侵攻し、イングランド王の拠点ギヨンを含む
- 1346年3月22日-09:00|日本| ||貞和2年2月29日|<就任>(北朝)関白「二条良基」 (~観応2年11月7日北朝は一旦消滅)
- 1346年4月10日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「ロジャーク・ターシー」 (~5.15)
- 1346年4月16日-01:00|アルバニア/ギリシャ/セルビア| |||ステファン・ウシヤンが、スコピエで「セルビア人・ギリシア人・ブルガリア人・アルバニア人の皇帝」として戴冠
- 1346年4月16日-01:00|北マケドニア/セルビア| |||マケドニアはセルビア帝国の一部 (~13711203)
- 1346年5月-02:00|キプロス| |||<就任>聖ヨハネ騎士団マスター「デュト・ネド・ゴゾン」 (~13531203没)
- 1346年5月4日-09:00|日本| ||興国6・貞和2年4月13日|<死去>下野国守護「小山朝氏」 =><就任>弟の「小山氏政」 (~正平3・貞和4(1348)年)
- 1346年5月15日-01:00|ポーランド| |||<死去>グウォグフ公「ハンリ1世 of Jawor」
- 1346年5月15日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ウォルター・デ・バーミンガム」 (~13491219)
- 1346年5月25日-09:00|日本| 石川県羽咋郡志賀町|興国6・貞和2年5月4日|吉見氏頼、井上俊清らの能登木尾城を攻略
- 1346年6月5日-09:00|日本| 広島県廿日市市|興国6・貞和2年5月15日|掃部入道道崇の発願により、「厳島本地絵巻」成る
- 1346年6月20日-09:00|日本| 愛知県西尾市|興国6・貞和2年6月1日|大仏師性慶、三河国願成寺の宝冠釈迦如来坐像を製作
- 1346年7月1日-01:00|クロアチア/イタリア| |||ハンガリー人ザラを放棄したため、再びベネチア支配下に入る (~1358年)
- 1346年7月15日-01:00|イタリア| |||ベネチア、ターナとの通商再開
- 1346年8月-03:30|イラン| |||<死去>サハタース王「Muhammad Ay Temur」
- 1346年8月-03:30|イラン| |||<即位>サハタース王「Kaba Isfendiyar」 (~13479年)
- 1346年8月10日-09:00|日本| 奈良県奈良市|興国6・貞和2年7月23日|興福寺衆徒、東大寺を襲撃
- 1346年8月18日-09:00|日本| ||貞和2・興国7年8月|<交替>九州探題「一色範氏」 =>子の「一色直氏」 (~観応2・正平6(1351)年2月)
- 1346年8月26日-01:00|フランス| |||<死去>シャルトル伯「シャルル2世」
- 1346年8月26日-01:00|フランス/ベルギー| |||<死去>フランドル伯「ルイ1世」・兼ヌヴェール伯・ルテル伯「ルイ2世」
- 1346年8月26日-01:00|フランス| |||<死去>ブワロ伯「ルイ2世」
- 1346年8月26日-01:00|チェコ/ルクセンブルグ| |||<死去>ボヘミア王「ヤン・ルクセンブルスキ」兼ルクセンブルク伯「ヨハン1世」クレシーの戦いでイングランド王エドワード3世の軍勢を相手に奮戦したが戦死
- 1346年8月26日-01:00|フランス| |||<死去>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「ルドルフ」クレシーの戦いで戦死
- 1346年8月26日-01:00|ベルギー/フランス| |||<就任>フランドル伯「ルイ2世」ルイ1世の息子・兼ヌヴェール伯・ルテル伯「ルイ3世」 (~13840130死去)
- 1346年8月26日-01:00|フランス| |||<就任>ブワロ伯「ルイ3世」 (~1372年死去)
- 1346年8月26日-01:00|ルクセンブルグ| |||<就任>ルクセンブルク伯「カール1世」 (~13531115)
- 1346年8月26日-01:00|フランス| |||<即位>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「ジャン1世」 (~13900927)
- 1346年8月26日-01:00|フランス/イギリス| |||フランス北部の港湾都市カレーの南クレシー=アンボントイユ付近で戦われた「クレシーの戦い」で、フランス王フィリップ6世率いるフランスの「重装騎兵」が、イングランド王エドワード3世とその子エドワード黒太子率いるイギリスの「長弓隊」に大敗
- 1346年9月12日-09:00|日本| ||興国7・貞和2年8月26日|<死去>前近江守護「六角時信」 (生年1306年/近江六角氏の当主)
- 1346年9月13日-09:00|日本| 鹿児島県日置市|興国7・貞和2年8月27日|伊集院忠国、再び南朝に応じ薩摩日置若松城を攻略
- 1346年9月18日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<死去>ハフリー・マムルーク朝スルタン「カミル・シャーバーン」殺害される
- 1346年9月18日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>ハフリー・マムルーク朝スルタン「ムザッファル・ハーヅーン」 (~13471210殺害される)
- 1346年10月-02:00|トルコ| |||<死去>ラテン帝国皇帝「カトリヌ2世」

1350迄 (1585件)

- 1346年10月-02:00|トルコ| ||<即位>ラテン帝国皇帝「ロベルト2世」フィリップ2世とカトリヌ2世の息子(~13640910死去)
- 1346年10月17日 00:00|イギリス| ||<死去>3代マリ伯「ジョン・ランドルフ」
- 1346年10月17日 00:00|イギリス| ||<死去>ストラサン伯「モーリス・ド・モラヴィア」
- 1346年10月17日 00:00|イギリス| ||スコットランド王「エドワード2世」がイングランド北部に侵入するが敗北し捕虜となる
- 1346年11月1日-02:00|エストニア/デンマーク| ||<就任>デンマーク-エストニア総督「ブルチャート・フォン・ライレベーン」(~1347年6月)
- 1346年11月1日-02:00|エストニア/デンマーク| ||エストニア公国はデンマークに売却された
- 1346年11月14日-09:00|日本| ||興国6・貞和2年10月|<交替>因幡国守護「吉良貞家」⇒「上総左馬助」(~正平5・観応元(1350)年9月)
- 1346年11月17日-01:00|イタリア/ルセンプルグ| ||ベネチア、ルセンプルグ伯と通商協約
- 1346年11月19日-01:00|モナコ| ||モナコのグリアルデイはマントン(マント)を取得
- 1346年11月21日-01:00|ドイツ/チェコ/イタリア/フランス/スイス| ||<即位>ドイツ王・イタリア王・ボヘミア王・ブルグント王「カール4世」(ルセンプルグ伯「カール1世」/13471011まで対立⇒1350106神聖ローマ帝国皇帝~13781129没)(~13531115)
- 1346年12月22日-09:00|日本| ||興国6・貞和2年11月9日|洞院公賢が風雅和歌集を撰進
- 1347年-08:00|インドネシア| ||<即位>チルチー سلطان「Boehat1世」(~1350年)、「Kie Mabitji」(~1350年)
- 1347年-08:00|インドネシア| ||<即位>パガラン王国マラジャ「アデーティヤヴァアルマン」(~1375年)
- 1347年-07:00|カンボジア| ||<即位>クメール王朝国王「ロムン・リヤヤ」(~1352年)
- 1347年-07:00|タイ| ||<即位>スコタイ王朝国王「マハタンマラーチャー1世リタイ(ルタイ)」クアナムトムの従兄弟(~1368年)
- 1347年-05:45|ネパール| ||<即位>マ王国「Jayaraja Deva」(~1361年)
- 1347年-05:30|スリランカ| ||<即位>ジャファ王国国王「Gunabhooshana Cinkaiariyan」(~1371)
- 1347年-05:00|モルデイヴ| ||<即位>ティムク朝「Sultana Khadijah Raadha Abaarana」(~1363年廃位)
- 1347年-05:00|モルデイヴ| ||<廃位>ティムク朝 Sultan「Ahmed Shihabudine Loka Aadheettha」
- 1347年-03:30|イラン| ||<即位>サラバタース王「Lutf Allah」(~1348年)
- 1347年-03:00|サウジアラビア| ||<即位>メッカ・シャリフ「ムガミス・ブン・ムバイヤ」共同統治(~1349年)
- 1347年-02:00|ルーマニア| ||<就任>トブルジャ支配者「トブローチ」(⇒1367年、専制君主~1386年)
- 1347年-02:00|ルーマニア| ||<就任>モルダヴィア総督「ドラコシュ」建国(~1354年死去)
- 1347年-02:00|トルコ| ||コンスタンチノブルにペストが入り、黒死病の大流行が始まる
- 1347年-01:00|ドイツ| ||<就任>フェルデツツ伯「Henry2世」(~1378年)
- 1347年-01:00|イタリア| ||<即位>トレント司教公「Gerard2世」(~1348年)
- 1347年-01:00|イタリア| ||ジェノバにペストが入り、ヨーロッパ中にひろがりだす
- 1347年 00:00|イギリス| ||<就任>アスター伯(妻の権利による)「ライバル・オブ・アントワープ」(⇒13621113兼フランス公~13681017死去)
- 1347年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ガーンジー-島守護者「Ralph de Harmesthorpe卿」(~1348年)
- 1347年 00:00|マリ/ニジェール| ||<即位>ソンガイ王国国王「イブラヒム・カバイ」(~1354年)
- 1347年1月20日-09:00|日本| ||正平1・貞和2年12月8日|南朝が「正平」に改元
- 1347年1月23日-09:00|日本| 島根県松江市|正平1・貞和2年12月11日|出雲国神魂神社本殿できる
- 1347年1月25日-09:00|日本| ||正平1・貞和2年12月13日|幕府、武士による国司領家年貢の横領・私戦苅田狼藉などを禁じ又守護の越権行為を制す
- 1347年2月8日-02:00|トルコ| ||<即位>コニア帝国皇帝「ヨハネス6世カタケノス」ミカエル・カタケノスの息子とミカエル8世パレオロスの姉「マリア・マルサ・パレオキナ」の孫娘「トラ・パレオキナ・カタケネ」の子、ヨハネス5世パレオロスとの共同統治(~13541204退位~13830615死去)
- 1347年2月11日-09:00|日本| ||正平2・貞和3年|<任命>伊賀国守護「高師冬」(~観応元・正平5(1350)年12月)
- 1347年2月11日-09:00|日本| ||正平2・貞和3年|飛騨守惟久後三年軍絵巻を描く
- 1347年2月11日-09:00|日本| 岐阜県多治見市|正平2・貞和3年|岐阜永保寺開山堂できる
- 1347年2月11日-08:00|中国| ||元・至正7年|<建国>モグリスタン・ハン国(首都アルマリク(現在のケルジヤ、後のトルファン)、ジャグタイ(チャグタイ)・ハン国から分離
- 1347年2月11日-08:00|中国| ||元・至正7年|<即位>モグリスタン・ハン国ハン「トウグル・テムル」(~1363年死去)
- 1347年2月11日-09:00|日本| 滋賀県大津市|正平2・貞和3年1月|足利尊氏の寄進を得て、園城寺新羅善神堂建立
- 1347年2月20日-01:00|イタリア| ||ベネチア、フランスとの航路再び定められる
- 1347年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「フォスキノ・カルチニ」
- 1347年4月10日-09:00|日本| 広島県東広島市|正平2・貞和3年2月29日|豊田郡風早村祝詞山八幡宮の社殿造立
- 1347年4月12日-09:00|日本| ||正平2・貞和3年3月|釈教三十六歌仙絵 できる
- 1347年5月7日-09:00|日本| 香川県小豆郡土庄町|正平2・貞和3年3月26日|備前国小豆島北浦保山百姓弥三郎男、石清水八幡宮領肥土荘淵崎八幡宮神人を殺害。これにより神人蜂起。佐々木信胤、これを鎮撫
- 1347年5月25日-02:00|エジプト/アルメニア| ||マムルーク(エジプト)がアルメニアからアヤス港を奪う
- 1347年5月28日-09:00|日本| 愛知県常滑市|正平2・貞和3年4月18日|大仏師幸賢、尾張国蓮台寺の弥阿上人坐像を製作
- 1347年6月 00:00|イギリス| ||<死去>サリ伯「ジョン・ド・ワレン」
- 1347年6月 00:00|イギリス| ||<就任>サリ伯「リチャード・フィッツアラン」アランデル伯(~13760124死去)
- 1347年6月20日-01:00|フランス/イギリス| ||イングランド王「エドワード3世」、フランス北西部のブルターニュでの戦い「ラ・ロシュ・テリアンの戦い」で、シャルロット・ブワ(「ブワ伯」シャルル)を捕虜とする/シャルロット・ブワは「ロンドン塔」に9年間幽閉される
- 1347年7月5日-09:00|日本| 長野県|正平2・貞和3年5月26日|<死去>信濃国守護「小笠原貞宗」子の政長が継ぐ(~観応2・正平6(1351)年1月解任)

1350迄 (1585件)

- 1347年7月7日-01:00|ドイッ/オランダ| |||<死去>クレフェ伯「テートリヒ8世」
1347年7月7日-01:00|ドイッ/オランダ| |||<就任>クレフェ伯「ヨハン」(~1368年)
1347年7月10日-09:00|日本|京都府京都市東山区|正平2・貞和3年6月2日|一条経通、東福寺仏殿を建立
1347年7月11日-09:00|日本|香川県小豆郡小豆島町|正平2・貞和3年6月3日|淡路守護細川師氏、淡路・阿波・讃岐・備前4か国の兵を率い、小豆島の佐々木信胤を攻め、佐々木信胤降伏
1347年7月27日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|正平2・貞和3年6月19日|薩摩・大隅・日向の幕府軍が島津貞久(78)の薩摩谷山の陣に合流、南朝軍と戦い敗れた
1347年8月3日-05:30|インド| |||<建国>ハフマニ王国(~1527年)
1347年8月3日-05:30|インド| |||<即位>ハフマニ朝初代スルタン「アラー・ウッデーン・ハフマン・シャー」(~13580211死去)
1347年8月3日-01:00|フランス/イギリス| |||フランス王軍、フランス北部の港湾都市カレーの「開城」でイギリスに敗北/カレーは占領され、1558年までイングランド領となる
1347年8月7日-09:00|日本| ||正平2・貞和3年7月|<死去>忠房親王(生年1285年、皇族)
1347年8月10日-01:00|フランス| |||<就任>アルト伯「Philip1世」(~13611121死去)
1347年8月15日-01:00|フランス| |||<死去>ブルゴニウ女伯「ジャンヌ3世」(生年1308年、ブルゴニウ公ウード4世の妃)
1347年8月15日-01:00|フランス| |||<就任>ブルゴニウ伯(カペ系ブルゴニウ家)フリッポ1世[ブルゴニウ公ジャンヌ3世とウードの孫](~13611121死去)
1347年8月20日-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンテア公「マルコ・コナー」(~13481125)
1347年8月28日-09:00|日本|福島県伊達郡国見町|正平2・貞和3年7月22日|吉良貞家・畠山国氏・石塔義房ら、南朝軍の陸奥藤田城を攻略
1347年9月6日-09:00|日本| ||正平2・貞和3年8月|<交替>隠岐国守護「佐々木導誉(京極高氏)」⇒「山名時氏」(~観応2・正平6(1351)年8月)
1347年9月9日-02:00|ラトヴィア/エストニア| |||<死去>リガ大司教・リガラント公「エンゲルベルト・フォン・レーン」
1347年9月15日-09:00|日本|和歌山県橋本市|正平2・貞和3年8月10日|楠木正行(21) 拳兵し隅田城を攻め落とす
1347年9月28日-01:00|フランス/イギリス| |||フランス王フリッポ6世、「ローマ教皇庁」の斡旋でイングランド王エドワード3世と再び「休戦」
1347年9月29日-09:00|日本|大阪府大阪狭山市|正平2・貞和3年8月24日|楠木正行(21)、細川顕氏と河内池尻で戦い撃破
1347年10月 00:00|モロッコ/チュニジア| |||マリン朝スルタンのアフー・アルハサンがチュニスを占領
1347年10月5日-09:00|日本| ||正平2・貞和3年9月|<任命>和泉国守護「高師泰」(~貞和5(1349)年8月)
1347年10月11日-01:00|ドイッ/オーストリア/イタリア/フランス/スイス| |||<死去>神聖ローマ皇帝・イタリア王・ブルグント王・ハイルン公「ルートヴィヒ4世」(誕生1287年)
1347年10月11日-01:00|ドイッ| |||<即位>ドイッ国王ギンター(シュヴァルツブルク家)[カール4世の対立王](~1349年死去)
1347年10月11日-01:00|ドイッ/オーストリア| |||<即位>ハイルン公「グィルヘルム1世」ルートヴィヒ4世の4男(⇒1349年下ハイルン公⇒1353年下ハイルン=シュトラウビング公~13890415死去)、「アルブレヒト1世」(⇒1349年下ハイルン公⇒1353年下ハイルン=シュトラウビング公~14041213死去)、「シュテファン2世」ルートヴィヒ4世の次男(⇒1349年下ハイルン公⇒1353年下ハイルン=ランツフト公⇒上ハイルン公兼下ハイルン=ランツフト公~13750513死去)、「ルートヴィヒ5世」ルートヴィヒ4世の長男(⇒1349年上ハイルン公~13610918死去)、「オットー5世」ルートヴィヒ4世の6男(⇒1349年上ハイルン公~1351年譲位)、「ルートヴィヒ6世」ルートヴィヒ4世の3男(⇒1349年下ハイルン公~1351年譲位)
1347年10月13日-09:00|日本|大阪府八尾市|正平2・貞和3年9月9日|楠木正行の軍、河内八尾城を攻撃/細川顕氏、畠山国清、六角佐々木氏頼らに勝利
1347年10月19日-01:00|ドイッ| |||<死去>マルク伯「アドルフ2世」
1347年10月19日-01:00|ドイッ| |||<就任>マルク伯「エンゲルベルト3世」(~1391年死去)
1347年10月21日-09:00|日本|大阪府藤井寺市|正平2・貞和3年9月17日|<藤井寺の戦い>室町幕府軍=北朝の足利尊氏の派遣した討伐軍(細川顕氏)を河内国藤井寺・教興寺で南朝の楠木正行が奇襲し勝利
1347年10月24日-09:00|日本|愛知県安城市|正平2・貞和3年9月20日|僧きやうけい、三河国本證寺の慶円上人坐像を造立
1347年11月15日-01:00|アンドラ| |||<死去>ウルジエイ伯「James1世」毒殺される
1347年11月15日-01:00|アンドラ| |||<就任>ウルジエイ伯「Peter2世」(~1408.6死去)
1347年11月28日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「キルメイナム修院長ジョン・ラルチャー」(~13480426)
1347年12月10日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<死去>ハフリー・マムルーク朝スルタン「ムザッファル・ハッヅ」殺害される
1347年12月10日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>ハフリー・マムルーク朝スルタン「ナシール・ハサン」(~13510821廃位)
1347年12月15日-01:00|イタリア| |||ローマ市政改革の指導者コラティエリエンツォが民衆の離反で退位し、ローマから逃亡
1347年12月28日-09:00|日本|大阪府大阪市天王寺区|正平2・貞和3年11月26日|<住吉合戦>南朝方の楠木正行(21)、山名時氏(44)・細川顕氏を摂津住吉・天王寺で破る
1348年-06:30|ミャンマー| |||<死去>ペーグー王「ヒンニャー・エーロー」
1348年-06:30|ミャンマー| |||<即位>ペーグー王「ヒンニャー・ウー」(~13840102没)
1348年-05:30|スリランカ| |||<死去>ジャナ王国国王「Martanda Cinkaiariyan」
1348年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>東チャガタイハン国ハン・トゥグルク・テムル[トウアの子エミル・ホジヤの落胤](~1363年);<即位>西チャガタイハン国ハン・ハヤン・クリ[トウアの子ソガトの子](~1358年)
1348年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<死去>シルヴァンシャー朝国王「Keykubad1世」
1348年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<即位>シルヴァンシャー朝国王「Kavus1世」(~1372年死去)
1348年-03:30|イラン| |||<死去>ハバント朝太守「Hasan2世」

1350迄 (1585件)

- 1348年-03:30|イラン| |||<即位>サラハダース王「Khwaja Tadj ad-Din Ali」(~1353年)
- 1348年-02:00|ギリシャ/スペイン| |||<死去>アテネ公「シヨアン2世」
- 1348年-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ハチュ・パシヤ」(~1349年)
- 1348年-02:00|エストニア/ドイツ| |||<就任>リガのオエのレグアル司令官「ヒルデブラント・フォン・レンテ」(~同年)⇒「アーノルト・フォン・ヴァーイーテングホフ」(~1349年)
- 1348年-02:00|トルコ| |||<即位>アイトゥン侯国ベイ「Khidr b. Mehmed」(~1360年)
- 1348年-02:00|ギリシャ/スペイン| |||<即位>アテネ公「フェデリコ1世」(~1350711死去)
- 1348年-02:00|トルコ| |||<復位>カラマニ朝ベイ「Bedreddin1世 Ibrahim Bey」(~1349年)
- 1348年-02:00|エジプト| |||エジプトでペストがこの年から7年間にわたって大流行(カハの死者は90万人)
- 1348年-02:00|ギリシャ/セルビア| |||エピロス、テッサリアはセルビア王国に併合される(~1355年)
- 1348年-01:00|ベルギー| |||<就任>ベルク伯「ゲルハルト」(~1360年)
- 1348年-01:00|ドイツ| |||<昇格>メクレンブルク侯⇒メクレンブルク公「アルブレヒト2世偉大公」(⇒1352年メクレンブルク=シュヴァーエリン公~13790218死去);「ヨハン1世」ハインリヒ2世の息子(⇒1352年メクレンブルク=シュタル公~1393年)
- 1348年-01:00|アルジェリア| |||<即位>サイヤン朝スルタン「アブー・サイード・ウスマン2世」,「アブー・タヒド1世」(~1352年退位、マリノ朝支配~1359年)
- 1348年-01:00|イタリヤ| |||<即位>トレント司教公「John3世」(~1349年)
- 1348年-01:00|ドイツ| |||ドイツにペストの大流行が波及し、王国の人口の3分の1を奪う
- 1348年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Robert Wyvill」+「Thomas de Clifford」(~13490526)
- 1348年 00:00|モロッコ| |||<即位>マリノ朝スルタン「アブー・イサーン・ファリス」(~1358年)
- 1348年1月2日-09:00|日本| ||正平2・貞和3年12月|<交替>河内国守護「細川顕氏」⇒「高師泰」(~貞和5(1349)年5月)
- 1348年1月2日-09:00|日本| ||正平2・貞和3年12月|<交替>和泉国守護「細川顕氏」⇒「高師泰」(~貞和5(1349)年8月)
- 1348年1月25日-01:00|オーストリア| |||オーストリアで地震(M6.8)、死者1万人。ケルン州フィラハの町が壊滅、オーストリア史上最大の地震
- 1348年1月31日-09:00|日本| ||正平3・貞和4年|<交替>能登国守護「吉見頼隆」⇒「吉見氏頼」(~貞和4年(1349)10月)
- 1348年1月31日-09:00|日本| ||正平3・貞和4年|<任命>下野国守護「高師直」(~正平6・観応2(1351)年)
- 1348年1月31日-09:00|日本| ||正平3・貞和4年|<任命>肥後国守護「一色直氏」(~正平8・文和2(1353)年)
- 1348年1月31日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・至元14年|高麗・忠穆王が死去
- 1348年1月31日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至正8年|元、台州(浙江臨海)の方国珍、海上で乱を為す
- 1348年2月2日-03:00|ベラルーシ| |||<死去>ピンスク公「ナリマンタス」
- 1348年2月2日-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ピンスク公「Mikalajus Narimantaitis」(~不詳)
- 1348年2月4日-09:00|日本|大阪府四條畷市|正平3・貞和4年1月5日|<四條畷の戦い>足利方高師直軍が北上する楠木正行軍と河内國四條畷に対峙/楠木軍は足利方の圧倒的な兵力の前に敗れ、正行(22)は弟の正時と刺し違えて自決
- 1348年2月23日-09:00|日本|奈良県吉野郡吉野町|貞和4;正平3年1月24日|高師直は、南朝の本拠吉野を攻略/後村上天皇(20)はじめ南朝は賀名生に逃れる
- 1348年2月27日-09:00|日本|奈良県吉野郡吉野町|正平3・貞和4年1月28日|高師直が南朝の皇居を攻撃/吉野行宮や蔵王堂など堂塔を焼払う
- 1348年3月-01:00|イタリヤ| |||ヴェネツィアで大ペスト始まり住民の4分の3死亡
- 1348年3月1日-09:00|日本| ||正平3・貞和4年2月|<交替>但馬国守護「吉良貞家」⇒「今川頼貞」(~翌年11月)
- 1348年3月8日-09:00|日本| ||正平3・貞和4年2月8日|吉野より帰還途上の高師直軍を南朝軍が攻めて破る/佐々木道誉(42)戦傷、その子佐々木秀宗は戦死
- 1348年3月11日-09:00|日本|奈良県御所市|正平3・貞和4年2月11日|大和国の伏見・高天両寺が北朝方の軍により焼かれる
- 1348年3月17日-02:00|ラトビア/エストニア| |||<就任>リガ大司教・ラント公「フロムホルト・フォン・ヴァン・イェムローゼン」(~13691228死去)
- 1348年4月3日-01:00|ドイツ| |||<死去>ベルク伯「アドルフ9世」
- 1348年4月3日-01:00|ドイツ| |||<就任>ベルク伯「ゲルハルト6世」ラーフェンベルク伯(~13600518死去)
- 1348年4月4日-09:00|日本| ||正平3・貞和4年3月5日|<隠居>長門国守護「厚東武実」息子の武村が継承(~貞和5・正平4(1349)年4月)
- 1348年4月29日-09:00|日本|香川県丸亀市|正平3・貞和4年4月1日|忽那義範、南朝軍に応じ讃岐塩飽島を攻略する
- 1348年5月7日-01:00|チェコ| |||カール4世が、プラハにアルプス以北の帝国地域で最初の大学を創設
- 1348年5月10日-01:00|イタリヤ| |||<死去>カラブリア公(ホーリ王の推定相続人の称号)「カロ・マルテッロ」
- 1348年5月22日-01:00|アルバニア/イタリヤ| |||<死去>テュラツツ公・クラウ・イナ伯「カロ(シャル)」
- 1348年5月22日-01:00|アルバニア| |||<就任>テュラツツ公「シヨヴァンナ(ジャンヌ)」(~1368年3月)
- 1348年6月9日-01:00|イタリヤ| |||<死去>アンブロージョ・ロレンツェッティ(生年1290年頃、イタリヤの画家)
- 1348年6月13日-01:00|アンドラ| |||<就任>アンドラ公国共同大公「ウルヘルム教コライ・ホルチ」(~13501217)
- 1348年6月20日-09:00|日本| ||正平3・貞和4年5月23日|<死去>淡路国守護「細川師氏」子の氏春が継ぐ(~元中4・嘉慶元年10月19日(13871130)死去)
- 1348年6月25日-01:00|ドイツ| |||<死去>ハートン・ハートン辺境伯「ルトルフ4世」

1350迄 (1585件)

- 1348年6月25日-01:00|ドイツ| |||<就任>ハ-テン=ハ-テン辺境伯「フリートリヒ3世」(~13530902死去)、「ルトル75世」(~13610828死去)
- 1348年7月4日-09:00|日本| ||正平3・貞和4年6月7日|<解任>若狭国守護「大高重成」将軍の勸気を受け所領所職を没収される
- 1348年7月14日-09:00|日本| ||正平3・貞和4年6月17日|<任命>若狭国守護「山名時氏」(~観応2・正平6(1351)年)
- 1348年8月6日-09:00|日本|愛知県一宮市|正平3・貞和4年7月11日|滅宗宗興、尾張国妙興寺を創建
- 1348年8月19日-09:00|日本| ||正平3・貞和4年7月24日|風雅和歌集、雑・神祇・釈教の三部できる
- 1348年8月20日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト=ヘルンブルク侯「Bernhard3世」
- 1348年8月20日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト=ヘルンブルク侯「Bernhard4世」(~13540628死去)
- 1348年8月20日 00:00|イギリス| |||<死去>ヘンブルック伯「ロレンス・ヘイステイングス」
- 1348年8月20日 00:00|イギリス| |||<就任>ヘンブルック伯「ジョン・ヘイステイングス」(~13750416死去)
- 1348年9月1日-09:00|日本|和歌山県有田郡有田川町|正平3・貞和4年8月8日|足利直冬、紀伊国に到って南朝軍と戦い、阿瀬河城を攻略
- 1348年9月11日-09:00|日本| ||正平3・貞和4年8月18日|<交替>豊後国守護「大友氏泰」隠居⇒弟の「大友氏時」(~貞治3・正平19(1364)年隠居)
- 1348年10月2日 00:00|イギリス| |||<死去>ソールズベリー女伯・リンカン女伯「アリスト・レイシー」
- 1348年10月18日-01:00|イタリヤ/トルコ| |||ウエネツィア、トルコとの条約、トルコ、エジプトから艦隊撤収
- 1348年11月18日-09:00|日本| ||正平3・貞和4年10月27日|<譲位>北朝2代「光明天皇」
- 1348年11月18日-09:00|日本| ||正平3・貞和4年10月27日|<踐祚>北朝3代「崇光天皇」/正平4年12月26日即位~13511107
- 1348年11月25日-02:00|ギリシャ/イタリヤ| |||<就任>ウエネツィアのカンテア公「マリノ・グマリニ」(1回目~13500917)
- 1348年12月2日-09:00|日本| ||正平3・貞和4年11月11日|<死去>花園法皇/52歳(誕生:永仁5(1297)0725)95代天皇
- 1348年12月25日-09:00|朝鮮| ||高麗・至元14年12月5日|<死去>高麗王「忠穆王」
- 1349年-08:00|インドネシア| |||<即位>サム・ラーハサイ王国第5代スルタン「サウラル・アビディン1世」(~1406年)
- 1349年-04:00|ロシア| |||<即位>プスコフ公「エウスタフ・フォートロフイチ」(~1356年)
- 1349年-03:00|イェメン| |||<死去>ラッシー朝イマム「アフマド・ヒン・アリ・アルファシ」
- 1349年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマム「アルワシク・アルムター」アルマティ・ムハンマドの息子⇒「アルマティ・アリ・ヒン・ムハンマド」(~1372年死去)
- 1349年-02:00|ブルガリア| |||<死去>第二次ブルガリア帝国皇帝「イワン・アッシン4世」
- 1349年-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「シハスティン・ファキユスフ・ハシヤ」(~1364年)
- 1349年-02:00|トルコ| |||<即位>アイユーブ朝(ヒン・カイファ)アミール「Salih Abu-Bakr Khalil1世」(~1378年)
- 1349年-02:00|トルコ| |||<即位>カラマニ朝ベイ「Fahreddin Ahmed Bey」(~1350年)
- 1349年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ガリチ公「カン・ミシユ3世」ホーランド王(~13701105死去)
- 1349年-02:00|トルコ| |||<即位>トレビズント帝国皇帝「アレクシオス3世」(~1390年)
- 1349年-02:00|ギリシャ| |||<即位>モリス専制公「ヌシル・カンタケンズ」(~1380年)
- 1349年-02:00|ルーマニア/モルダヴィア| |||ルーマニア人のボグダニア(後のモルダヴィア)公国ができる
- 1349年-01:00|ポーランド| |||<就任>カウグフ公「ハンリ5世 of Iron」(~13690408死去)
- 1349年-01:00|スペイン| |||<就任>サルタニャ伯「James4世」(~13750120死去)
- 1349年-01:00|フランス| |||<就任>ブルゴニユ伯「フィリップ1世」(~1361年)
- 1349年-01:00|チェコ| |||<就任>モラヴィア辺境伯「ヤン・インツフ(ヨハ・ハインリヒ)」ホーミア王の次男(~13751112死去)
- 1349年-01:00|ポーランド| |||<即位>チェルスク公・ワルシャワ公「シモグイト3世」カシミエシュ1世の兄弟(~1370年)
- 1349年-01:00|イタリヤ| |||<即位>トレント司教公「Meinhard von Neuhaus」(~1362年)
- 1349年-01:00|スペイン| |||<即位>ナバラ王国(イェール家)国王カルロス2世[フェリペ3世とアラナ2世の男子](~13870101死去54歳)
- 1349年-01:00|チェンブリア/アルジェリア| |||<即位>ハフス朝アミール「アフマド1世アル・ムタワキル」(~同年)
- 1349年-01:00|ポーランド| |||<即位>ワルシャワ公カシミエシュ1世(~13551126死去、領地はマゾフシェに再統合)
- 1349年-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<領土分割>ハイルン公「ウイヘルム1世」⇒下ハイルン公(⇒1353年下ハイルン=シュトラウベング公~13890415死去);「アルブレヒト1世」⇒下ハイルン公(⇒1353年下ハイルン=シュトラウベング公~14041213死去);「シュテファン2世」⇒下ハイルン公(⇒1353年下ハイルン=ランツワート公⇒上ハイルン公兼下ハイルン=ランツワート公~13750513死去);「ルトウイヒ5世」⇒上ハイルン公(~13610918死去);「オット5世」⇒上ハイルン公(~1351年譲位);「ルトウイヒ6世」⇒下ハイルン公(~1351年譲位)
- 1349年-01:00|アルバニア/ギリシャ/セルビア| |||セルビア王国トウシヤン法典を發布して国家の基本法を完成
- 1349年 00:00|イギリス| |||イングランドで労働者勅令が發布
- 1349年1月7日-09:00|日本|広島県福山市|正平3・貞和4年12月18日|安芸国明王院五重塔できる
- 1349年1月20日-09:00|日本|京都府京都市右京区|正平4・貞和5年|夢窓国師画像(無等周位の筆、天龍寺)できる
- 1349年1月24日-01:00|イタリヤ| |||<死去>ミラノ・シニョレ「ルキノ・ウイコンティ」
- 1349年1月24日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ミラノ・シニョレ「ジョハニ・ウイコンティ」ルキノ・ウイコンティ1世の兄(~13541005死去)
- 1349年1月30日-01:00|ドイツ/オーストリア/イタリヤ/フランス| |||<即位>神聖ローマ帝国対立皇帝「ギュンター・フォン・シュヴァルツブルク」(~5.24退位)
- 1349年2月-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ6世、「マジヨル王家」に1万2千エキュ(コイン名、図柄の「盾」の意)を支払い、南フランスの都市モンペリエを手に入れる

1350迄 (1585件)

- 1349年3月-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ6世、「ド・フィネ侯」アンベール2世からフランス南東部の「ド・フィネ侯領」を購入(20万リブルと終身年金1万8千リブルで)
- 1349年3月16日-09:00|日本|京都府京都市東山区|正平4・貞和5年2月27日|<焼失>清水寺
- 1349年3月20日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年3月|<交替>備後国守護「高師泰」⇒「足利直冬」(~10月)
- 1349年4月-06:30|ミャンマー| |||<即位>ザガイン王「ナウタ・ミンニ」(~11月)
- 1349年4月2日-09:00|日本|京都府京都市上京区|正平4・貞和5年3月14日|<焼失>将軍足利尊氏邸[京都土御門東洞院]
- 1349年4月18日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年4月|<交替>石見国守護「上野頼兼」⇒「大平義尚」(~観応元(1350)年6月)
- 1349年4月18日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年4月|<交替>長門国守護「厚東武村」⇒「足利直冬」(~9月)
- 1349年4月18日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年4月|<任命>長門国守護(足利直義により)「長井高広」(~1351年)
- 1349年4月28日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年4月11日|<任命>中国探題「足利直冬」(~8月)
- 1349年4月30日-09:00|日本|沖縄県|元・至正9年4月13日|<死去>琉球国王「西威」滅亡
- 1349年5月18日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年5月|<交替>河内国守護「高師泰」⇒「畠山国清」(~観応2(1351)年7月)
- 1349年5月18日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年5月|<任命>伊勢・志摩国守護「石塔頼房」(~観応2(1351)年8月)
- 1349年5月24日-01:00|ドイツ/オーストリア/イタリア/フランス| |||<退位>神聖ローマ帝国対立皇帝「ギユスター・フォン・シュヴァルツブルク」
- 1349年5月26日 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Jean de Mautravers」(~1354年)
- 1349年6月17日-09:00|日本|和歌山県有田郡有田川町|正平4・貞和5年6月1日|和歌山護念寺十六羅漢像できる
- 1349年6月27日-09:00|日本|京都府京都市西京区|正平4・貞和5年6月11日|<京都四条河原勸進田楽の棧敷席倒壊事故>京都四条橋建立の勸進(募金)のため、四条河原で田楽(中世に流行した舞踊)興行が催されたが、余りにも多く観客が詰めかけ、とつぜん三階建ての棧敷が将棋倒しとなり100人余の死亡者を出す
- 1349年7月18日-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ6世、フランス南東部の「ド・フィネ侯領」を長子「ルナンテール公」ジャン(翌年フランス王ジャン2世となる)の子シャルル(のちのシャルル5世)に贈る
- 1349年7月22日-09:00|日本| |||貞和5・正平4年閏6月7日|<交替>伊豆国守護「上杉重能」罷免⇒「高氏」(~正平6・観応2(1351)年)
- 1349年7月22日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年閏6月7日|<交替>周防国守護「大内長弘」⇒「上総左馬介」(~正平5・貞和6(1350)年2月)
- 1349年7月30日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年閏6月15日|<解任>室町幕府執事「高師直」
- 1349年7月30日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年閏6月20日|<任命>室町幕府執事「高師世」(~同年8月)高師泰の息子、尊氏・直義の従兄弟
- 1349年8月11日-09:00|朝鮮| |||高麗・至元15年7月27日|<即位>高麗王「忠定王」(~13511026廃位)
- 1349年8月20日 00:00|イギリス| |||<就任>リカン伯「アンリ(オヴ・グロモント)」4代リカン伯・4代リスター伯・ダートマス伯(⇒13510306初代リカン伯公~13610324死去)
- 1349年9月9日-01:00|イタリア| |||イタリア・サントエリアで地震(M6.7)、死者2千5百人
- 1349年9月11日-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ6世の長子「ルナンテール公」ジャン(のちのジャン2世)の王太子妃ボンスド・リュカヴァール、黒死病(ペストの一種)で死去(1315~、34歳)
- 1349年9月13日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年8月|<交替>和泉国守護「高師泰」⇒「畠山国清」(~観応2(1351)年7月)
- 1349年9月25日-09:00|日本|京都府京都市|正平4・貞和5年8月13日|高師直が足利直義(43)襲撃を計り、直義は尊氏第にのがれる
- 1349年9月26日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年8月14日|高師直の要求により、足利尊氏(44)は直義(43)の政務停止
- 1349年9月27日-09:00|日本|福井県|正平4・貞和5年8月15日|幕府、上杉重能・畠山直宗を越前に配流
- 1349年10月3日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「ジョン・テ・カリー卿」(~12.19)
- 1349年10月3日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年8月21日|<再任>室町幕府執事「高師直」(~正平6・観応2(1351)年2月26日)僧疎石(74)の調停により
- 1349年10月6日-01:00|スペイン/フランス| |||<死去>ナバラ王・モテン伯「アナ2世」37歳
- 1349年10月6日-01:00|スペイン/フランス| |||<即位>ナバラ王「カルロス2世」フェリペ3世とアナ2世の男子(~13870101死去54歳)
- 1349年10月21日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正平4・貞和5年9月9日|<任命>鎌倉公方「足利亀若丸」(9, 足利尊氏次子⇒基氏) (~貞治6(1367)年4月26日死去)/鎌倉へ下向、関東十ヶ国を支配(後に陸奥国・出羽国も管轄)
- 1349年10月22日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年9月10日|<交替>長門国守護「足利直冬」⇒「厚東武村」(~観応元・正平5(1350)年9月)
- 1349年10月22日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年9月10日|中国探題足利直冬、高師直方の軍勢に破れ、四国から九州へ西走
- 1349年10月25日-01:00|スペイン| |||<即位>マヨルカ王「ジャウメ4世」僭称(~13750120)
- 1349年11月-06:30|ミャンマー| |||<即位>ザガイン王「タレヒヤ2世」(~13520223)
- 1349年11月11日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年10月|<交替>能登国守護「吉見氏頼」⇒「桃井盛義」(~正平6・観応2(1351)年10月)
- 1349年11月11日-09:00|日本| |||正平4・貞和5年10月|<交替>備後国守護「足利直冬」⇒「大平義尚」(~翌年6月)
- 1349年11月18日-01:00|ドイツ| |||<死去>テューリンゲン方伯・マイトン辺境伯「フリードリヒ2世」

1350迄 (1585件)

- 1349年11月18日-01:00|ドイツ| |||<就任>テューリンゲン方伯・マイセン辺境伯「ヴイルヘルム1世」(~1382年)、「フリートリヒ3世」フリートリヒ2世の長男(~13810521死去);テューリンゲン方伯「ハルツォーグ」(~1406年)
- 1349年12月-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「アジュランアブ・ルサルジャ」(~1352年)
- 1349年12月2日-09:00|日本| ||正平4・貞和5年10月22日|足利義詮が鎌倉から京へ帰る/以後、直義に代って政務をとる
- 1349年12月13日-02:00|トルコ| |||<即位>トレビゾンテ帝国第17代皇帝「アレクシオス3世」(~13900320)
- 1349年12月19日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「トマス・ド・ロウキエー卿」(1回目~13550820)
- 1349年12月22日-09:00|日本|茨城県|正平4・貞和5年11月12日|上杉能憲(17)、常陸に挙兵
- 1349年12月26日-01:00|チェコ| |||<就任>モラヴィア辺境伯「ヤン・ジントリヒ」(~13751112没)
- 1349年12月26日-01:00|チェコ| |||<退任>モラヴィア辺境伯「カレル」(~13781129死去)
- 1349年12月29日-09:00|日本| ||正平4・貞和5年11月19日|<任命>筑後国守護(足利直冬方)「詫磨宗直」(~同年)
- 1350年-08:00|インドネシア| |||<即位>スダガラ王国マハラジャ「Prabu Maharaja Lingga Buana/ Prabu Wangi」(~1357年)
- 1350年-08:00|インドネシア| |||<即位>テルナテ・スルタン「Ngolo-ma-Kaya」(~1357年)
- 1350年-08:00|インドネシア| |||<即位>マジャパヒト王国国王「ハヤム・ウルク」トリブワナの息子(1389年死去)
- 1350年-07:00|タイ| |||<即位>アユタヤ王朝初代国王「ラマティボデー1世(ウーソ王)」(~1369年死去)
- 1350年-05:30|インド| |||<建国>ベングール国
- 1350年-05:30|インド| |||ハフマン・シャーがランカールに侵入
- 1350年-04:00|ロシア| |||<即位>リザン大公「オレグ2世ウァノグイチ」(~1371年~1402年死去)
- 1350年-03:30|イラン/アフガニスタン| |||<即位>ミラハニド朝マリーク「Jalal al-Din Mahmud」(~1352年死去)
- 1350年-02:00|ルーマニア/ハンガリー| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ステファン」(~1351年2月)
- 1350年-02:00|トルコ| |||<即位>カラマニ朝ベイス「Semseddin Bey」(~1352年死去)
- 1350年-01:00|フランス| |||<就任>オーペルニュ伯「John2世」Joan1世の2番目の夫(~1360年)
- 1350年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||<就任>クロアチアとダルマチア・ハン「パヴ・アウガル」(~同年)⇒「シュテファン1世ラウフィ」(~1352年)
- 1350年-01:00|ドイツ| |||<就任>ホルシュタイン＝ブレンボロ伯「ヨハン3世」(~1359年ホルシュタイン＝キールに併合)
- 1350年-01:00|クロアチア| |||<就任>ホルヴィツァ公「トラスヨエ(カメンガラートの領主)」
- 1350年-01:00|チュニジア/アルジェリア| |||<即位>ハフス朝アミール「イブラヒム2世アル・ムスタシル」(~1369年)
- 1350年-01:00|オランダ| |||ブレダはワッセナーに売却
- 1350年 00:00|アイルランド| |||<死去>トモント王「フライアン・ハン・オ・ブリアン」
- 1350年 00:00|アイスランド/デンマーク| |||<就任>アイスランド支配者「オラフル・ビヤルナーソン」(~1354年没)
- 1350年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド大法官「ウィリアム・コルトウェル」(~1352年)
- 1350年 00:00|イギリス| |||<就任>スタッフォード伯「Ralph Stafford」(~13720831死去)
- 1350年 00:00|アイルランド| |||<即位>トモント王「デアムイト・マック・トイルド」ルバツハ・オ・ブリアンの息子(~1360年没)
- 1350年 02:00|グリーンランド/ノルウェー| |||<就任>グリーンランド知事「Ivar Bardarsson」
- 1350年1月9日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ジヨハンニ2世ヴァレンテ」(~13531008)
- 1350年1月9日-09:00|日本| ||正平4・貞和5年12月|<交替>但馬国守護「今川頼貞」⇒「上杉朝房」(~観応元・正平5(1350)年7月28日)
- 1350年1月14日-09:00|日本|福井県福井市|正平4・貞和5年12月6日|上杉重能、畠山直宗が配流先から百騎ばかりで、越前国足羽荘を攻撃
- 1350年1月16日-09:00|日本| ||正平4・貞和5年12月8日|足利直義(43)出家し恵源と号す
- 1350年1月19日-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ6世、18歳の「サヴァル王家」のブランシュ・ド・ナヴァールと再婚
- 1350年1月28日-09:00|日本|福井県|正平4・貞和5年12月20日|師直の命で八木光勝によって上杉重能、畠山直宗を越前にて殺害
- 1350年2月-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ6世の長子で王太子(ドーフアン)の「ルマルデュー公」ジャン(のちのジャン2世)、「オーヴェルニュ伯」故キヨム12世の娘ジャンヌ・ド・ブローニュ(ジャンヌ・ド・ヴェルニュ)と再婚
- 1350年2月7日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||高麗・至元16年|倭寇がこの年からにわかに活発化し高麗の沿海を侵す
- 1350年2月7日-09:00|日本|沖縄県|元・至正10年|<即位>琉球中山国王「察度」(~13951117(洪武28年10月5日)死去)
- 1350年2月8日-09:00|日本| ||正平5・貞和6・観応元年|<任命>土佐国守護「高定信」(~正平6・観応2(1351)年)
- 1350年2月8日-09:00|日本| ||正平5・貞和6・観応元年|<任命>肥前国守護「一色直氏」(~観応3・正平7(1352)年)
- 1350年2月10日-09:00|日本| ||正平5・貞和6年1月3日|<任命>関東執事「高師冬」(~正平6・観応2(1351)年1月17日死去)高重茂(師直の弟)と交代/もう1人の関東執事上杉憲顕(直義派、尊氏・直義の従兄弟)
- 1350年2月18日-09:00|日本|兵庫県|正平5・貞和6年1月11日|<死去>播磨国守護「赤松則村」(範資が継ぐ~正平6・観応2(1351)年4月8日死去)
- 1350年2月22日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|正平5・貞和6年1月15日|大和国法隆寺の正藏院が火災となる
- 1350年3月9日-09:00|日本| ||正平5・貞和6年2月|<交替>周防国守護「上総左馬助」⇒「河野通盛」(~文和元・正平7(1352)年9月)
- 1350年3月25日-09:00|日本| ||正平5・貞和6年2月17日|<任命>伊予国守護「河野通盛」(~文和3・正平9(1354)年)
- 1350年3月26日-01:00|スペイン| |||<死去>レオン国王・カスティーリヤ国王「アルフォンソ11世正義王」黒死病で(誕生1311年)

1350迄 (1585件)

- 1350年3月26日-01:00|スペイン| |||<即位>カスティーリヤ国王「ハド・1世残酷王」(~13660313退位)兼レオン国王(~13690323死去)
- 1350年4月3日-01:00|フランス| |||<死去>ブルゴニユ公「ウート4世」
- 1350年4月3日-01:00|フランス| |||<即位>ブルゴニユ公「フィリップ1世」(~13611121死去)
- 1350年4月4日-09:00|日本| ||正平5;観応元年2月27日|北朝が「観應」に改元
- 1350年5月00:00|ポルトガル| |||<死去>ハルセロス公「Pedro Afonso」
- 1350年5月00:00|ポルトガル| |||<就任>ハルセロス公「Afonso Teles de Meneses」(~13560126死去)
- 1350年5月7日-09:00|日本| ||正平5;観応元年4月|<交替>丹後国守護「山名時氏」⇒「上野頼兼」(~観応2・正平6(1351)年9月3日死去)
- 1350年5月14日-09:00|日本| ||正平5;観応元年4月8日|<死去>吉田兼好(67)(誕生:弘安6(1283))「徒然草」を著した
- 1350年5月27日-09:00|日本| ||正平5;観応元年4月21日|玄恵追悼の歌集「玄恵追悼詩歌」を直義の勸進で完成
- 1350年6月7日-09:00|日本|大分県|正平5;観応元年5月2日|豊前の南朝方新田・土岐氏ら挙兵
- 1350年7月3日-09:00|日本|広島県東広島市|正平5;観応元年5月28日|安芸の南朝方吉岡山形ら挙兵/武田氏信が安芸国西条郷に南朝方の吉岡小五郎ら籠っていた城を攻める
- 1350年7月6日-09:00|日本|広島県安芸高田市|正平5;観応元年6月2日|武田氏信が吉田荘に籠っていた北条相模治部権少輔、毛利備中守親衡らをも攻めた/2人は寺原城、与谷城へ逃げて立て籠る
- 1350年7月12日-09:00|日本|広島県山県郡|正平5;観応元年6月8日|武田軍、山県郡道祖多尾で毛利親衡・山形為継らと合戦・寺原・与谷の両城を落とす
- 1350年7月25日-09:00|日本| ||正平5・観応元年6月21日|<交替>石見国守護「大平義尚」⇒「高師泰」(~観応2・正平6(1351)年2月26日死去)
- 1350年7月25日-09:00|日本| ||正平5・観応元年6月21日|<交替>長門国守護「厚東武村」⇒「高師泰」(~観応2・正平6(1351)年2月)
- 1350年7月25日-09:00|日本| ||正平5・観応元年6月21日|<交替>備後国守護「大平義尚」⇒「高師泰」(~観応2・正平6(1351)年2月26日死去)
- 1350年8月3日-09:00|日本|岐阜県|正平5;観応元年7月|土岐周斎が美濃で挙兵、近江に迫る
- 1350年8月5日-09:00|日本|広島県山県郡|正平5;観応元年7月2日|石見国の直冬党、大朝新荘に打入るが、吉川実経・綿貫孫七らに追落される
- 1350年8月14日-09:00|日本| ||正平5;観応元年7月11日|北条相模治部権少輔、毛利備中守親衡らの与党が拠っていた猿喰山城も落とされる
- 1350年8月22日-01:00|フランス| |||<死去>フランス王「フィリップ6世」フランス北部のドル近郊のクワロン大修道院で(1293年~、56歳)
- 1350年8月22日-01:00|フランス| |||<即位>フランス国王「ジャン2世善良王」フィリップ6世の子(~13640408)
- 1350年8月31日-09:00|日本| ||観応元・正平5年7月28日|<交替>但馬国守護「上杉朝房」⇒「今川頼貞」(~観応2・正平6(1351)年3月24日)
- 1350年9月3日-09:00|日本| ||正平5・観応元年8月|<交替>備前国守護「細川顕氏」⇒「松田信重」(~貞治3・正平19(1364)年4月)
- 1350年9月15日-09:00|日本|島根県|正平5;観応元年8月13日|出雲の佐々木信濃五郎佐衛門尉ら、直冬に応じ挙兵
- 1350年9月22日-01:00|ドイツ| |||<死去>ホルシュタイン公「ゲルハルト5世」
- 1350年9月22日-09:00|日本|岐阜県|正平5;観応元年8月20日|足利義詮(20)・高師直ら、美濃を平定し京都に帰る
- 1350年9月24日-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエ公「ピエトロ・グラティニコ」(~13520815)
- 1350年9月29日-09:00|日本|京都府京都市|正平5;観応元年8月20日|土岐周済は六波羅地蔵堂焼野で処刑
- 1350年10月2日-09:00|日本| ||正平5;観応元年9月|<交替>因幡国守護「上総左馬助」⇒「今川頼貞」(~文和元・正平7(1352)年8月)
- 1350年10月19日-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>フィリップ・ド・リア、サント・イシドール島に上陸
- 1350年10月29日-09:00|日本| ||正平5;観応元年9月28日|筑前・豊前・対馬守護少式頼尚(尊氏の九州からの逆転を助けた)が直冬方へ/直冬が頼尚の娘婿に
- 1350年11月1日-09:00|日本| ||正平5;観応元年10月|豊後守護大友氏泰が直冬方へ
- 1350年11月16日-09:00|日本| ||正平5;観応元年10月16日|<観応の擾乱>足利直義の子息の足利直冬が九州で反高師直挙兵(~1352)
- 1350年11月20日-09:00|日本|富山県氷見市|正平5;観応元年10月20日|越中守護桃井直常(直義派)の軍勢蜂起、氷見湊を攻撃
- 1350年11月25日-09:00|日本| ||正平5・観応元年10月25日|<任命>鎮守府将軍「足利直冬」(~不詳)
- 1350年11月26日-09:00|日本|奈良県奈良市|正平5;観応元年10月26日|<観応の擾乱>足利直義は不和の尊氏と決別し、この日京都を逃れて大和国に赴き南朝と和を結んで師直と対抗する
- 1350年11月28日-09:00|日本|奈良県奈良市|正平5;観応元年10月28日|<観応の擾乱(足利尊氏・直義兄弟の不和)>足利尊氏、足利直冬追討のため高師直らを率いて京都を発す
- 1350年11月30日-09:00|日本|高知県土佐市|正平5;観応元年11月|讃岐守護細川顕氏(直義派)が派遣した内嶋弥六が土佐守護高定信の代官佐脇太郎入道の高岡荘松風城を攻撃
- 1350年11月30日-09:00|日本|広島県尾道市|正平5;観応元年11月|江見道源、東寺領因島に乱入し、押領
- 1350年12月2日-09:00|日本| ||正平5・観応元年11月3日|<観応の擾乱>足利直義、師直・師泰討伐のため挙兵
- 1350年12月5日-09:00|日本|京都府京都市|正平5・観応元年11月6日|土岐周済の弟、右衛門蔵人が京都に潜伏して

1350迄 (1585件)

いるのを、佐々木道誉配下の武将が発見して討つ

1350年12月11日-09:00|日本|茨城県稲敷郡阿見町|正平5; 観応元年11月12日|室町幕府と対立する上杉能憲(17)、常陸信太庄で挙兵

1350年12月12日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ピンヤ王「チョウヌ2世」(~13590319)

1350年12月14日-09:00|日本|香川県|正平5; 観応元年11月15日|尊氏軍に従軍していた細川顕氏(讃岐守護)、直義方に寝返る/分国である讃岐へ逃れた

1350年12月18日-09:00|日本|石川県|正平5; 観応元年11月19日|能登国では桃井直信(直常の弟)と桃井盛義(能登守護: 尊氏派)が激しく交戦開始

1350年12月20日-09:00|日本|滋賀県|正平5; 観応元年11月21日|近江国では下賀、高山、小原一族が直義方として挙兵

1350年12月21日-09:00|日本|奈良県生駒市|正平5; 観応元年11月22日|大和国生駒山で伊勢・志摩守護石塔頼房が直義方として挙兵

1350年12月23日-01:00|フランス| |||フランス王ジャン2世(フィリップ6世の子、善良王)、「シャンパ^ン-ニュ伯領」を寵臣シャル・デ^ス-ニュに与える

1350年12月25日-09:00|日本|島根県浜田市|正平5; 観応元年11月26日|高師泰が石見国三隅城から安芸国に撤退

1350年12月26日-09:00|日本|滋賀県甲賀市|正平5・観応元年11月27日|上野直勝(直義派)が河内国石川城を出発して近江に進入、大原荘内油日城麓善応寺で挙兵